

一般国道8号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書 17

丘江遺跡 IV 第5次調査

2019

新潟県教育委員会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道8号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書 17

おかえ
丘江遺跡 IV 第5次調査

2019

新潟県教育委員会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

新潟県教育員会は、国道建設などの道路事業に伴う発掘調査を行っており、その成果を発掘調査報告書として公表してまいりました。本書は一般国道8号柏崎バイパス建設に伴い実施した、柏崎市丘江遺跡の発掘調査報告書です。

一般国道8号は新潟市を起点とし、日本海沿いに北陸地方を縦断し、京都に至る総距離561.2kmの主要幹線道路です。新潟県と北陸地方及び京阪地方を結び、新潟県の産業・経済・文化の交流と発展に大きな役割を果たしています。

しかし、現在の柏崎市域では市街化の進展及び交通需要の増加に伴い、慢性的な交通混雑を引き起こしているのが現状です。柏崎バイパス建設事業は、このような問題を解決し、広域地域との交流を促進すること、安全で円滑な交通を確保すること、都市機能を活性化することなどを目的に計画されました。

丘江遺跡は弥生時代後期・平安時代・鎌倉時代・室町時代に営まれた遺跡で、今回の調査区では、平安時代の溝・井戸・畑作溝、鎌倉時代から安土桃山時代の水田などが発見されました。

今回の報告書が、地域の歴史を解明する資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と知識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御協力と御援助を頂いた、柏崎市教育委員会、柏崎市ならびに地元住民の方々、発掘調査報告書から報告書刊行に至るまで格別の配慮を賜りました国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所に対して厚く御礼申し上げます。

2019年3月

新潟県教育委員会

教育長 池田 幸博

例　　言

- 1 本書は、新潟県柏崎市田塚3丁目ほかに所在する丘江遺跡第5次発掘調査の発掘調査記録であり、新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団が刊行する丘江遺跡の4冊目の発掘調査報告書であることから『丘江遺跡IV』とする。
- 2 発掘調査は一般国道8号柏崎バイパスの建設に伴い、国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所（以下、国交省）から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。
- 3 発掘調査は県教委が主体となり、公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に依頼した。
- 4 埋文事業団は、掘削作業等を株式会社吉田建設見附支店に委託して、2017年度に発掘調査を実施した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して県教委が新潟県埋蔵文化財センターで保管している。
- 6 調査成果の一部は、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成29年度』で公表しているが、本書をもって正式な報告とする。
- 7 遺物の注記は、調査年（西暦下二桁）+丘江遺跡の略記号「オカエ」とし、出土地点や層位を併記した。
- 8 本書の図中で示す方位は、すべて真北である。
- 9 掲載遺物の番号は、種別にかかわりなく通し番号とした。本文・観察表・図面図版・写真図版の番号は一致している。
- 10 引用文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。ただし、第VI章 自然科学分析については、各項の末尾に記載した。
- 11 自然科学分析は、株式会社バレオ・ラボに委託し、結果を第VI章に掲載した。
- 12 造構図のトレース及び各種図版作成・編集は不二出版に委託した。デジタルトレースとDTPソフトによる編集を行い、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 13 本書の執筆は、春日真実（埋文事業団普及・資料課長）、阿部 司・高柳俊輔（株式会社吉田建設 調査員）があたり、編集は春日が担当した。執筆分担は以下のとおりである。
 - 第I章 阿部 司・春日真実
 - 第II・III・IV・VII章 阿部 司
 - 第V章 高柳俊輔
 - 第VI章 森 将志（株式会社バレオ・ラボ）
- 14 図書館等（著作権法第31条第1項に規定する図書館をいう。）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

目 次

| | |
|---------------------|----|
| 第Ⅰ章 序 説 | 1 |
| 1 調査に至る経緯 | 1 |
| 2 調査経過 | 3 |
| A 試掘確認調査 | 3 |
| B 本発掘調査 | 3 |
| 3 調査体制 | 4 |
| A 試掘確認調査 | 4 |
| B 本発掘調査 | 4 |
| 4 整理作業 | 5 |
| 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 | 6 |
| 1 地理的環境 | 6 |
| 2 歴史的環境 | 8 |
| 第Ⅲ章 調査の概要 | 10 |
| 1 グリッドの設定 | 10 |
| 2 基本層序 | 10 |
| 第Ⅳ章 遺 構 | 12 |
| 1 概 要 | 12 |
| 2 上 層 | 12 |
| 3 中 層 | 13 |
| 4 下 層 | 16 |
| 第Ⅴ章 遺 物 | 20 |
| 1 概 要 | 20 |
| 2 上 層 | 20 |
| 3 中 層 | 21 |
| 4 下 層 | 21 |
| 第VI章 自然科学分析 | 23 |
| 1 花粉分析 | 23 |
| 2 植物珪酸体分析 | 28 |

| | |
|-----------|----|
| 第VII章 まとめ | 33 |
| 1 遺物 | 33 |
| 2 遺構 | 33 |
| 《引用・参考文献》 | 35 |
| 《観察表》 | 37 |

挿図目次

| | | | |
|---------------------------------------|----|------------------------------------|----|
| 第 1 図 柏崎バイパスの法線と遺跡の位置 | 1 | 第 7 図 基本土層図 | 11 |
| 第 2 図 柏崎バイパスと遺跡の位置 | 2 | 第 8 図 丘江遺跡における花粉分布図 | 25 |
| 第 3 図 調査区及び試掘確認調査トレンチ位置と 本発掘調査対象範囲 | 3 | 第 9 図 丘江遺跡から産出した花粉化石と 土壤サンプルの位置 | 27 |
| 第 4 図 柏崎周辺の地形 | 7 | 第 10 図 丘江遺跡の植物珪酸体分析結果 | 30 |
| 第 5 図 周辺の古代・中世の遺跡 | 9 | 第 11 図 丘江遺跡から産出した植物珪酸体 | 31 |
| 第 6 図 グリッド配置図 | 10 | | |

表目次

| | | | |
|---------------------|----|-----------------------|----|
| 第 1 表 周辺の古代・中世遺跡一覧表 | 9 | 第 4 表 产出花粉・孢子一覧 | 26 |
| 第 2 表 須恵器胎土の分類 | 20 | 第 5 表 分析試料一覧（植物珪酸体分析） | 28 |
| 第 3 表 分析試料一覧（花粉分析） | 23 | 第 6 表 丘江遺跡の植物珪酸体分析結果 | 29 |

図版目次

【図面図版】

- 図版 1 調査区位置図
- 図版 2 上層全体図
- 図版 3 上層分割図 1
- 図版 4 上層分割図 2
- 図版 5 上層分割図 3
- 図版 6 上層分割図 4
- 図版 7 上層個別図
- 図版 8 中層全体図
- 図版 9 中層分割図 1
- 図版 10 中層分割図 2
- 図版 11 中層個別図 1
- 図版 12 中層分割図 3
- 図版 13 中層分割図 4
- 図版 14 中層個別図 2
- 図版 15 下層全体図
- 図版 16 下層分割図 1
- 図版 17 下層分割図 2
- 図版 18 下層個別図 1
- 図版 19 下層分割図 3
- 図版 20 下層分割図 4
- 図版 21 下層個別図 2
- 図版 22 上層・中層・下層の遺物
- 図版 23 下層の遺物

【写真図版】

- 図版 24 遺跡近景・基本層序
- 図版 25 上層調査区全景
- 図版 26 畑 12001 ~ 12004、作業風景（上層）
- 図版 27 SD12001、畑 12005 ~ 12008（上層）
- 図版 28 中層調査区全景、畑 12016、P12020
SD12022・12025
- 図版 29 畑 12017・12028・12023・12024・
12026 ~ 12028（中層）
- 図版 30 畑 12030 ~ 12035・12040・12041（中層）
- 図版 31 下層調査区全景、SK12070、SE12049
- 図版 32 P12081、SD12050・12051・12053 ~
12056、畑 12052（下層）
- 図版 33 SD12053・12057・12058・12060・
12065・12067 ~ 12069（下層）
- 図版 34 畑作溝（SD12073 ~ 12079）、SD12071・
12073・12074・12076（下層）
- 図版 35 畑 12052・12066・12082、SD12072・
12083・12085・12086、河 12089（下層）
- 図版 36 上層・中層・下層の遺物
- 図版 37 下層の遺物

第Ⅰ章 序 説

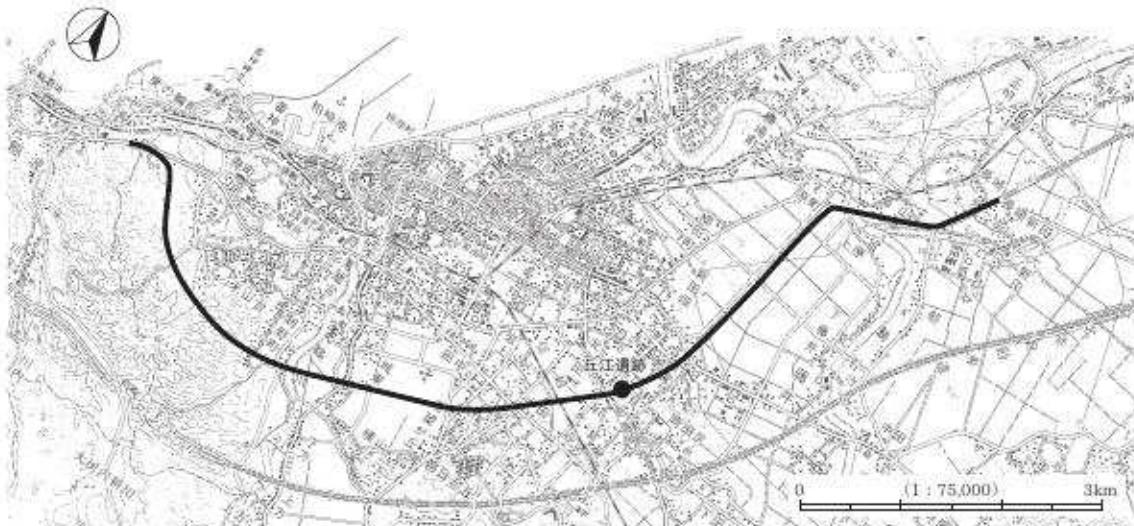
1 調査に至る経緯

一般国道8号柏崎バイパスは、柏崎市長崎を起点に同市鰐波に至る延長11.0kmの幹線道路である。柏崎市内の円滑な交通の確保と、広域幹線ネットワークの強化を目的に計画され、1987（昭和62）年度に事業化された。1991（平成3）年度から用地買収、1993（平成5）年度から工事に着手し、整備が進められている。

国土交通省（以下、国交省）は新潟県教育委員会（以下、県教委）に柏崎市東原町から茨目間の分布調査を依頼し、県教委の委託を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（現公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団、以下、埋文事業団）が2002（平成14）年7月に実施した。その結果、対象地域の広範囲で古代・中世・近世の遺物が採取でき、遺跡の存在する可能性が高いことから、道路法線のほぼ全域について試掘調査が必要であると県教委に報告した。

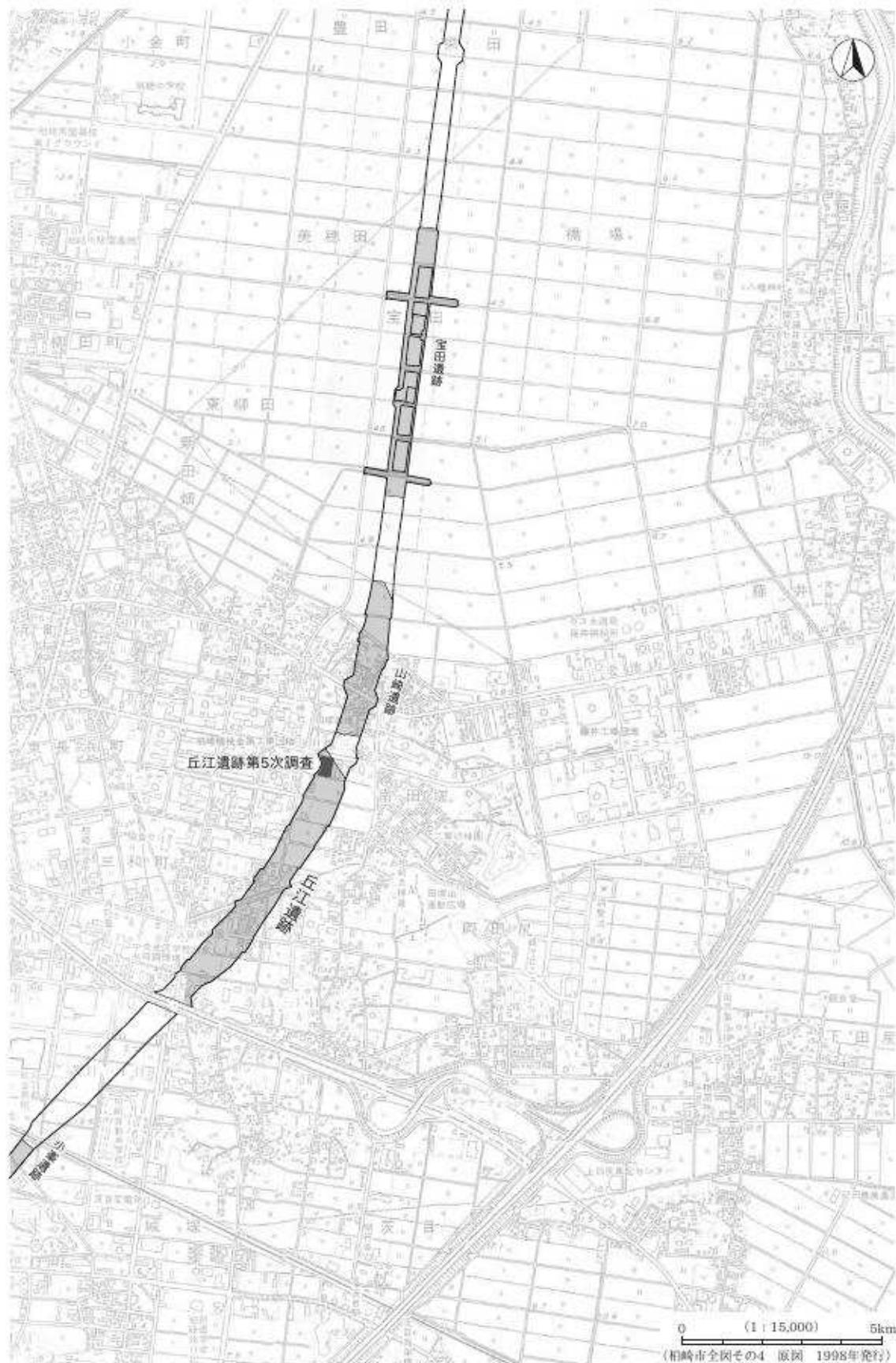
丘江遺跡に係る試掘確認調査は、埋文事業団が2012（平成24）年10・11月に、県教委が2013（平成25）年7・8月、2014年（平成26）年7月に、計73,909m²を対処に実施した。その結果、下層から弥生時代後期から古墳時代前期の遺構・遺物が、上層から中世・近世の遺構・遺物が検出された。そのため、小字名をとり丘江遺跡として新規登録し、下層19,970m²、上層54,467m²、延べ74,437m²、について本発掘調査（以下、本調査）が必要となった。

2018年度に「平成29年3月29日付け国北整長調第166号」で国交省から県教委に丘江遺跡第5次調査などの本調査の依頼があり、県教委は「平成29年3月29日付け教文第1485号の2」で埋文事業団に本調査の実施を依頼した。



第1図 柏崎バイパスの法線と遺跡の位置
(国土地理院発行「柏崎」「岡野町」1:50,000を縮小)

1 調査に至る経緯



第2図 柏崎バイパスと遺跡の位置

2 調査経過

A 試掘確認調査

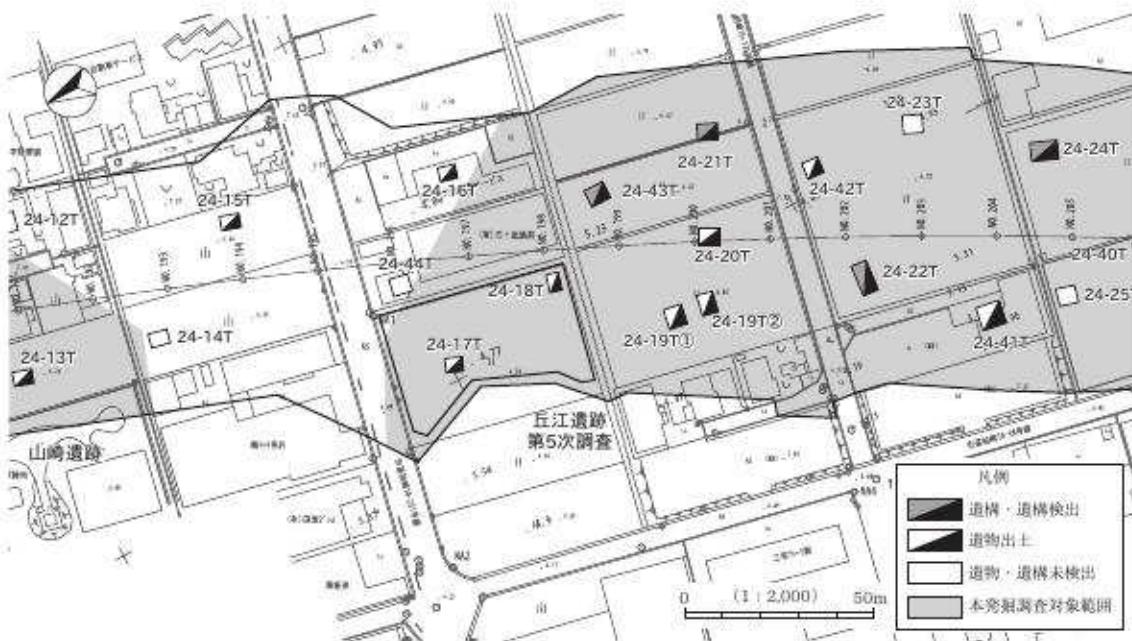
本報告部分の試掘調査は2012（平成24）年10月1～19日、11月12～16日に実施した。調査方法は調査範囲内に任意トレンチを設定し重機及び人力による掘削を行い、遺構・遺物の有無を確認した。17トレンチからは近世以降の河跡や遺物包含層が2層確認され、磁器及び古代～中世の土器が出土した。また、18トレンチからも遺物包含層が確認され、弥生末～古墳前期の小片や甕の口縁部高杯などが出土した。これらの調査結果を受け本調査が必要であると判断された。

B 本発掘調査

調査は重機により遺構検出面まで掘削し、遺構検出・遺構掘削を行った。遺構掘削は基本的に土坑やピット等は2分割で溝や畦畔は土層観察用のベルトを設定した。また、畦畔はトレンチを設定し一部畦を断ち割り断面の形状を記録した。平面図及び断面図は基本的に1/20で作成した。写真は遺構の断面や完掘状況をさらに必要に応じ検出状況の撮影を行った。また、高所作業車を使用し、上層・中層・下層の全景を撮影した。上層及び下層はラジコンヘリによる空中撮影を行った。遺物は層ごとに取り上げ遺構外出土遺物は層及び小グリッドごとに取り上げた。

本発掘調査は2017（平成29）年8月3日～12月21日に実施した。試掘確認調査の結果を受け24-17・18T周辺東西約30m、南北約50mの約1100m²が調査対象地区となった。調査に先立ち北端に東西約30m、深さ1.2mの暗渠を設置した。

表土掘削はまず現地表面から重機で上層の遺構検出面まで掘り下げた。排土は調査区東側に仮置きした。遺構検出や遺構掘削時の排土はベルトコンベアを使用し調査区外へ搬出した。また、必要に応じ土層観察を兼ねた排水用の開渠を設置し暗渠に接続させ排水を行った。



第3図 調査区及び試掘確認調査トレンチ位置と本発掘調査対象範囲（国交省提供設計図を改変）

3 調査体制

表土の掘削は9月5日から開始した。排土は調査区東側中央部分にスロープを設置しダンプカーで搬出した。表土掘削に並行して調査区北側から遺構検出を行った。IIb層上面が遺構検出面である。上層では畦や近世以降の溝が検出された。上層の遺構の検出及び掘削終了後10月11日に空中撮影や高所作業車による全景写真的撮影を行った。空中撮影は主に中判カメラと35mmフィルムカメラで行い補完的にデジタルカメラでの撮影も行った。写真撮影終了後平面図を作成し上層の調査を終了した。

上層の調査時トレントによりIIIb層上面で水田の畦畔を確認した。そのため上層調査終了後10月13日より重機によりIIb層を掘削しIIIb層で遺構検出及び遺構掘削を行った。IIIb層が遺構検出面である中層からは畦畔や数条の溝、ピットが検出された。中層の遺構掘削終了後は高所作業車により調査区の全景等を撮影し平面図を作成し中層の調査を終了した。

中層の調査終了後は再び重機によりIIIb層を掘削した。また、調査区北西部分5・6Kグリッドの西側及び5・6LグリッドのIIIb層で多数の遺物の出土が確認されたため、下層の遺構検出面であるIV層まで人力で掘削を行った。遺構検出は人力で掘削した部分から開始し、その後重機によりIIIb層掘削終了部分から順次行った。IV層が検出面である下層では調査区南端部分から調査区を縦断するように幅約1.0m長さ約25.0mの自然流路や井戸、土坑、溝、ピット等が確認された。遺構掘削終了後ラジコンによる空中撮影及び高所作業車により調査区の全景写真的撮影を行った。撮影終了後遺構の平面図や基本土層図を作成した。また、土壤分析のためのサンプリングを行った。調査終了後図面や写真等の確認を行い、12月15日調査を終了した。その後、埋め戻しやフェンス、プレハブ等の撤去作業を行い、1月15日に現地での作業を終了した。

3 調査体制

A 試掘確認調査

試掘・確認調査は以下の体制で行った。

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 高井盛雄）

調査 財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

総括 木村正昭（事務局長）

管理 熊倉宏二（総務課 課長）

庶務 伊藤 忍（総務課 班長）

調査総括 北村 亮（調査課 課長）

調査担当 渡邊裕之（調査課 試掘確認担当課長代理）

調査職員 朝岡政康（調査課 主任調査員）

B 本発掘調査

本発掘調査は以下の体制で行った。

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 池田幸博）

調査 公益財團法人新潟県埋蔵文化財事業団

統括 清野一善（事務局長）

管理 松田 祐（総務課 課長）

庶務 星野美奈（総務課 班長）
調査統括 沢田 敦（調査課 課長）
調査担当 春日真実（調査課 課長代理）
支援組織 株式会社 吉田建設
現場代理人 小川昭二（土木部 課長）
調査員 阿部 司・今井希春（埋蔵文化財調査部）

4 整理作業

遺物の水洗・注記の大半は現地プレハブで本調査と並行して実施した。本格的な整理作業は2018（平成30）年1月4日～3月31日まで吉田建設三条整理所で行った。整理体制は本発掘調査の体制とほぼ同じだが、調査員に変更があった。

また、以下の整理補助員が加わった。

調査員 今井希春（1月）・高柳俊輔（2・3月）
調査補助員 佐野美来子

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

位置

丘江遺跡は、柏崎市茨目・田塚に所在する。柏崎市は新潟県の海岸中央やや南西寄りに位置する。平成の大合併により2005年5月1日に刈羽郡西山町・高柳町と合併し、現在の市域(442.03m²)が形成された。市の北西は日本海に面し、北東は三島郡出雲崎町、東は長岡市、南は十日町市、南西は上越市と接する。江戸時代には、北国街道と越後街道の分岐点があり、現在も国道8号線やそこから分岐する国道116号線が通り、交通の要衝となっている。また、柏崎港は戦後港湾法により本格的な整備が行われ、国際貿易港となった。

柏崎平野の地勢

丘江遺跡が所在する柏崎平野は、鶴川と鮒石川、鮒石川の支流である別山川によって形成された幅約7km、長さ約18kmの沖積平野である。平野の北西部は日本海に面しその東・西・南の3方は、隆起運動により発達した東頸城丘陵、刈羽・三島丘陵、刈羽三山と称される米山(標高992.6m)・黒姫山(標高889.5m)・八石山(標高518m)などの山地によって囲まれている。長軸は北北東ー南南西を向き、平野の北半分が別山川流域、南半分が鮒石川と鶴川の流域である。海岸部には縄文時代以降に荒浜砂丘が発達し、その後背には湿地性の沖積地が展開する。

こうした柏崎平野の地形的特徴は、平野を北流する鶴川・鮒石川によって東部・中央部・西部に三区分できることである。東部は鮒石川以東の地域であり、刈羽・三島丘陵などの丘陵地帯や別山川・長鳥川地域の沖積地、また日本海沿岸の荒浜砂丘などが、北北東ー南南西方向に伸びる。

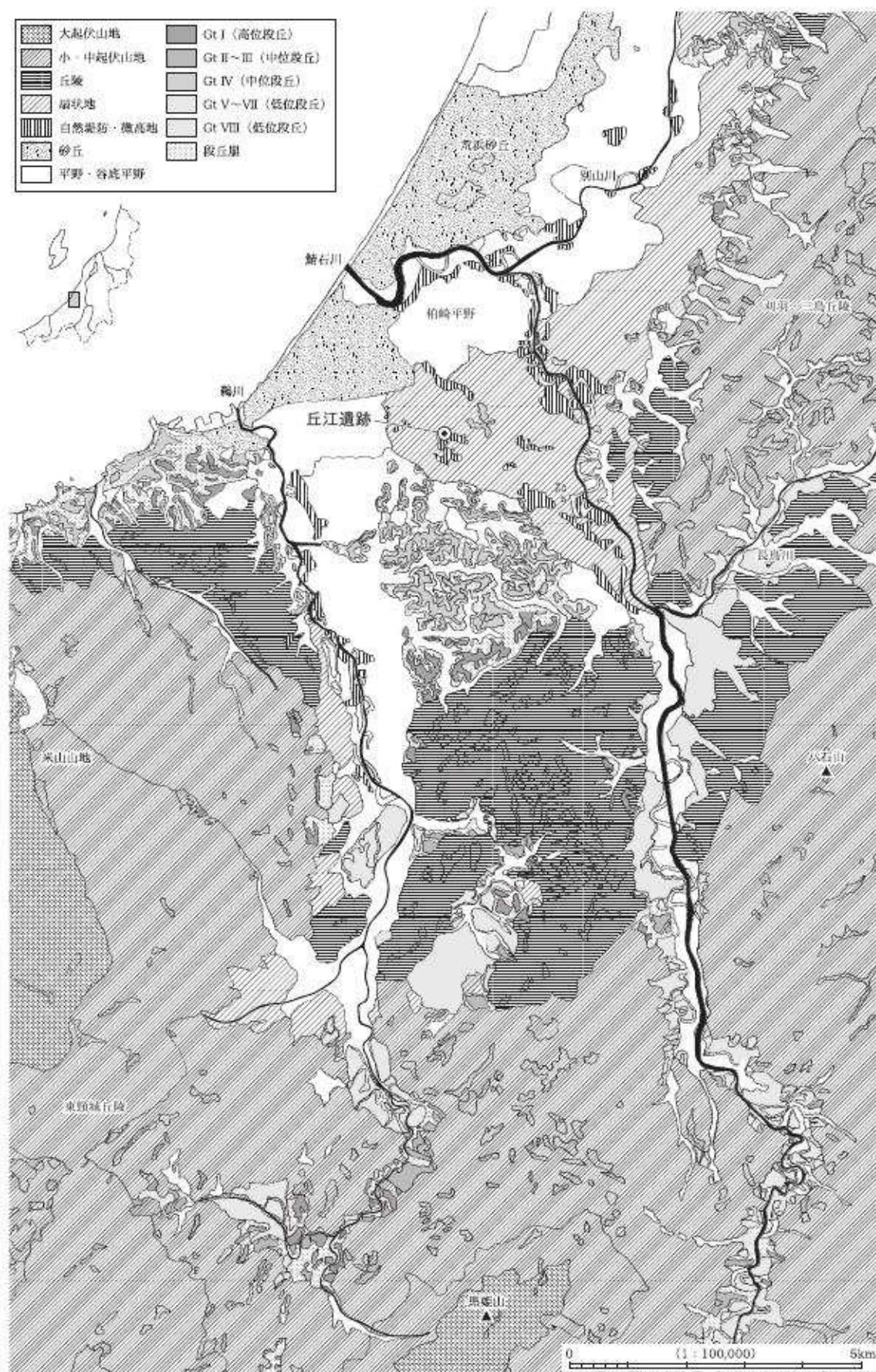
中央部は、鶴川・鮒石川・黒姫山に囲まれた地域である。黒姫山地や丘陵が、緩やかに南ー北方向に伸びる地形をしている。その縁辺では中位河岸段丘の発達が比較的顕著であり、樹枝状の段丘が、鶴川・鮒石川が形成した沖積地に接している。

西部は鶴川左岸一帯で、米山山地や丘陵が発達している。米山山地の西部は海岸部まで張り出して断崖をなし、東部では狭小な中・高位段丘面が確認できる。広範囲に発達した沖積地や砂丘が展開する東部や中央部とは対照的な様相を示している〔大野・徳間1990〕。

丘江遺跡周辺の地形

丘江遺跡は柏崎平野中央やや西寄り、鮒石川左岸に位置し、扇状地の中の微高地に所在する。標高は約5~7mを測る。柏崎平野の三区分では「中央部」に所在する。海岸線からは約3km内陸である。遺跡の北西側には柏崎の市街地が広がっているほか、鮒石川支流の草薙川が遺跡の中央付近を流れている。

新潟県の河川は上流に地すべり地帯が多く、侵食、運搬作用が盛んである。さらに下流には灌漑用の取水施設多いため、河川の流れが下流近くで緩やかになり、その結果、天井川が形成されやすくなっている。鮒石川もこの例にもれず、平野の形成、遺跡の形成に大きな影響をもたらしている〔山崎ほか2016〕。



第4図 柏崎周辺の地形

【鈴木郁夫ほか1988・1989】を基に作成

2 歴史的環境

古代 遺跡のある柏崎市は越後国古志郡に属したと考えられる。古志郡は現在の柏崎市・刈羽村・長岡市の大部分と見附市的一部分と推定されている。9世紀前半には柏崎平野周辺が三島郡として古志郡から分立した。三島郡は三島郷（美之万）と高郷郷（他家也）と多岐郷の三郷が和名類聚抄に記述されている。三島郷は鶴川下流域、高郷郷は長鳥川流域の地と鮒石川中流域、多岐郷は西山町・刈羽村の内陸部の別山川上・中流域が推定されている。

中世 中世の柏崎一帯は荘園や公領である保が存在していた。荘園は不明な点が多いが『吾妻鏡』の文治二年（1186）三月十二月の条に「関東御知行国々内乃貢未済庄々注文」がある。この史料で当時の越後国荘園が確認でき、柏崎周辺で佐橋庄、宇河庄、比角庄の三か所が記載されている。佐橋庄の成立は白河院政期（1086～1129年）と考えられ、範囲は鮒石川中流域と長鳥川流域と推定されている。宇河庄は範囲が定かではないが鶴川流域一帯と、安田から鮒石川下流の左岸域と推定されている。比角庄は鶴川下流右岸域から鮒石川下流左岸域と推定されている。また、保は埴入保、吉井保、武町保、赤田保、原田保、野崎保、神田保、小国保が知られている。

周辺の遺跡 古代の遺跡は、角田遺跡、山崎遺跡、戸口遺跡、宝田遺跡、小峯遺跡、箕輪遺跡等が点在する。角田遺跡は鮒石川と別山川が合流する付近の自然堤防上に位置し、建物5棟などが検出され、奈良～平安時代と考えられている〔品田ほか1999〕。山崎遺跡は土師器・須恵器や木製盤・祭祀具等が出土し9世紀後半頃の集落跡である〔石川ほか2012〕。

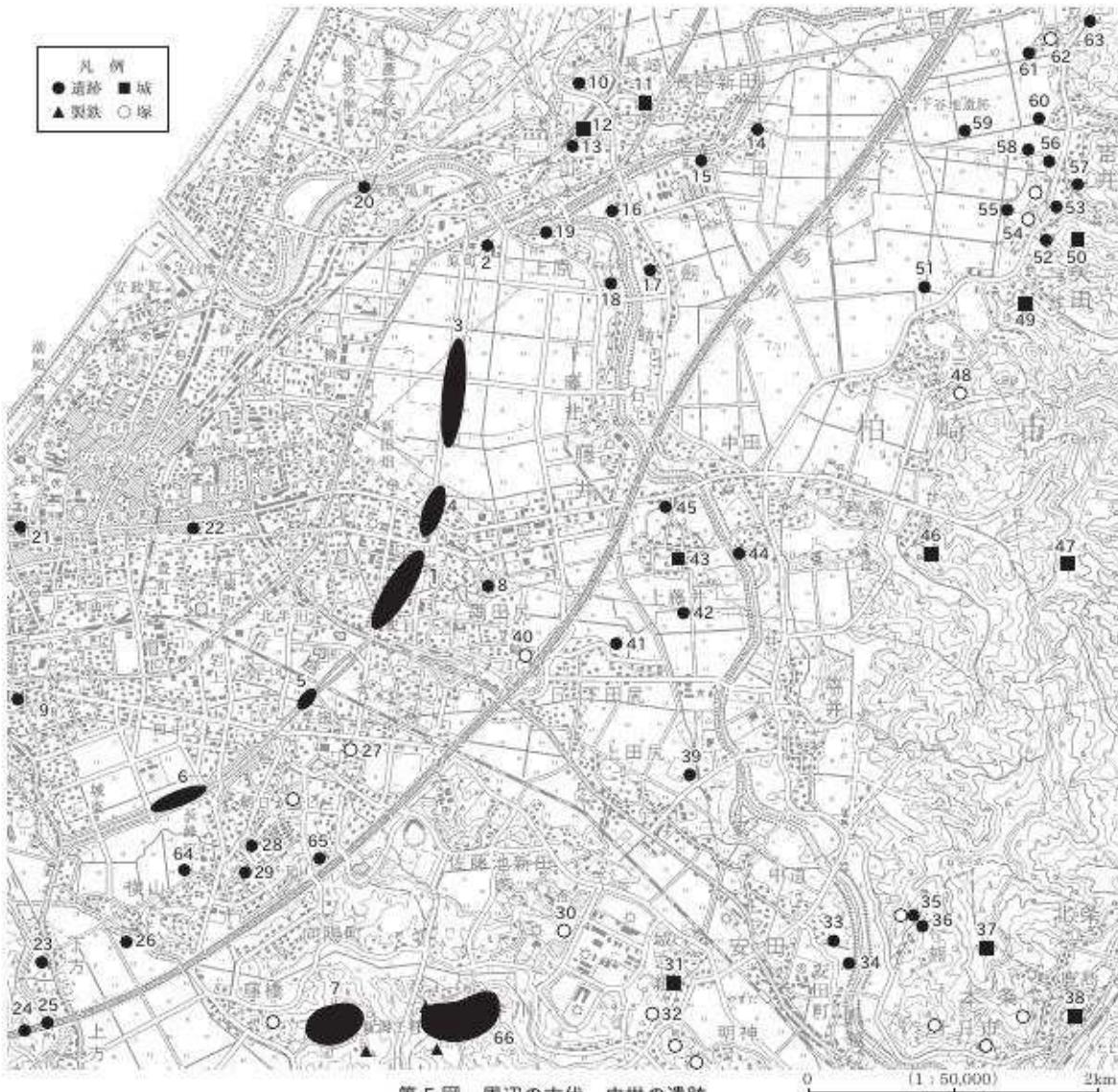
中世の遺跡は、集落遺跡が丘陵裾部や自然堤防などの沖積地に分布し、墳墓や塚・経塚などが丘陵裾部や中位段丘などの台地上に立地する傾向が認められる〔品田1995〕。

本遺跡の周辺には、山崎遺跡（4）、宝田遺跡（3）、小峯遺跡（5）、田塚山遺跡群（8）などがある。田塚山遺跡群は仏堂とその関連施設が築造され、周間に墳墓が配置されている〔品田ほか1996〕。田塚山遺跡群から南側の丘陵上に立地する小堀石遺跡（40）は、中世全般にわたって墓地として機能し、礫石経・六道銭などが出土している〔品田ほか1991〕。山崎遺跡は、13世紀中頃から15世紀後半を主体とする集落遺跡で、掘立柱建物41棟、井戸184基が検出され、土師質土器や珠洲焼のほかに瓦器風炉や茶臼が出土している〔継ほか2018〕。宝田遺跡は古代から断続的に水田耕作を行った生産遺跡である。水田遺構や掘立柱建物・井戸・溝を検出し、須恵器や土師質土器、珠洲焼のほかに15世紀中頃と推定されるおにぎり状炭化米が出土している〔飯坂ほか2015〕。

鮒石川と別山川の合流点付近には、東原町遺跡（2）、角田遺跡（16）などがある。両遺跡は自然堤防上に立地しており、河川交通などの物流関係を背景に成立したと考えられる。東原町遺跡は13世紀後半から14世紀が主体の集落遺跡で、掘立柱建物4棟、井戸28基、溝92条、土坑55基、ピット400基以上が検出され、溝によって居住域と生産域が区画されている。居住域では、鍛冶関連の工房、饗宴に使用された土師質土器の一括廃棄土坑が検出され、1万枚以上の鉄貨を埋納した珠洲焼の壺が出土している。このほか近世の井戸3基、溝11条、土坑17基、ピット3基なども検出された〔山崎2005〕。角田遺跡は13世紀後半が主体の遺跡で、掘立柱建物13棟に多数の井戸と土坑が検出され、交通の要衝を押さえ目的で在地小領主が家屋敷を営んだとみられる。〔品田ほか1999〕。

鶴川流域の遺跡としては、下沖北遺跡、鶴巻田遺跡（25）などがある。下沖北遺跡は8世紀から9世

紀の竪穴住居や溝・土坑・ピットなどが検出された。さらに13世紀から14世紀の溝による方形区画内に掘立柱建物や井戸が集中する居住域とその外側に水田が検出されており、集落の様相が明らかにされている〔高橋ほか2003、山崎ほか2005〕。鶴巻田遺跡群では古代の製鉄関連遺物が出土し、中世の井戸などが検出された。〔藤巻1988〕。



第5図 周辺の古代・中世の遺跡

原図【国土地理院「柏崎」1:50,000】2007年発行

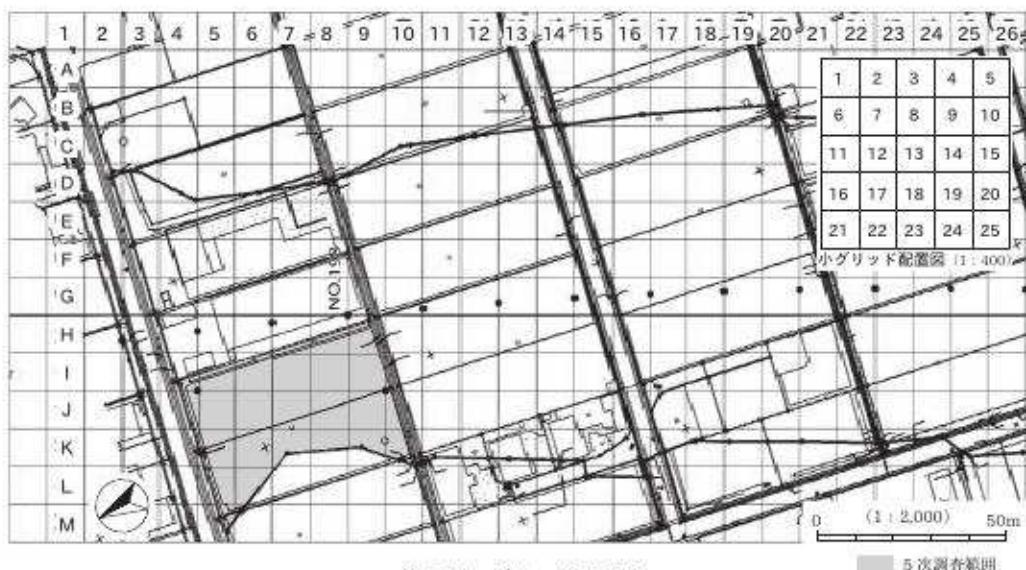
| No | 遺跡名 | 時期 | No | 遺跡名 | 時期 | No | 遺跡名 | 時期 | No | 遺跡名 | 時期 |
|----|-------|---------------------|----|-------------|-------------|----|--------------|----------|----|-------|-------------|
| 1 | 丘江 | 弥生・古代・中世 | 17 | 須下川原 | 古墳・古坟・中世 | 32 | 上野井田の 縄塚群 | 鎌倉 | 49 | 大田城跡 | 室町 |
| 2 | 東原町 | 中世 | 18 | 境川原 | 中世 | 33 | 申道 | 平安・中世 | 50 | 古井寺跡 | 中世 |
| 3 | 宝田 | 古代・中世 | 19 | 上原 | 古墳・平安・鎌倉 | 34 | 門田 | 中世 | 51 | 江ノ下 | 弥生・古墳・平安・中世 |
| 4 | 山崎 | 平安・中世 | 20 | 間瀬橋 | 縄文・弥生・古代 | 35 | 登の浦 | 中世 | 52 | 本村 | 中世 |
| 5 | 小峯 | 古墳・中世 | 21 | 柏崎街 | 中世・近世 | 36 | 今舞豆守墓 | 中世 | 53 | 西草薙 | 平安～近世 |
| 6 | 箕輪 | 弥生・古代・中世 | 22 | 四谷 | 縄塚 | 37 | 北条城跡 | 室町 | 54 | 古井の百塚 | 中世 |
| 7 | 藤橋東群 | 縄文・古代(製鐵関連) | 23 | 鶴巻敷 | 室町 | 38 | 北条城跡 | 室町 | 55 | 柳田町 | 縄文・古墳・平安・室町 |
| 8 | 藤橋西群 | 縄文・弥生・中世(丘陵 ・墓地) | 24 | 樹山 | 縄文・古代・中世 | 39 | 永新田 | 室町 | 56 | 古井水上日 | 古墳・平安・中世 |
| 9 | 鶴巻 | 中世 | 25 | 鶴巻田 | 縄文・弥生・古墳・平安 | 40 | 小見石 | 中世(墓地) | 57 | 古井駒之内 | 室町 |
| 10 | 森岩野 | 弥生・中世 | 26 | 茅原 | 平安・中世 | 41 | 不退寺 | 平安・中世 | 58 | 戸田 | 弥生・古墳・古代・中世 |
| 11 | 上合熊原跡 | 中世 | 27 | 平田の塚群 | 中世 | 42 | 前田 | 古代・中世 | 59 | 菅塚 | 弥生・古墳・古代 |
| 12 | 岩野城跡 | 不明 | 28 | 大沢A | 縄文・古代・中世 | 43 | 藤井城跡 | 古代・中世 | 60 | 丸坊 | 古墳・平安・中世 |
| 13 | 宿ノ浦 | 古代・中世 | 29 | 大宮 | 縄文・平安 | 44 | 園野 | 縄文・古墳～中世 | 61 | 竹塚 | 古墳・平安・中世 |
| 14 | 下才見 | 中世 | 30 | 十三本塚の 塚群 | 中世 | 45 | 中田久保川原 | 中世 | 62 | 竹塚の塚群 | 中世 |
| 15 | 下扇井 | 古墳・平安 | 31 | 坂田城跡 | 室町 | 46 | 群原城跡 | 室町 | 63 | 移ノ木田B | 古代・中世 |
| 16 | 角田 | 古墳・古代・鎌倉 | | | | 47 | 八方山城跡 | 室町 | 64 | 京田 | |
| | | | | | | 48 | 出口の塚 | 中世 | 65 | 天池古窯 | |
| | | | | | | 49 | 越井川隣群 | | 66 | | |

第1表 周辺の古代・中世遺跡一覧表

第III章 調査の概要

1 グリッドの設定

丘江遺跡は10m×10mのグリッドを組みこれを大グリッドとした。大グリッドの呼称は東西方向を東よりA、B、C……、南北方向を北よりアラビア数字で1、2、3、とし、組み合わせで1A、2A、のように表現した。また、大グリッド内を2m四方に25分割して小グリッドとした。小グリッドは北西隅を基点に東西に1～5までその南側を西から6～10と付した。この要領で1～25までの番号を付し大グリッドと組み合わせて5I1のように表現した。座標は5JがX 151908.684・Y 7621.828、10JがX 151864.981・Y 7597.573である。



第6図 グリッド配置図

2 基本層序

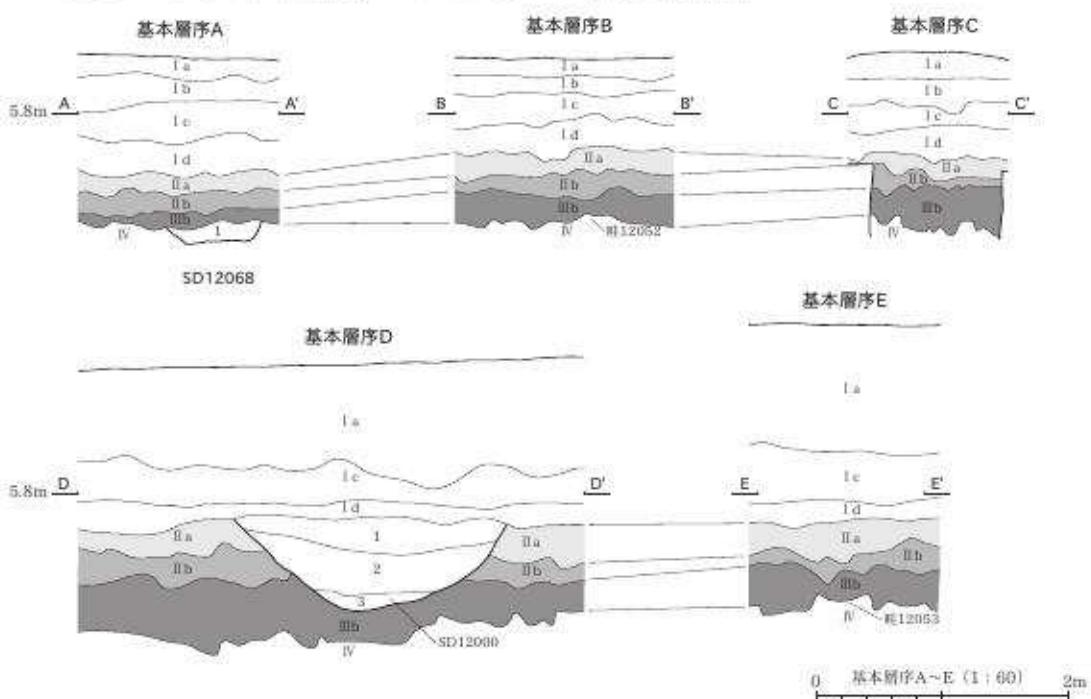
調査区の現状の標高は約6mでほぼ平坦である。試掘確認調査の結果から17・18T(第3図)でIIa、IIb、IIIb層が遺物包含層であることが確認された。IIb層は上層の遺構検出面で約15cm前後堆積し、調査区東側では部分的に約30cm堆積が確認された。IIIb層は中層の遺構検出面で、東側で約40cm堆積が確認されたが、西側では約10cm程度であった。上層のIIa層との境界部分は調査区南東側と西側の一部で踏み抜き痕を確認した。IV層は平安～古墳時代の遺構検出面で、西側で約20cmの堆積を確認し、西側へ向かって傾斜していた。

- I a 黄灰色粘土 (2.5YR6/1) 粘性強い しまりあり 表土
- I b 灰色粘土 (5Y6/1) 粘性強い しまりあり 旧水田跡
- I c 褐灰色粘土 (10YR6/1) 粘性強い しまりあり
- I d 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強い しまり弱い
- II a 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い しまり弱い

IIb 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性強い しまり弱い 上層遺構検出面

IIIb 黒色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 中層遺構検出面

IV 灰色シルト (5Y5/1) 粘性強い しまり弱い 下層遺構検出面



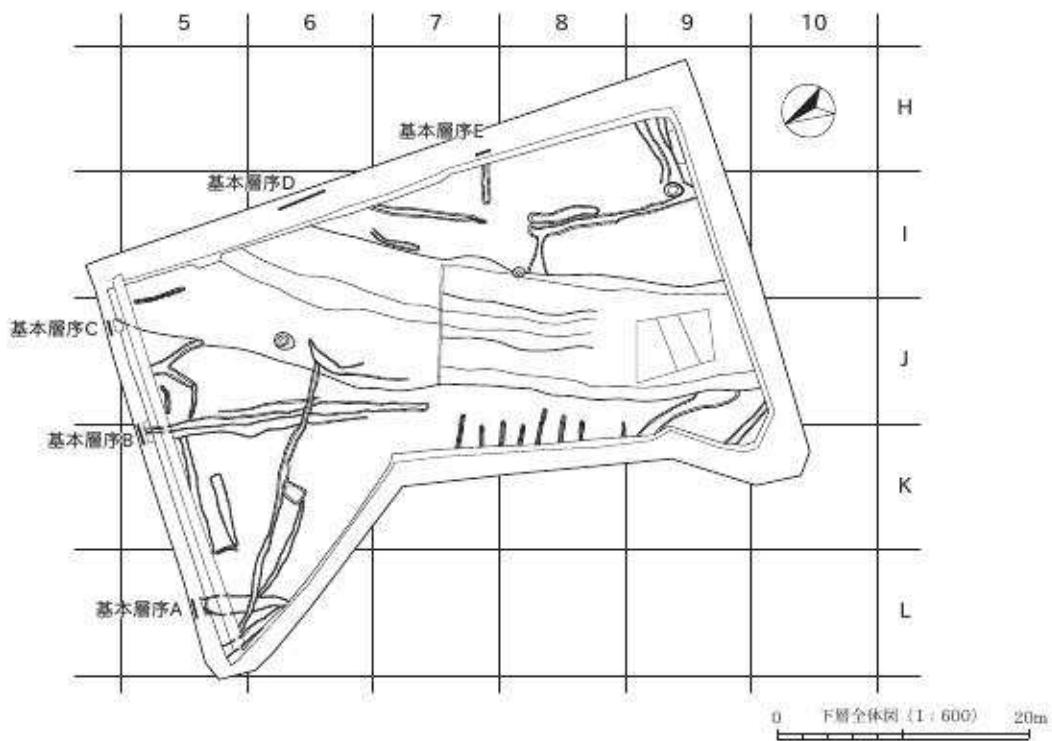
Ia 黄灰色粘土 (2.5Y6/1) 粘性強い しまり有り 表土
 Ib 黑色粘土 (5Y6/1) 粘性強い しまり有り
 Ic 褐灰色粘土 (10YR6/1) 粘性強い しまり有り
 Id 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強い しまり弱い
 IIa 黄灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い しまり弱い
 IIb 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い 上層検出面
 IIIb 黒色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 中層検出面
 IV 灰色シルト (5Y5/1) 粘性強い しまり弱い 下層検出面

SD12000

1 黑色粘土 (10Y5/1) 粘性強い しまり弱い
 2 灰色粘土 (7.5Y5/1) 粘性強い しまり弱い
 3 灰色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強い しまり弱い
 灰色砂を縦状に含む

SD12068

1 黑色粘土 (5Y2/1) 粘性強い しまり弱い
 且100mmの灰色土をブロック状に含む



第7図 基本土層図

第IV章 遺構

1 概要

検出された遺構は上層で溝 1、畦 8 である。遺構の大半は畦であり、遺構の密度は低い。中層はピット 2、溝 8、畦 24 が検出された。下層は土坑 1、井戸 1、ピット 1、溝 29、畦 5、河道が確認された。遺構の略語は土坑が SK、井戸が SE、ピットが P、溝が SD である。また、畦は略語を使用せず畦+番号とした。遺構番号は種類に関わりなく連番で 12000 から付した。畦は接続していてものびる方向が異なる場合、異なる番号を付した。

2 上層

SD12000 (図版 2・3・4・7・27)

検出面は I d 層である。6I ~ K グリッドに位置する。東西方向にのびる溝であり、長軸方向は N-72°-W である。6I・6J グリッドの両側と 6K の南側で畦(畦 12006 ~ 12008)が検出され、いずれの畦よりも新しい。断面形は台形状であり、底部は凹凸がある。埋土は 3 層に分層され、長さ 25.7m、深さ 23cm 以上である。遺物は土器片や近世の陶器等が覆土から出土した。

畦 12001 (図版 2・5・6・7・26)

8・9I グリッドに位置する。長軸方向は N-22°-E である。断面は II b 層が台形状に高まり上部がやや窪んでいる。9I12・13 グリッドで畦 12002 と接続する。下端幅が 70cm、上端幅が 30cm、長さ 15.3m、高さ 15cm である。

畦 12002 (図版 2・5・6・7・26)

9I ~ K グリッドに位置する。東西にのび、9I2・3 グリッドで畦 12001 の西側に接続する。長軸方向は N-78°-W である。9K5 グリッドで畦 12003 の南端と接続する。断面は II b 層が台形状に高まる形状である。下端幅が 80cm、上端幅が 35cm、長さ 17.4m、高さ 6cm である。

畦 12003 (図版 2・3・5・7・26)

8・9K グリッドに位置する。南北にのび 9K5 グリッドで畦 12002 と接続する。長軸方向は N-23°-E である。断面は II b 層が台形状に高まる形状である。下端幅が 80cm、上端幅が 20cm、長さ 11.6m、高さ 6cm である。

畦 12004 (図版 2・6・26)

8・9H グリッドに位置する。畦の北側は残存状況が非常に悪い。南北方向の畦で、東側は調査区外のため形状不明である。長軸方向は N-14°-E である。断面は下端幅が 40cm 以上、長さ 10.5m、高さ 3cm である。

畦 12005 (図版 2・6・27)

7I・8H・1 グリッドに位置する。畦の残存状況は悪い。東西方向の畦で、長軸方向は N-55°-W であった。幅 40cm、長さ 7.0m である。

畦 12006 (図版 2・4・7・27)

6I・6J グリッドに位置する。SD12000 の南側にはほぼ並行するように検出された。東西方向の畦で、長軸方向は N-72°-W である。断面は褐灰粘土を台形状に積み上げる。上端幅 40cm、下端幅 60cm、長さ 12.1m である。

畦 12007 (図版 2・4・7・27)

6I・6J グリッドに位置する。SD12000 の北側にはほぼ並行するように検出された。東西方向の畦で、長軸方向は N-72°-W である。断面は褐灰粘土を台形状に積み上げる。上端幅 45cm、下端幅 50cm、長さ 11.6m である。

畦 12008 (図版 2・3・7・27)

6K グリッドに位置する。SD12000 の北側にはほぼ並行するように検出された。東西方向の畦で、長軸方向は N-66°-W である。断面は褐灰粘土を台形状に積み上げる。上端幅 30cm、下端幅 30cm、長さ 3.4m である。

3 中層

ピット 12020 (図版 8・13・28)

7I に位置する。平面形は円形で直径 14cm である。深さは 50cm 以上あり完掘は断念した。埋土は褐灰土の单層である。遺物の出土はない。上層で見逃した近世以降の遺構の可能性が高い。

ピット 12021 (図版 8・13)

7I に位置する。平面形は円形で直径 16cm である。深さは 50cm 以上あり完掘は断念した。埋土は褐灰土の单層である。遺物の出土はない。上層で見逃した近世以降の遺構の可能性が高い。

SD12022 (図版 8・13・14・28)

7I・8HI グリッドに位置する。東西・南北方向にのびる溝である。8H で南北にのび 8H9 付近で東西方向に曲がり東側へのびる。長さ 15.5m、幅 57cm、深さ 4cm である。断面の形状は弧状で埋土は灰色粘土の单層である。遺物は土師器の小破片が出土した。

SD12025 (図版 8・12・13・28)

8J・K グリッドに位置する。東西にのびる溝で長軸方向は N-83°-W である。断面の形状は台形状で、埋土は灰色粘土の单層である。長さ 2.7m、幅 68cm、深さ 3cm である。遺物の出土はない。

SD12029 (図版 8・9・12)

7J24・25 グリッドに位置する。南北にのびる溝で長軸方向は N-14°-E である。断面の形状は台形状で長さ 1.5m、幅 40cm、深さ 3cm である。遺物の出土はない。

SD12036 (図版 8・12)

8J グリッドに位置する。南北にのびる溝で長軸方向は N-27°-E である。断面の形状は台形状で長さ 3.0m、幅 30cm、深さ 7cm である。遺物の出土はない。

SD12037 (図版 8・12)

8J グリッドに位置する。南北にのびる溝であり、8J19 で東西方向に曲がる。断面の形状は台形状で長さ 4.8m、幅 20cm、深さ 6cm である。遺物の出土はない。

SD12038 (図版 8・9・12)

7J・8J グリッドに位置する。南北にのびる溝で長軸方向は N-14° -E である。断面の形状は台形状で長さ 1.9m、幅 32cm、深さ 6cm である。遺物の出土はない。

畦 12016 (図版 8・12・13・28)

7H・I グリッドに位置する。東西方向の畦で、長軸方向は N-67° -W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 3.6m、上端幅 3.4cm、下端幅 60cm、高さ 8cm である。

畦 12017 (図版 8・11・13・14・29)

8I～K グリッドに位置する。東西方向の畦で、SD12022 と重複関係にあり本遺構が古い。長軸方向は N-64° -W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 18.3m、上端幅 31cm、下端幅 50cm、高さ 8cm である。

畦 12018 (図版 8・12・14・29)

9H・I グリッドに位置する。東西方向の畦で、9I3 グリッドで南北方向の畦 12039 と接続する。長軸の方向は N-84° -W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 6.8m、上端幅 14cm、下端幅 40cm、高さ 2cm である。

畦 12019 (図版 8・13)

8H・I グリッドに位置する。東西方向の畦で、8H10 グリッドで畔 12046 に接続する。北側は SD12022 と並行している。長軸方向は N-62° -W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 7.1m、上端幅 40cm、下端幅 60cm、高さ 3cm である。

畦 12023 (図版 8・10・12・13・29)

7I グリッドに位置する。南北方向の畦で、7I19 グリッドで北東へ曲がる。また、7I19 グリッドの西側部分に畦 12035 が接続する。長軸方向は N-24° -E である。断面は灰色粘土を台形状に高まる形状である。長さ 7.8m、上端幅 62cm、下端幅 90cm、高さ 3cm である。

畦 12024 (図版 8・11・14・29)

8J・9J グリッドに位置する。南北方向の畦で、8J19・20 で西側に曲がる。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状であり、南側の両側に SD12063 と SD12064 が並行している。長さ 4.5m、上端幅 30cm、下端幅 30cm、高さ 2cm である。

畦 12026 (図版 8・9・12・14・29)

7J グリッドに位置する。東西方向の畦で、長軸方向は N-83° -W である。断面は灰色粘土を台形状に積み上げる。長さ 1.1m、上端幅 26cm、下端幅 60cm、高さ 4cm である。

畦 12027 (図版 8・9・10・11・29)

6I・J グリッドに位置する。東西方向の畦で、長軸方向は N-72° -W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 13.3m、上端幅 43cm、下端幅 100cm、高さ 8cm である。

畦 12028 (図版 8・9・10・11・29)

5J・K・6J グリッドに位置する。南北方向の畦で、長軸方向は N-25° -E である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 12.2m、上端幅 14cm、下端幅 50cm、高さ 6cm である。

畦 12030 (図版 8・9・11・12・30)

7J グリッドに位置する。南北方向の畦で、長軸方向は N-18° -E である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 5.2m、上端幅 31cm、下端幅 60cm、高さ 3cm である。

畦 12031 (図版 8・13・14・30)

91 グリッドに位置する。東西方向の畦で、長軸方向は N-67°-W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 2.3m、上端幅 14cm、下端幅 46cm、高さ 2cm である。

畦 12032 (図版 8・12・14・30)

91・J グリッドに位置する。東西方向の畦で、長軸方向は N-67°-W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 2.6m、上端幅 32cm、下端幅 60cm、高さ 9cm である。

畦 12033 (図版 8・12・13・14・30)

8120・25 グリッドに位置する。東西方向の畦で、長軸方向は N-62°-W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 2.2m、上端幅 35cm、下端幅 66cm、高さ 3cm である。

畦 12034 (図版 8・9・10・11・30)

61・J グリッドに位置する。南北方向の畦で、長軸方向は N-63°-W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。西側で畦 12061・畦 12062 と接続する。東側は 6J3 で畦 12040 と接続する。長さ 8.8m、上端幅 26cm、下端幅 58cm、高さ 2cm である。

畦 12035 (図版 8・12・13・30)

71・J グリッドに位置する。東西方向の畦で、7I19・20 で畦 12023 の西側と接続し、長軸方向 N-70°-W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 4.3m、上端幅 36cm、下端幅 70cm、高さ 11cm である。

畦 12039 (図版 8・12)

81・9I グリッドに位置する。南北方向の畦で、9I3 グリッドで畦 12018 と接続する。長軸方向は N-17°-E である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。9I6 より南側は残存状況が悪い。長さ 7.2m、上端幅 50cm、下端幅 60cm、高さ 4cm である。

畦 12040 (図版 8・10・13・30)

5J・6J グリッドに位置する。南北方向の畦で、6J3 グリッドで畦 12034 と接続し、長軸方向は N-14°-E である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 5.5m、上端幅 70cm、下端幅 70cm、高さ 3cm である。

畦 12041 (図版 8・10・13・30)

5J グリッドに位置する。南北方向の畦で、長軸方向は N-10°-E である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 3.9m、上端幅 21cm、下端幅 40cm、高さ 4cm である。

畦 12042 (図版 8・10・13)

5J グリッドに位置する。東西方向の畦で、東側は残存状況が悪い。長軸方向は N-68°-W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 2.4m、上端幅 24cm、下端幅 45cm、高さ 4cm である。

畦 12043 (図版 8・9・10・13)

5J グリッドに位置する。東西方向の畦で、5J25 グリッドで畦 12043 と接続し、長軸方向は N-68°-W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 3.0m、上端幅 38cm、下端幅 45cm、高さ 4cm である。

畦 12045 (図版 8・9)

5L・6L グリッドに位置する。南北方向の畦で、長軸方向は N-16°-W である。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 4.2m、上端幅 40cm、下端幅 50cm、高さ 4cm である。

4 下 層

畦 12061 (図版 8・9・10)

6J グリッドに位置する。南北方向の畦で、6J12 で直角に曲がる。断面はⅢb 層が台形状に高まる形状である。長さ 4m、上端幅 25cm、下端幅 58cm である。

4 下 層

SK12070 (図版 15・16・17・31)

6K グリッドに位置する。SD12069 とは重複関係にあり本遺構が新しい。平面形は方形で長軸 188cm、短軸 110cm、深さ 6cm である。埋土は灰色粘土で 2 層に分層され、自然堆積と考える。遺物の出土はない。

SE12049 (図版 15・17・18・31)

6J7・12 グリッドに位置する。平面の形状は梢円形で断面形は台形状で南西側がやや大きく開く。埋土は 4 層に分層され自然堆積と考える。断面の形状は漏斗状で底部から約 1m で大きく広がる。長軸 162cm、短軸 132cm、深さ 142cm である。遺物の出土はない。

SD12044 (図版 15・18・20)

9J・K・10J・K グリッドに位置する。南北にのび、長軸方向は N-19° -W である。断面の形状は台形状で埋土は単層で黒褐色粘土である。長さ 4.1m、幅 80cm、深さ 8cm である。遺物は弥生土器の高坏などが出土した。

SD12050 (図版 15・16・17・18・32)

5K グリッドに位置する。東西にのび SD12065 と並行し、長軸方向は N-78° -W である。断面の形状は台形状である。埋土は単層で灰色粘土である。長さ 6.0m、幅 95cm、深さ 5cm である。遺物の出土はない。

SD12051 (図版 15・16・17・18・32)

5K・6K・6J グリッドに位置する。SD12069 とは重複関係にあり本遺構が古い。南北にのび、畦 12052・SD12053 と並行する。長軸方向は N-22° E である。断面の形状は台形状で埋土は単層で灰色粘土である。長さ 17.4m、幅 110cm、深さ 5cm である。遺物の出土はない。

SD12053 (図版 15・16・17・18・32)

5J・6J グリッドに位置する。SD12051・畦 12052 と並行する。SD12069 とは重複関係にあり本遺構が古い。長軸方向は N-21° -E である。断面の形状は台形状で埋土は単層で灰色粘土である。長さ 7.8m、幅 90cm、深さ 11cm である。遺物の出土はない。

SD12054 (図版 15・16・17・18・32)

6J・7J グリッドに位置する。平面形は弧状にのびる。断面形状は台形状である。埋土は単層の灰色粘土である。長さ 8.4m、幅 92cm、深さ 5cm である。遺物の出土はない。

SD12055 (図版 15・17・18・32)

5J17・22 グリッドに位置する。東西にのび、長軸方向は N-63° -W である。断面形は弧状で埋土は灰色粘土である。長さ 2.5m、幅 40cm、深さ 9cm である。遺物は土師器の小破片が出土した。

SD12056 (図版 15・17・18・32)

5J グリッドに位置する。SD12057 と重複関係にあり、本遺構が新しい。南北方向にのび長軸の方向

はN-54°-Wである。断面の形状は台形状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ2.8m、幅40cm、深さ11cmである。遺物の出土はない。

SD12057 (図版15・17・18・33)

5Jグリッドに位置する。SD12056・SD12058と重複関係にありSD12056より古い。南北にのびる溝であり、長軸方向はN-58°-Eである。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ3.3m、幅60cm、深さ13cmである。遺物の出土はない。

SD12058 (図版15・17・18・33)

5Jグリッドに位置する。南北にのび、長軸方向はN-3°-Wである。断面の形状は台形状である。埋土は灰色粘土の単層である。長さ3.2m、幅60cm、深さ19cmである。遺物の出土はない。

SD12059 (図版15・17・18)

5I・Jグリッドに位置する。南北に直線的にのび、長軸方向はN-12°-Eである。断面の形状はU字状で埋土は黒色粘土の単層で長さ4.1m、幅23cm、深さ10cmである。遺物の出土はない。

SD12060 (図版15・19・21・33)

9J・Kグリッドに位置する。南北にのび、北側はやや膨らみ、長軸方向はN-4°-Wである。断面の形状は台形状であり、埋土は灰色粘土の単層で弥生土器の壺・甕・高杯が出土した。長さ7.2m、幅140cm、深さ22cmである。

SD12065 (図版15・16・17・18・33)

5K・Lグリッドに位置する。SD12051と重複関係にあり本遺構が古い。南北方向にのび、長軸方向はN-75°-Wである。断面の形状は孤状で、埋土は2層に分層され黒色粘土と灰色粘土で自然堆積と考える。長さは9.5m、幅40～60cm、深さ10cmである。遺物の出土はない。

SD12067 (図版15・16・18・33)

5L・6Lグリッドに位置する。SD12068と重複関係にあり本遺構が古い。南北方向にのび、長軸方向はN-8°-Wである。断面の形状は台形状であり、埋土は灰色粘土の単層である。長さ6.0m、幅90cm、深さ6cmである。遺物は須恵器の甕の小破片や土師器の小破片が出土した。

SD12068 (図版15・16・20・33)

5L・6Lグリッドに位置する。SD12069より古く、SD12071より新しい。南北にのび、長軸方向はN-29°-Eである。断面の形状は台形状であり、埋土は2層に分層され、黒色粘土と灰色粘土である。長さ6.8m、幅170cm、深さ14cmである。遺物は須恵器の無台杯や甕、土師器の甕の破片等が出土した。

SD12069 (図版15・16・17・20・33)

5J・5K・5Lグリッドに位置する。SK12070・SD12054より古く、SD12068・SD12051・畦12052・SD12053より新しい。東西にのび、長軸方向はN-46°-Wである。断面の形状は台形状で、埋土は灰褐色粘土と灰色粘土の2層に分層され、自然堆積と考える。遺物は埋土中から主に古代の須恵器・土師器が出土した。

SD12071 (図版15・16・20・34)

6K・Lグリッドに位置する。SD12068と重複関係にあり本遺構が古い。東西にのび、長軸方向はN-38°-Wである。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土である。長さ8.5m、幅55cm、深さ6cmである。遺物は須恵器の甕や土師器の甕が出土した。

SD12072 (図版 15・16・17)

5K・L グリッドに位置する。南北にのび、長軸方向は N-6° -E である。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 1.8m、幅 30cm、深さ 5cm である。遺物の出土はない。

SD12073 (図版 15・16・19・21・34)

7J・K グリッドに位置する。長軸方向は N-50° -W で、西側は調査区外にのびる。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 2.8m、幅 30cm、深さ 5cm である。遺物の出土はない。

SD12074 (図版 15・16・19・21・34)

7K グリッドに位置する。長軸方向は N-61° -W で、西側は調査区外にのびる。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 1.7m、幅 30cm、深さ 4cm である。遺物の出土はない。

SD12075 (図版 15・19・21)

8J・K グリッドに位置する。長軸方向は N-57° -W で、西側は調査区外にのびる。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 2.0m、幅 30cm、深さ 5cm である。遺物の出土はない。

SD12076 (図版 15・19・21・34)

8K グリッドに位置する。長軸方向は N-47° -W で、西側は調査区外にのびる。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 1.6m、幅 30cm、深さ 4cm である。遺物の出土はない。

SD12077 (図版 15・19・21・35)

8J・K グリッドに位置する。長軸方向は N-49° -W で、西側は調査区外にのびる。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 2.9m、幅 30cm、深さ 5cm である。遺物の出土はない。

SD12078 (図版 15・19・21)

8J・K グリッドに位置する。長軸方向は N-52° -W で、西側は調査区外にのびる。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 2.2m、幅 30cm、深さ 6cm である。遺物の出土はない。

SD12079 (図版 15・19・21)

8J・K グリッドに位置する。長軸方向は N-59° -W で、西側は調査区外にのびる。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 1.6m、幅 38cm、深さ 6cm である。遺物の出土はない。

SD12080 (図版 15・19・21)

8J・K・9K グリッドに位置する。長軸方向は N-60° -W で、西側は調査区外にのびる。断面の形状は台形状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 1.2m、幅 2.5cm、深さ 4cm である。遺物の出土はない。

SD12083 (図版 15・17・20・21・35)

6I・7I グリッドに位置する。南北にのび、長軸方向は N-32° -E である。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 4.2m、幅 50cm、深さ 9cm である。遺物の出土はない。

SD12085 (図版 15・20・21・35)

9H・I グリッドに位置する。東西にのび、長軸方向は N-78° -E である。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 5.5m、幅 90cm、深さ 4cm である。遺物の出土はない。

SD12086 (図版 15・20・21・35)

9H グリッドに位置する。畦 12019 とは重複関係にあり、本遺構が古い。東西にのび、長軸方向は N-86° -W である。断面の形状は孤状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 2.6m、幅 70cm、深さ 3cm である。遺物の出土はない。

SD12088 (図版 15・20・21)

8I グリッドに位置する。南北にのび、畦 12082 と並行する。長軸方向は N-19°-E である。断面の形状は弧状で埋土は灰色粘土の単層である。長さ 5.7cm、幅 80cm、深さ 11cm である。遺物の出土はない。

P12081 (図版 15・20・21・32)

8I16・21 グリッドに位置する。平面形は方形である。断面の形状は弧状で、埋土は 2 層である。長軸 96cm、短軸 60cm、深さ 20cm である。遺物の出土はない。

畦 12047 (図版 15・20・21)

8I グリッドに位置する。東西方向の畦で、8I12 グリッドで畦 12082 の西側と接続し、長軸方向は N-64°-W である。断面はIV層が台形状に高まる形状であり、長さ 3.0m、上端幅 37cm、下端幅 54cm、深さ 6cm である。

畦 12052 (図版 15・16・17・35)

5JK・6JK・7J グリッドに位置する。南北方向の畦で、両側に SD12051 と SD12053 が並行する。また、SD12069 と重複関係にあり本遺構が古い。南側は調査区外までのびる。長軸方向は N-22°-E である。断面はIV層が台形状に高まる形状であり、長さ 22.5m、上端幅 37cm、下端幅 120cm、深さ 11cm である。

畦 12082 (図版 15・17・20・21・35)

7I・8I・9I グリッドに位置する。南北方向の畦で、北側は調査区外へのびる。長軸方向は N-26°-E である。断面は灰色シルトを台形状に高まる形状であり、長さ 9.1m、上端幅 44cm、下端幅 70cm、深さ 11cm である。

畦 12084 (図版 15・20・21)

7H・I グリッドに位置する。東西方向の畦で、東側は調査区外へのびる。長軸方向は N-72°-W である。断面はIV層が台形状に高まる形状であり、長さ 3.2m、上端幅 32cm、下端幅 65cm、深さ 7cm である。

第V章 遺物

1 概要

今回の調査において出土した遺物は、土器・陶磁器、土製品、金属製品、木製品である。量的には土器・陶磁器が多く、上層では14世紀～18世紀頃、中層は9世紀～14世紀頃、下層では弥生時代後期及び9世紀頃の遺物が出土している。

土器・陶磁器について参考にした分類・編年及び年代観を挙げる。唐津焼は〔大橋 1989〕、瀬戸焼・美濃焼は〔藤澤 1993・2008〕、青磁は〔上田 1982・山本 2000〕、白磁は〔森田 1982・山本 2000〕をそれぞれ参考にした。特に青磁の分類については、「人名+分類名」で記述した。珠洲焼については〔吉岡 1994・2003〕を参考にし、「珠洲〇期」として記述した。土師質土器は〔品田 1991・1999〕、水澤〔2005〕を参考にし、製作技法についての分類もそれらに従つた。古代の土器については〔春日 1999・2005〕を参考にした。なお、須恵器の胎土分類は箕輪遺跡〔春日・坂上ほか 2015〕に準拠している(第2表)。弥生土器については、〔滝沢 2005・2018〕を参考にした。以下、記載は上層・中層・下層の順に行う。

| 分類 | 特徴 |
|-----|---|
| A群 | 石英・長石・雲母など花崗岩起源の大型の鉱物を多く含む粗い胎土。阿賀北地域の須恵器窯の主体的な胎土。 |
| B群 | 軟質の白色小粒子を定量含む胎土。きめ細かいB1と、砂質の強いB2の2種がある。有台杯1・無台杯にはB1、その他の器種にはB2が主に用いられる。佐渡市(旧佐渡郡羽茂町)小泊窯跡など佐渡市南西部の須恵器窯の胎土。 |
| C1群 | 小型の石英・長石を少量含む比較的精良で粘土質の強い胎土。上越地域では高田平野東側の末野・日向窯跡群で主体的な胎土。他地域では新潟市東部の新津(丘陵)窯跡群、長岡市東部の東山(丘陵)窯跡群でも主体的な胎土である。阿賀北の須恵器窯の一例にも見られる胎土。 |
| C2群 | 砂質もしくはシルト質で均質な胎土。高田平野関川左岸に点在する須恵器窯に主体的にみられる。 |
| C3群 | 海綿骨針を定量含む砂質の強い胎土。長岡市西部の旧和鳥村から三島郡出雲崎町にかけて分布する西古志窯跡群や淡海川流域に点在する須恵器窯に主体的にみられる。 |

第2表 須恵器胎土の分類

2 上層

上層において遺物が出土した遺構はSD12000であり、その他は包含層(I d層及びIIa層)から出土した。遺物の種類は陶磁器と土製品があり、陶磁器は唐津焼、青磁、瀬戸焼・美濃焼、珠洲焼がある。以下、遺物の種類ごとに記載し、その中で遺構出土遺物→包含層出土遺物の順に説明した。

SD12000(図版22-1・2)

1は唐津焼擂鉢の底部である。調整は外面クロナデで、底部外面は回転糸切りである。擂目一単位ごとの間隔が空き、擂目が交差するので、大橋編年Ⅲ期である可能性が高い。2は青磁碗の底部片である。内外面に釉がかかると想定できるが、底部外面は疊付を含め無釉である。

I d層(図版22-3)

3は唐津焼皿の底部である。内外面に灰釉がかかると想定できるが、底部外面は無釉である。窯焼きの際に製品同士の癒着を避けるための砂目積みが見られることから、大橋編年のII-1期である可能性が高い。

IIa層(図版22-4~8)

4は珠洲焼片口鉢の口縁部～胴部である。復元口径は35.8cmである。全体的に摩耗が激しいが、口縁

部内側に波状文が確認できるので珠洲VI期であると考えられる。5は瀬戸焼・美濃焼皿の底部である。内面は摩耗しており、使用されたことがうかがえる。6は青磁碗の口縁部である。籠描きによる細線の線描蓮弁文を有することから上田分類のB-IV類であると考えられる。7は青磁皿の口縁部である。幅の広い蓮弁文を持つことから上田分類のB-1'類であると考えられる。

8は珠洲焼片口鉢の口縁部片であるが、外面がすり減り摩耗していることから、転用研削具の可能性がある。内面には装飾文と考えられる線文があるが、途中で欠損しているため全容は不明である。口縁形態が方頭を呈するため珠洲IV 1期の可能性がある。

3 中層

中層の調査で出土したのは、土器・陶磁器、金属製品、錢貨である。9世紀～14世紀頃までの遺物が見つかっているが、すべて包含層(IIb層)からの出土である。以下、遺物の種類ごとに説明する。

IIb層(図版22-9～16)

9は須恵器環蓋のつまみ部である。胎土はB群である。10は須恵器無台杯である。調整は内外面ロクロナデで、底部は回転ヘラ切りである。胎土はB群である。11は珠洲焼片口鉢の脇部片である。内面が摩耗している。12は珠洲焼片口鉢の底部である。調整は外面ロクロナデ、底部外面は静止糸切りである。鉗目が集中しているため、珠洲IV期以降の可能性が高い。13は土師質土器皿T1類である。口縁部を強くヨコナデするため、刈羽・三島型であると考えられ、13世紀後半～14世紀前半の可能性が高い。14は白磁碗の口縁部片である。玉縁口縁であり、釉調や胎土から山本分類の碗IV類であると考えられ、11世紀後半～12世紀の可能性が高い。

15は刀子である。大きさは長さ15.2cm、刃部幅1.1cm、茎部幅1.5cm、厚さ0.6cm、重量24.9gである。刃部の根元が斜めに折れ曲がった状態で出土している。

16の錢貨は表面が摩耗しているが、北宋錢の皇宋通宝である。初鑄年は1039年である。

4 下層

下層において遺物が出土した遺構は、SD12044、SD12060、SD12067、SD12068、SD12069、SD12071であり、その他は包含層(IIIb層)から出土した。遺物の種類は土器と木製品であり、弥生時代後期及び古代のものが中心である。弥生時代後期の土器は、いわゆる「法仏式」といわれるもので、新潟シンポジウム編年〔滝沢2005〕2期と考えられる。以下、遺物の種類ごとに記載し、その内で遺構出土遺物→包含層出土遺物の順に説明する。

SD12044(図版22-17・18)

17は弥生土器壺の底部片であり、沈線が観察できる。18は弥生土器壺の底部片である。外面にはヘラミガキが観察できる。

SD12060(図版22-19～25)

19は弥生土器壺の底部片である。外面にはヘラミガキがあるほか、底部外面には「×」状のヘラ記号が観察できる。20は弥生土器壺の底部片である。外面にはヘラミガキが確認できる。21・22は弥生土器壺の底部片である。ともに内外面にヘラミガキは確認できない。23は弥生土器高杯の脚部片である。

24～25は弥生土器高杯の杯部である。体部から口縁部にかけて強く外反する。

SD12067 (図版 22-26)

26は須恵器甕の胴部片である。胎土はC2群である。

SD12068 (図版 22-27・28)

27は須恵器甕の胴部片である。胎土はC2群である。28は土師器甕の底部片である。調整は内外面ロクロナデである。

SD12069 (図版 23-29～34)

29・30は須恵器の無台杯である。調整は内外面ロクロナデで、底部は回転ヘラ切りである。胎土はB群である。31は土師器無台杯の底部である。調整は外面ロクロナデ、内面ヘラミガキである。32は土師器無台杯の底部である。調整は内外面ロクロナデで、底部外面は回転ヘラ切りである。33は土師器無台杯の底部である。調整は外面ロクロナデ、内面ミガキであり、底部外面は回転ヘラ切りである。34は土師器有台杯である。調整は外面ロクロナデである。

SD12071 (図版 23-35)

35は須恵器甕の胴部片である。胎土はC2群である。

SD12068・SD12071 (図版 23-36)

36は土師器甕である。口縁部～頸部が残存している。

Ⅲb層 (図版 23-37～45)

37は須恵器甕の胴部である。胎土はC2群である。

38～42は弥生土器甕の底部片である。42は底部外面にハケメ調整が観察できる。43～44は弥生土器高杯の脚部片である。調整は、ともに外面ミガキである。

45は板材の可能性がある。柾目材であり、大きさは長さ 15.7cm、幅 2.9cm、厚さ 0.6cm である。

第VI章 自然科学分析

1 花 粉 分 析

A はじめに

新潟県柏崎市に所在する丘江遺跡において、古植生を検討するために花粉分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。なお、同一試料について植物珪酸体分析も行われている。

B 試 料 と 方 法

分析試料は、基本層序Bから採取された6点と、河12089から採取された9点、基本層序Eから採取された5点の計20点である(第3表・第9図)。このうち、河12089は弥生時代後期から9世紀までの堆積物である。また、基本層序Bと基本層序Eは9世紀から17世紀以降の堆積物であり、両地点のⅠd層～IV層は対応している。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

試料(湿重量約3～4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトトリス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混液を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜ブレバラートを作製して行った。各ブレバラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本(PLC.2373～2382)を作製し、写真を第9図に載せた。

C 結 果

20試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉44、草本花粉33、形態分類を含むシダ植物胞子3の総計80である。これらの花粉・胞子の一覧表を第4表に、花粉分布図を第8図に示した。花粉分布図では、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を、草本花粉・胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(−)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

| 採取用法 | 試料No. | 層位 | 時期 | 土性 |
|--------|-------|--------------|---------|------------------|
| 基本層序B | ① | Ic層 | 17世紀以降 | 褐色 (10YR5/1) 粘土 |
| | ③ | Id層 | 17世紀前半 | 褐色 (10YR5/1) 粘土 |
| | ⑤ | IIa層 | 15～16世紀 | 灰色 (5Y4/1) シルト |
| | ④ | IIb層 | 12～14世紀 | 黑色 (2.5Y2/1) シルト |
| | ⑥ | IIIb層 | 9世紀 | 黑色 (7.5Y2/1) シルト |
| | ⑦ | IV層 | (越山) | 灰色 (6YR5/1) シルト |
| 河12089 | ⑨ | 川-1層 (IIIb層) | 9世紀 | 灰色 (5Y4/1) 粘土 |
| | ⑩ | 川-2層 | | 黑色 (2.5Y2/1) 粘土 |
| | ⑪ | 川-3層 | | 灰色 (5Y4/1) 粘土 |
| | ⑫ | 川-4層 | 弥生後期～ | 灰色 (5Y6/1) 粘土 |
| | ⑬ | 川-5層 | 9世紀 | 黑色 (2.5Y2/1) 粘土 |
| | ⑭ | III-6層上部 | | 灰色 (5Y4/1) 粘土 |
| | ⑮ | III-6層下部 | | 黑色 (2.5Y2/1) 粘土 |
| | ⑯ | 川-7層 | 弥生時代後期 | 黑色 (2.5Y2/1) 粘土 |
| 基本層序E | ⑰ | IV層 | (越山) | 灰色 (5Y5/1) 粘土 |
| | ⑱ | Id層 | 17世紀前半 | 褐色 (10YR5/1) 粘土 |
| | ⑲ | IIa層 | 15～16世紀 | 灰色 (5Y4/1) シルト |
| | ⑳ | IIb層 | 12～14世紀 | 黑色 (2.5Y2/1) シルト |
| | ㉑ | IIIb層 | 9世紀 | 黑色 (7.5Y2/1) シルト |
| | ㉒ | IV層 | (越山) | 灰色 (5Y5/1) シルト |

第3表 分析試料一覧表(花粉分析)

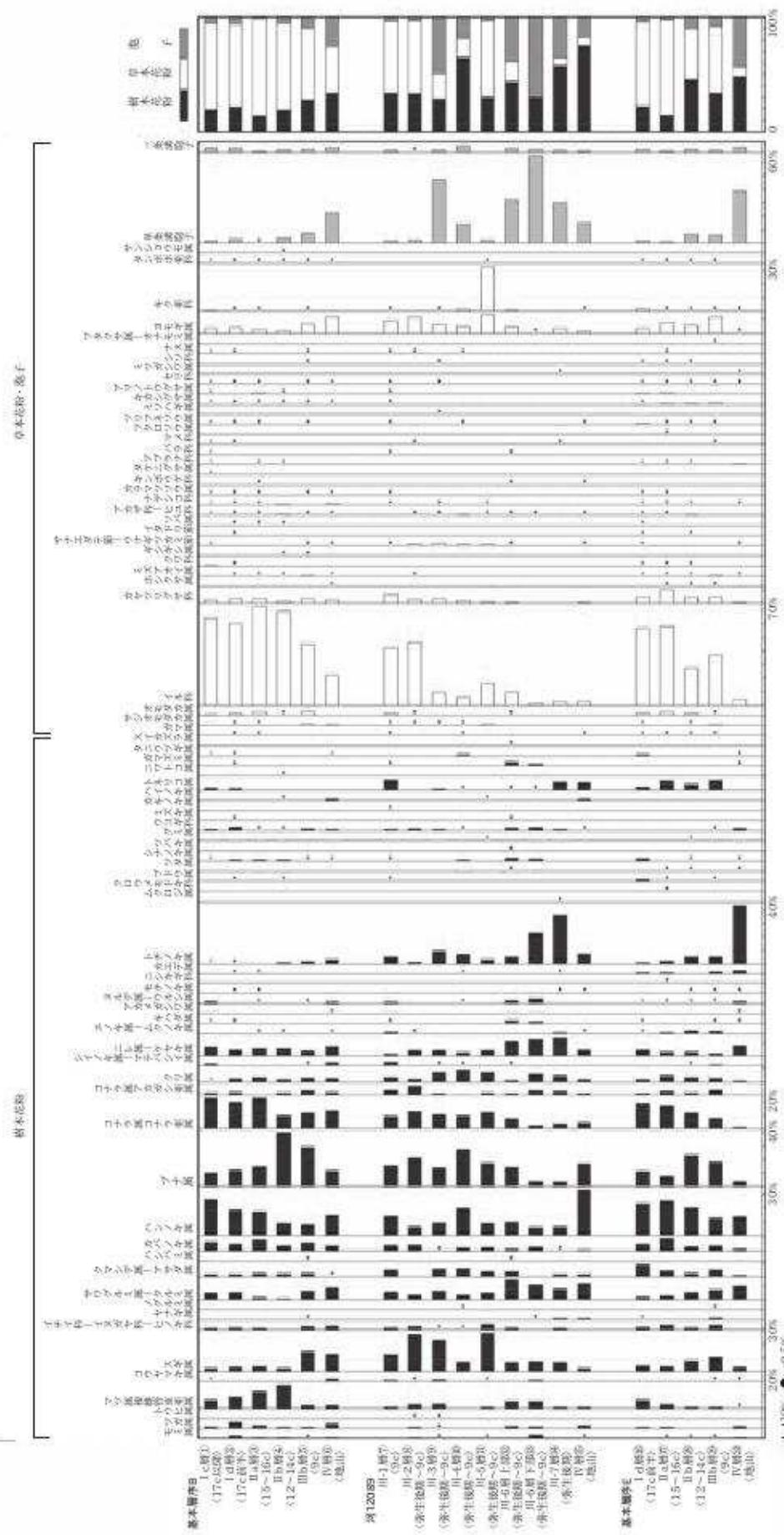
D 考 察

分析試料が採取された各地点では、地山とされるIV層が確認されている。層位的には、河12089のIV層⑯が下位となり、その上位が基本層序BのIV層⑥と考えられている。また、基本層序EのIV層㉙は、花粉組成から考えると、IV層の中で最上位の堆積物と思われる。これらの試料の花粉組成は異なり、最下位の河12089のIV層㉙ではハンノキ属が突出している。河12089のIV層㉙の堆積時期には、低地などにハンノキからなる湿地林が分布していたと思われる。その他の樹木花粉でも、サワグルミ属ークルミ属、ニレ属ーケヤキ属、トチノキ属、トネリコ属など好湿性の分類群が産出しており、遺跡周辺は湿潤な環境であったと考えられる。また、ブナ属の産出も見られ、丘陵地などにはブナ属も分布を広げていたと思われる。その上位の基本層序BのIV層⑥になると、ハンノキ属は減少しているため、湿地林は縮小していくと思われる。代わって増加するのがスギ属である。この時期には低地や丘陵地などにスギ林が分布を広げていた可能性がある。基本層序EのIV層㉙ではトチノキ属が突出している。後述するように、丘江遺跡のトチノキ属は、弥生時代後期を中心とする時期に増加するため、花粉組成から判断すると、基本層序EのIV層㉙は弥生時代後期に近い時期の堆積物であると思われる。

IV層（地山）の上位層で、最も古い時期の花粉組成を示すのが河12089である。河12089の弥生時代後期の堆積層とされる河-7層㉗では、トチノキ属やニレ属ーケヤキ属の産出が目立ち、特にトチノキ属の産出が著しい。弥生時代後期の河川周辺にはトチノキ属が分布を広げていたと考えられる。ただし、トチノキ属は上位層に向かって減少しており、弥生時代後期～9世紀とされる河-6層上部㉘では激減する。よって、トチノキ属の分布の広がりは河-6層下部㉘の堆積時期頃までであったと思われる。その上位の弥生時代後期～9世紀とされる河-5層⑪では、スギ属やブナ属、コナラ属コナラ亜属などの産出が目立つようになり、この時期は遺跡周辺の低地や丘陵地などにスギ林やブナやコナラなどからなる落葉広葉樹林が分布を広げていたと考えられる。なお、植物珪酸体分析においてもこの河-5層⑪では大きな変化が見られ、ヨシ属が多産するようになる。この時期は、樹木の変化とともに、河川周辺にはヨシ属が分布を広げていたと考えられる。花粉分析と植物珪酸体とともに類似した組成が9世紀の河-1層⑦まで続くため、遺跡周辺は9世紀まで類似した植生であったと思われる。

なお、弥生時代後期～9世紀の河-2層⑧より上位では、イネ科の花粉が激増するとともにサジオモダカ属やオモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属などの水田雑草を含む分類群を伴う。こうした花粉組成から、河-2層⑧の堆積時期から水田稲作が行われていたか、水田稲作が拡大したと考えられる。植物珪酸体分析においても河-1層⑦では多くのイネ機動細胞珪酸体の産出が見られ、水田稲作を裏付けるが、河-2層⑧ではイネ機動細胞珪酸体がそれほど産出していない。こうした相違が生じる原因として、いくつかの可能性が考えられる。例えば、花粉化石の場合、花粉形態でイネを特定するのが難しいため、河-2層⑧で増加したイネ科花粉の多くはイネではない可能性が考えられる。あるいは、植物珪酸体と花粉の堆積特性に起因する可能性もある。イネは風媒花で比較的離れた場所からでも花粉が飛来するが、植物珪酸体は現地性が高く、局地的な場所で堆積するため、離れた場所に水田があった場合、イネの植物珪酸体は産出量が増加しないのではなかろうか。

9世紀以降の花粉組成を記録している基本層序Bと同Eの結果を見ると、河12089の河-1層⑦（9世紀）で確認されたのと同様な花粉組成が、両地点のIIb層（12～14世紀）まで確認される。よって、12～14世紀までは同様の植生が継続していたと考えられる。ただし、基本層序BではIIb層④においてマツ属

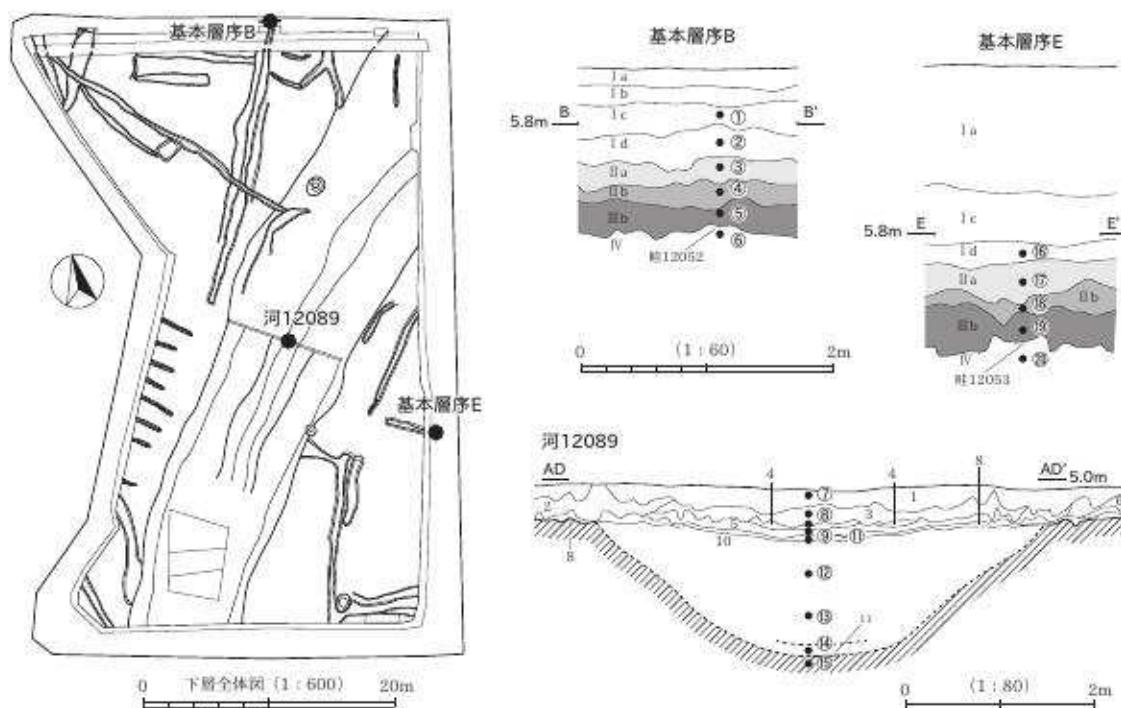
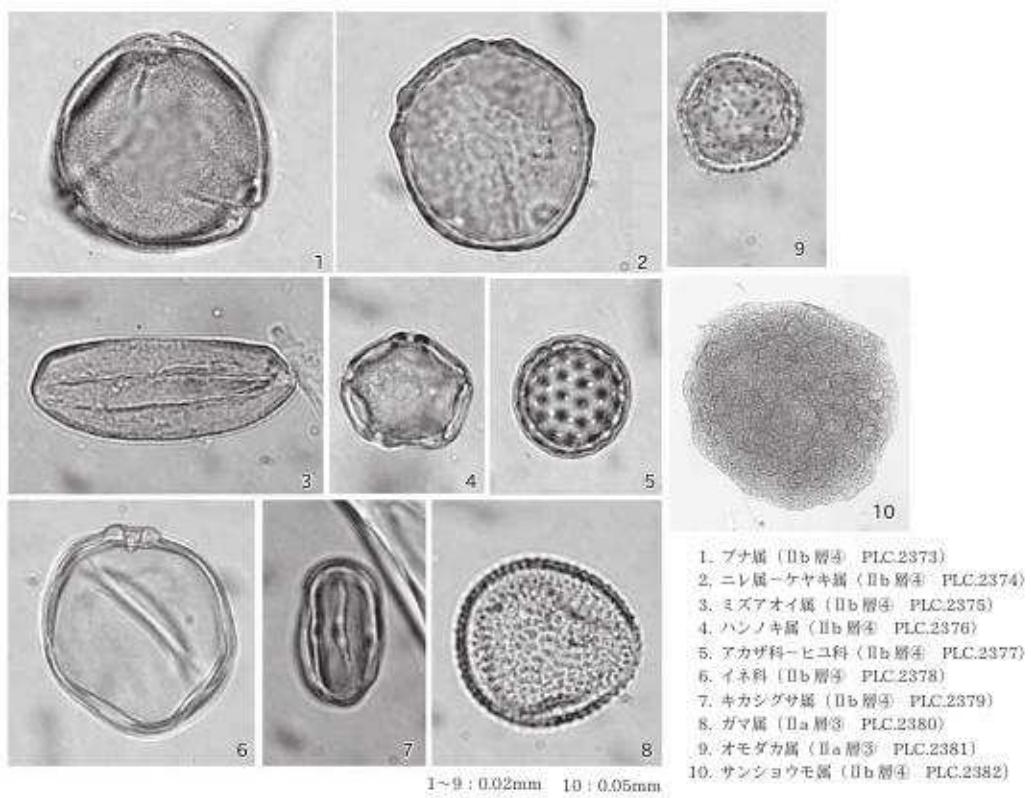


第8図 丘江遺跡における花粉分布図
融木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は剪出花粉粒子総数を基底として百分率で算出した。

I 花 粉 分 析

| 学名 | 和名 | 季節別割合 (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------|-----------|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|
| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
| 樹木 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Aceraceae | モミ属 | - | 5 | 2 | 1 | 2 | - | 2 | 1 | - | 1 | - | 6 | - | 1 | - | 1 | 1 | 1 | 2 | - | - | - | 4 | |
| Taxaceae | ツガ属 | 3 | 10 | 5 | 2 | 2 | 3 | - | - | 1 | 1 | - | - | 4 | 3 | - | 6 | 2 | 2 | - | - | - | - | - | |
| Perco | トウヒ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Pinnatilobigen. Dipteridion | マツ属 樹皮管束束属 | 13 | 17 | 26 | 36 | 5 | 5 | 12 | 6 | 7 | - | 2 | 11 | 11 | 2 | 2 | 13 | 6 | 2 | 2 | 1 | - | - | - | |
| Schizoloma | コウヤマキ属 | 1 | - | - | - | 4 | 2 | 1 | 3 | - | 1 | - | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | |
| Cryptomeria | スギ属 | 5 | 6 | 7 | 8 | 30 | 26 | 24 | 55 | 47 | 15 | 57 | 14 | 15 | 14 | 6 | 8 | 7 | 16 | 23 | 3 | 7 | - | - | |
| Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae | イチイ科-イヌガセ科-ヒノキ科 | 2 | 3 | 2 | - | 5 | 6 | 3 | 5 | 1 | 1 | 9 | 3 | - | 2 | - | 4 | 7 | 3 | 7 | - | - | - | - | |
| Salicaceae | ヤナギ属 | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 2 | 2 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | |
| Platanaceae | ノグリ科 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | |
| Perseuro-Aspleniaceae | サワグルミ属-クルミ属 | 10 | 11 | 3 | 2 | 13 | 17 | 12 | 7 | 13 | 7 | 10 | 30 | 22 | 16 | 25 | 4 | 5 | 11 | 15 | 20 | - | - | - | |
| Carpinus-Ostrya | クマシダ属-アサガシ属 | 3 | 3 | 5 | 4 | 5 | 1 | 10 | - | 11 | 12 | 7 | 7 | - | 3 | 3 | 18 | 8 | 5 | 10 | 2 | - | - | - | |
| Coriaria | ハシバミ属 | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Betula | カバノキ属 | 14 | 11 | 17 | 8 | 13 | 8 | 9 | 10 | 1 | 6 | 5 | 3 | 6 | 1 | 2 | 11 | 19 | 7 | 8 | 1 | - | - | - | |
| Alnus | ハノノキ属 | 63 | 38 | 35 | 17 | 10 | 29 | 28 | 12 | 18 | 41 | 17 | 19 | 11 | 12 | 69 | 48 | 51 | 41 | 25 | 27 | - | - | - | |
| Fagaceae | ブナ属 | 21 | 25 | 30 | 82 | 60 | 23 | 32 | 44 | 57 | 35 | 29 | 8 | 7 | 35 | 23 | 15 | 48 | 37 | 8 | - | - | - | - | |
| Quercus subgen. Lepidozonus | コナラ属コナラ属 | 46 | 41 | 46 | 20 | 24 | 27 | 19 | 26 | 21 | 20 | 25 | 15 | 5 | 8 | 10 | 39 | 34 | 24 | 16 | 2 | - | - | - | |
| Quercus subgen. Cyclocephalozonus | コナラ属アカガシ属 | 3 | 4 | - | 3 | 6 | 4 | 7 | 14 | 3 | - | 3 | 8 | 5 | 6 | 5 | 2 | 5 | 3 | 7 | - | - | - | - | |
| Cussonia | クリ属 | 1 | 6 | 8 | 4 | 7 | 6 | 8 | 5 | 15 | 20 | 15 | 3 | 12 | 10 | 4 | 4 | 10 | 8 | 6 | 2 | - | - | - | |
| Castanopsis-Punaria | シノノキ属-マテバシイ属 | 3 | - | - | 1 | 5 | 6 | - | 1 | 1 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 2 | |
| Ulmus-Zelkova | ニレ属-ケヤキ属 | 14 | 9 | 11 | 11 | 7 | 14 | 3 | 8 | 8 | 8 | 22 | 25 | 28 | 9 | 9 | 6 | 5 | 4 | 16 | - | - | - | - | |
| Celtis-Apocynaceae | エノキ属-ムクノキ属 | - | - | 1 | 1 | - | - | 1 | 3 | - | - | - | - | - | - | 2 | 1 | 1 | 2 | 3 | 4 | - | - | - | |
| Phellodendron | キハダ属 | 1 | 1 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 1 | |
| Mallotus | アカメガシ属 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Rhus-Taxodiaceae | ヌルゲ属-ウルシ属 | 3 | - | 3 | - | 1 | 2 | 3 | - | - | 1 | - | 4 | 7 | - | 1 | 1 | 3 | 3 | 1 | - | - | - | - | |
| Rit | モチノキ属 | - | 4 | 4 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Celastraceae | ニシキギ科 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Aceraceae | カエデ属 | - | 2 | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 2 | 2 | - | 4 | 6 | - | - | |
| Aesculus | トチノキ属 | 3 | 3 | - | 2 | 4 | 7 | 11 | 3 | 20 | 15 | 7 | 11 | 46 | 73 | 16 | 2 | 5 | 14 | 11 | 88 | - | - | - | - |
| Sapindaceae | ムクロジ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Rhamnaceae | クロウメモドキ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Vitis | ブドウ属 | - | 3 | - | 1 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | |
| Parthenocissus | ツタ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Tilia | シナノキ属 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | - | - | - | 5 | 3 | - | - | 4 | - | 3 | - | - | - | - | - | |
| Cornell | ツバキ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Elaeagnaceae | グミ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Araliaceae | ウコギ科 | 2 | 6 | 4 | 1 | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 1 | - | 4 | 6 | 2 | 2 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | |
| Coriaria | ミズキ属 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Dioscorea | カキノキ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Symplocos | ハイノキ属 | - | - | - | 1 | - | 2 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Fernaceae | トリソコ属 | 3 | 3 | - | - | - | - | 16 | - | 3 | 4 | - | 1 | 12 | 11 | 6 | 14 | 9 | 15 | - | - | - | - | - | |
| Sorbaria | ニワトコ属 | - | - | - | - | 1 | - | - | - | 1 | - | - | 6 | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Yahurum | ガマズミ属 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Wrigella | タニウツギ属 | 1 | 1 | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Lonicera | スイカズラ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 草本 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Typha | カヌマ属 | - | 4 | 1 | - | - | 3 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | 1 | 3 | 1 | 2 | 2 | - | - | - | - | - |
| Aloina | サンショウモカ属 | - | 2 | 3 | - | 7 | 4 | 2 | 3 | 2 | 1 | 8 | - | - | - | 1 | - | - | 1 | 4 | - | - | - | - | - |
| Sagittaria | オモダカ属 | 7 | 13 | 34 | 5 | 20 | - | 9 | 1 | - | - | - | 1 | - | - | 17 | 36 | 6 | 3 | - | - | - | - | - | - |
| Gramineae | イネ科 | 680 | 583 | 1063 | 762 | 330 | 135 | 259 | 288 | 68 | 19 | 112 | 47 | 8 | 10 | 6 | 530 | 827 | 124 | 223 | 19 | - | - | - | - |
| Cyperaceae | カヤツリグサ科 | 26 | 35 | 52 | 14 | 26 | 15 | 38 | 18 | 24 | 6 | 7 | 5 | - | - | 2 | 41 | 142 | 21 | 29 | 3 | - | - | - | - |
| Eriocaulaceae | ホシクサ属 | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Monochoria | ミズアオイ属 | - | 2 | 7 | 4 | 6 | 3 | - | 4 | - | - | - | - | - | - | - | 3 | 7 | 2 | 4 | 1 | - | - | - | |
| Moraceae | クワ科 | 4 | 4 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 1 | 1 | 1 | - | - | - | - | |
| Rubiaceae | ギンガム属 | - | - | - | 1 | 1 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Polygonum sect. Persicaria-Ecliptioides | ナナエタデ属-ワナギツカス属 | 1 | - | - | 2 | 2 | 1 | 3 | 8 | 12 | 2 | 8 | - | - | - | - | 12 | - | - | - | - | - | - | 2 | |
| Polygonum sect. Remusatia | イタドリ属 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Fagopyrum | ゾバ属 | - | 2 | 4 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Cheonopodiaceae-Amaranthaceae | アカザ科-ヒユ科 | 4 | 2 | 3 | 10 | 3 | 2 | - | 2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | - | 2 | 1 | 1 | 3 | 1 | 3 | 2 | 1 | |
| Caryophyllaceae | ナデシコ科 | 1 | 0 | 18 | 6 | - | 6 | 0 | 3 | 2 | - | 1 | - | - | - | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| Thlaspium | カラマツソウ属 | 1 | 1 | 2 | - | - | 1 | 1 | 2 | - | - | - | - | - | - | - | 2 | 2 | 2 | 1 | - | - | - | - | |
| Ranunculaceae | キンポウゲ科 | - | - | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Lamiaceae | タケニグサ属 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Violaceae | キシノグサ属 | 2 | 2 | 5 | 4 | 3 | 1 | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Araliaceae | アリノトウグサ属 | 3 | - | 15 | 6 | 1 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | 7 | 16 | - | - | - | - | - | - | |
| Apoaceae | セリ科 | 4 | 3 | 13 | - | 1 | 1 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | 4 | 5 | 2 | 3 | 2 | - | - | - | |
| Mexicanthes | ミツガシワ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | |
| Labiatae | シソ科 | - | - | - | - | 1 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 1 | 1 | - | - | - | - | - | |
| Salicaceae | ナス科 | 1 | 1 | - | - | 1 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Antennaria-Kordyloma | ブタクサ属-オナモミ属 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| Arenaria | ヨモギ属 | 37 | 36 | 37 | 17 | 47 | 72 | 55 | 72 | 43 | 15 | 92 | 20 | 2 | 12 | 3 | 32 | 106 | 69 | 2 | - | - | - | - | - |
| Nomarihara poden | サボテン花粉 | 793 | 700 | 1240 | 831 | 452 | 244 | 386 | 395 | 158 | 62 | 456 | 78 | 11 | 24 | 19 | 679 | 1176 | 202 | 350 | 35 | - | - | - | - |
| Spores | シダ植物孢子 | 65 | 57 | 14 | 64 | 72 | 154 | 20 | 15 | 345 | 61 | 16 | 158 | 440 | 110 | 44 | 36 | 28 | 40 | 45 | 177 | - | - | - | - |
| Total Pollen & Spores | 花粉・孢子総数 | 1052 | 965 | 1458 | 1100 | 729 | 599 | 612 | 615 | 706 | 321 | 676 | 440 | 652 | 336 | 269 | 921 | 1408 | 448 | 600 | 413 | - | - | - | - |
| unknown | 不明 | 7 | 5 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 | 5 | 4 | 0 | 7 | 26 | 8 | 15 | 5 | 7 | 6 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | |

第4表 産出花粉・胞子一覧



第9図 丘江遺跡から産出した花粉化石と土壤サンプルの位置

複雑管束莖属が増加しており、基本層序 B 周辺では、ニヨウマツ類が分布を広げていたようである。また、発掘調査では、基本層序 B の IIb 層④上面と IIIb 層⑤上面で珪が検出されている。花粉分析結果では、IIIb 層⑤から上位層に向かってイネ科花粉の増加傾向が見られるとともに、水田雑草の産出も見られる。植物珪酸体分析でも、IIIb 層⑤では稲作の存在が確認できるほどのイネ機動細胞珪酸体は検出されていないが、IIb 層④では稲作の存在が確認できる量が検出されており、IIb 層④の方に稲作の痕跡が色濃く残る。IIb 層④におけるマツ属複雑管束莖属の増加は、基本層序 B 周辺の稲作の開始または拡大に伴う人間活動の活発化によって形成された二次林の発達を示している可能性がある。逆に、基本層序 E の IIb 層⑧と IIIb 層⑨では、下位層の IIIb 層⑩でイネ科花粉の産出率が高く、植物珪酸体分析においても IIIb 層⑩のみで稲作の存在が確認されており、IIIb 層⑩で稲作の痕跡が強く残る。

IIa 層（15～16世紀）以上の層準になると、両地点ともにスギ属とブナ属が減少し、ハンノキ属とコナラ属コナラ属が増加するといった共通の花粉組成の変化が見られる。この時期は、低湿地に生育していたスギ林の分布が縮小するとともに、ハンノキ林が拡大し、丘陵地に生育していたブナ属の分布が縮小するとともに、コナラ属コナラ属が拡大するなどの植生変化があったと思われる。さらに、両地点ともにイネ科がさらに産出率を上げている。この時期には、水田稲作がますます盛んに行われていたと考えられるが、植物珪酸体分析ではイネ機動細胞珪酸体が産出しない層準や産出が少ない層準もあり、状況は様々である。また、I d 層や IIa 層を中心に栽培植物のソバ属が産出しており、ソバ栽培も行われていたと考えられる。こうした植生の傾向は、17世紀以降の堆積層とされる Ic 層①まで続いている。

2 植物珪酸体分析

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オバール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体（プラント・オバール）分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山 2000〕。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山 1984〕。

丘江遺跡 V は、鰐石川左岸の沖積地に立地する。発掘調査において、弥生時代から室町時代の水田跡が確認されている。ここでは、水田跡とみられている土層における稲作の可能性の検討を主目的として、植物珪酸体分析を行った。なお、同一試料を用いて花粉分析も行われている。

B 試料と方法

分析試料は、基本層序 B から採取された 6 点と、河 12089 から採取された 9 点、基本層序 E から採取された 5 点の、計 20 点であり、花粉分析と同一の試料である（第 5 表）。このうち、河 12089 は弥生時代後期から 9 世紀までの堆積物である。また、基本層序 B と同 E は 9 世紀か

| 採取場所 | 試料 No. | 層位 | 時期 | 土相 |
|---------|--------|----------------|---------|------------------|
| 基本層序 B | ① | Ia 層 | 17世紀以前 | 褐色 (10YR6/1) 黏土 |
| | ② | I d 層 | 17世紀前半 | 褐色 (10YR6/1) 黏土 |
| | ③ | IIa 層 | 15～16世紀 | 灰色 (5Y4/1) シルト |
| | ④ | IIb 層 | 12～14世紀 | 黒色 (2.5Y2/1) シルト |
| | ⑤ | IIIb 層 | 9世紀 | 黒色 (7.5Y2/1) クルト |
| | ⑥ | IV 層 | (堆山) | 灰色 (5YR5/1) シルト |
| 河 12089 | ⑦ | 川-1 層 (IIIb 層) | 9世紀 | 灰色 (5Y4/1) 黏土 |
| | ⑧ | 川-2 層 | | 黒色 (2.5Y2/1) 黏土 |
| | ⑨ | 川-3 層 | | 灰色 (5Y4/1) 黏土 |
| | ⑩ | 川-4 層 | 弥生後期～ | 灰色 (5Y6/1) 黏土 |
| | ⑪ | 川-5 層 | 9世紀 | 黒色 (2.5Y2/1) 黏土 |
| | ⑫ | III-6 層上部 | | 灰色 (5Y4/1) 黏土 |
| | ⑬ | III-6 層下部 | | 黒色 (2.5Y2/1) 黏土 |
| | ⑭ | 川-7 層 | 弥生時代後期 | 黒色 (2.5Y2/1) 黏土 |
| | ⑮ | IV 層 | (堆山) | 灰色 (5Y5/1) 黏土 |
| 基本層序 E | ⑯ | I d 層 | 17世紀前半 | 褐色 (10YR6/1) 黏土 |
| | ⑰ | IIa 層 | 15～16世紀 | 灰色 (5Y4/1) シルト |
| | ⑱ | IIb 層 | 12～14世紀 | 黒色 (2.5Y2/1) シルト |
| | ⑲ | IIIb 层 | 9世紀 | 黒色 (7.5Y2/1) クルト |
| | ⑳ | IV 層 | (堆山) | 灰色 (5Y5/1) シルト |

第 5 表 分析試料一覧（植物珪酸体分析）

ら17世紀以降の堆積物であり、両地点のⅠd層～IV層は対応している。これらの試料について、ガラスピーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で分析を行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥(絶乾)する。
- 2) 試料約1gに直径約40μmのガラスピーズを約0.02g添加する。
- 3) 電気炉灰化法(550°C・6時間)により脱有機物処理を行う。
- 4) 超音波水中照射(300W・42kHz・10分間)により分散する。
- 5) 沈底法により20μm以下の微粒子を除去する。
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラートを作製する。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞(葉身にのみ形成される)に由来する植物珪酸体を同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピーズ個数が500以上になるまで行った。これは、ほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。検鏡結果は、計数值を試料1g中の植物珪酸体個数(試料1gあたりのガラスピーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスピーズの個数の比率を乗じて求める)に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重(ここでは1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10⁶g)を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山2000〕。各分類群の換算係数は、イネ(赤米)が2.94(種実重は1.03)、ヨシ属(ヨシ)が6.31、ススキ属(ススキ)が1.24、ネザサ節型が0.48、チマキザサ節が0.75、ミヤコザサ節が0.30である〔杉山2000〕。

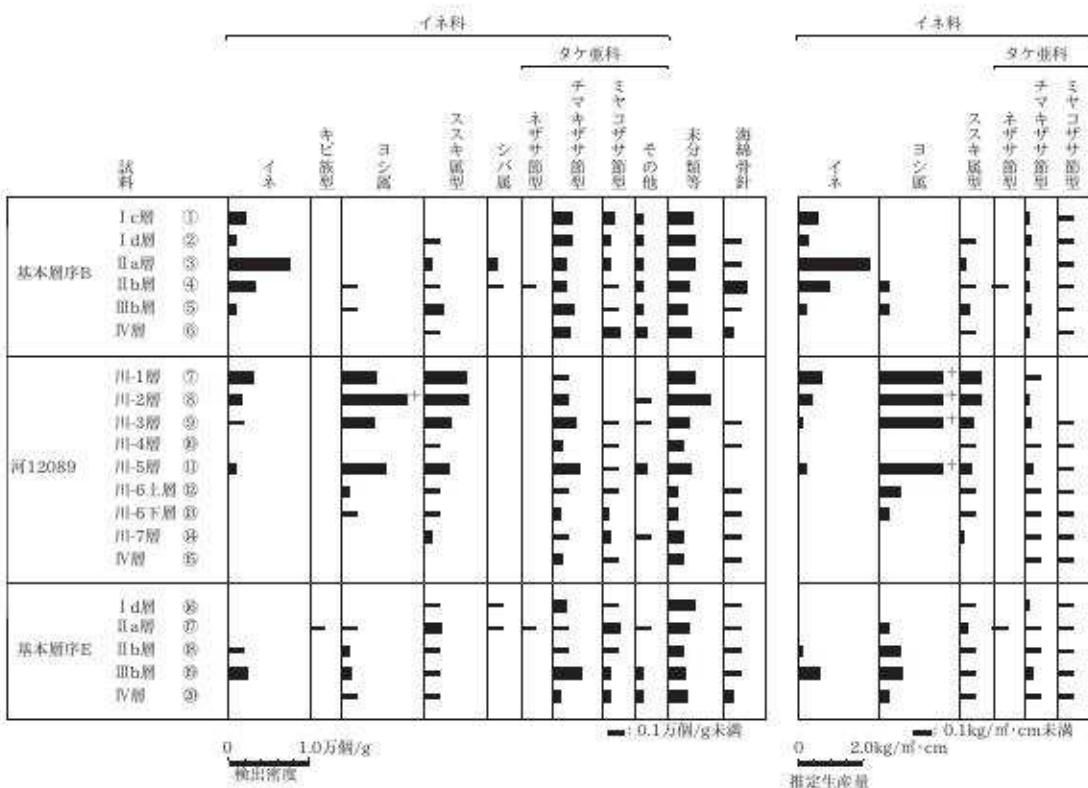
C 結 果

検出された植物珪酸体は、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、シバ属、タケ亜科(ネザサ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、その他)および未分類の植物珪酸体である。また、植物珪酸体以外には海綿骨針が確認された。これらの分類群について定量化を行い、その結果を第6表、第10図に示した。また、主要な分類群については顕微鏡写真を第11図に示す。

検出密度(単位:×100個/g)

| 分類群(和名・学名) | 基本層序B | | | | | | | | | | 河12089 | | | | | | | | | | 基本層序E | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|--|--|--|--|
| | Ic | | | | | Id | | | | | IIa | | | | | IIb | | | | | IIIb | | | | | IV | | | | | Ia | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ | ⑮ | ⑯ | ⑰ | ⑱ | ⑲ | ㉑ | ㉒ | ㉓ | ㉔ | ㉕ | ㉖ | ㉗ | ㉘ | ㉙ | ㉚ | | | | | | |
| イネ科 | Gramineae (Grasses) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ | <i>Oryzaceae</i> | 23 | 12 | 78 | 34 | 11 | | 35 | 19 | 6 | | 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | 24 | | | | | |
| キビ族型 | Panicoid type | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | |
| ヨシ属 | <i>Phragmites</i> | | | | | | | 6 | 8 | | 43 | 187 | 41 | | | | 58 | 11 | 8 | | | | | | | | | 6 | 11 | 12 | 5 | | | | |
| ススキ族型 | <i>Miscanthoid type</i> | | | | | | | 6 | 12 | 6 | 27 | 6 | 55 | 56 | 35 | 6 | 33 | 6 | 5 | 11 | | | | | | 6 | 23 | 9 | 6 | 5 | | | | | |
| シバ属 | <i>Zizanioidae</i> | | | | | | | 12 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | 6 | | | | | |
| タケ亜科 | Bambusoideae (Bamboo) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ネザサ節型 | <i>Pleiodontia sect. Nezasa</i> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | |
| チマキザサ節型 | <i>Sasa sect. Sasa eti.</i> | 23 | 24 | 18 | 17 | 27 | 22 | 6 | 19 | 30 | 12 | 33 | 5 | 10 | 6 | 12 | 18 | 6 | 5 | 36 | 11 | | | | | | | | | | | | | | |
| ミヤコザサ節型 | <i>Sasa sect. Chassindodi</i> | 17 | 12 | 12 | 6 | 6 | 22 | | | | 6 | 6 | 5 | 9 | 10 | 11 | 6 | 6 | 23 | 5 | 12 | 11 | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | Others | 12 | 12 | 12 | 11 | 11 | 17 | | | | 6 | 6 | 16 | | | | 6 | | | | | | | | | | 6 | 12 | 11 | | | | | | |
| 未分類等 | Unknown | 35 | 36 | 36 | 29 | 27 | 33 | 33 | 56 | 80 | 23 | 33 | 16 | 16 | 22 | 23 | 36 | 29 | 22 | 24 | 27 | | | | | | | | | | | | | | |
| (海綿骨針) | sponge | 6 | 6 | 23 | 5 | 11 | | | | | 5 | 6 | 5 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 11 | | | | | | | |
| 植物珪体總数 | | 110 | 102 | 180 | 121 | 113 | 100 | 172 | 343 | 154 | 47 | 188 | 42 | 46 | 56 | 41 | 72 | 111 | 63 | 126 | 70 | | | | | | | | | | | | | | |
| おもな分類群の推定生産量(単位:kg/m ² ・cm) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ | <i>Oryza sativa</i> | 0.68 | 0.35 | 2.28 | 1.01 | 0.32 | | 0.90 | 0.55 | 0.17 | | 0.32 | | | | | | | | | | | | | | | 0.16 | 0.70 | | | | | | | |
| ヨシ属 | <i>Phragmites</i> | | | | | | | 0.36 | 0.34 | | 2.71 | 11.78 | 2.61 | | | 3.46 | 0.68 | 0.33 | | | | | | | | 0.36 | 0.68 | 0.75 | 0.34 | | | | | | |
| ススキ族型 | <i>Miscanthoid type</i> | | | | | | | 0.07 | 0.15 | 0.07 | 0.33 | 0.07 | 0.68 | 0.69 | 0.44 | 0.07 | 0.41 | 0.07 | 0.06 | 0.14 | | | | | 0.08 | 0.29 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | | | | | | |
| ネザサ節型 | <i>Pleiodontia sect. Nezasa</i> | | | | | | | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0.03 | | | | | | | |
| チマキザサ節型 | <i>Sasa sect. Sasa eti.</i> | 0.17 | 0.18 | 0.13 | 0.13 | 0.20 | 0.17 | 0.05 | 0.14 | 0.22 | 0.05 | 0.25 | 0.04 | 0.08 | 0.04 | 0.09 | 0.14 | 0.04 | 0.04 | 0.27 | 0.08 | | | | | | | | | | | | | | |
| ミヤコザサ節型 | <i>Sasa sect. Chassindodi</i> | 0.05 | 0.04 | 0.04 | 0.02 | 0.02 | 0.07 | | | | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.03 | 0.03 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.03 | 0.03 | | | | | |

第6表 丘江遺跡の植物珪酸体分析結果



第10図 丘江遺跡の植物珪酸体分析結果

D 考 察

1) 稲作跡の検討

植物珪酸体分析において稲作跡の探査や検証を行う場合、通常、イネの植物珪酸体（プラント・オバール）が試料 1gあたり 5,000 個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している【杉山 2000】。なお、最近の調査では密度が 3,000 個 /g 程度あるいはそれ未満であっても水田遺構が検出された事例が報告されており、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行う。

a 基本層序 B

Ic 層①からIV層⑥までの層準について分析を行った。その結果、9世紀のIIIb 層⑤以上の層準からイネが検出された。このうち、IIa 層③と、畔が検出されている IIb 層④では密度がそれぞれ 7,800 個 /g、3,400 個 /g と高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。Ic 層①についても、密度が 2,300 個 /g と比較的高い値であるため、調査地もしくは近傍で稲作が行われていた可能性が考えられる。Id 層②では、イネが検出されているものの、密度が低い。その原因としては、稲作が行われていた期間が短かった可能性や、土層の堆積速度が速かった可能性、採取地点が畦畔など耕作面以外であった可能性、および水田ではないところに上層や他所からイネ機動細胞珪酸体が混入した可能性などが考えられる。

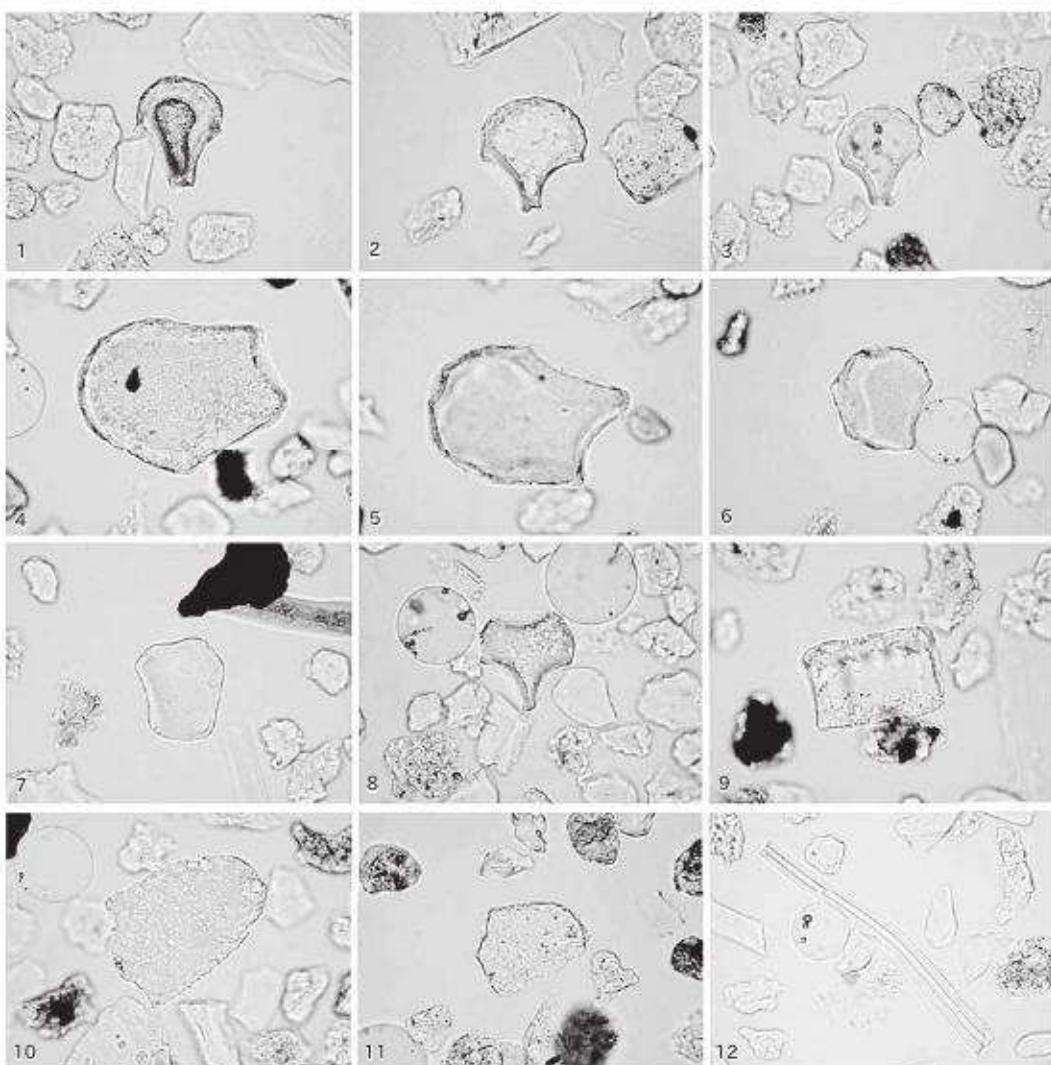
畔が検出されているIIIb 層⑤では、密度が 1,100 個 /g と低く、同じく畔が検出されているIV層⑥ではイネが検出されていない。したがって、これらの層では調査地において稲作が行われていた可能性を積極的に否定するのは難しく、近傍で稲作が行われていたなどの可能性が考えられる。

b 河 SD12089

河-1層⑦からIV層⑯までの層準について分析を行った。その結果、河-1層⑦、河-2層⑧、河-3層⑨、河-5層⑪からイネが検出された。このうち、河-1層⑦では密度が3,100個/gと高い値である。したがって、河-1層⑦では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。河-2層⑧と河-3層⑨、河-5層⑪では、密度がそれぞれ1,900個/g、600個/gおよび1,100個/gと低い値であり、これらの層では調査地で稲作が行われていた可能性は考えにくく、上層あるいは近傍で稲作が行われていた可能性が考えられる。

c 基本層序 E

I d層⑯からIV層⑯までの層準について分析を行った。その結果、II b層⑬とIII b層⑭からイネが検出された。群が検出されているIII b層⑭では、密度が2,400個/gと比較的高い値であり、調査地もしくは



- 1. イネ機動細胞珪酸体 (II a 層③)
- 2. イネ短動細胞珪酸体 (III b 層⑤)
- 3. イネ機動細胞珪酸体 (II -1 層①)
- 4. ヨシ長機動細胞珪酸体 (III b 層⑤)
- 5. ヨシ圓機動細胞珪酸体 (川-2 層⑧)
- 6. ススキ圓型機動細胞珪酸体 (III b 層⑤)
- 7. ススキ圓型機動細胞珪酸体 (川-2 層⑧)
- 8. シバ圓機動細胞珪酸体 (II a 層③)
- 9. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (II a 層⑦)
- 10. チマキササ節型機動細胞珪酸体 (III b 層⑤)
- 11. ミヤコザサ節型機動細胞珪酸体 (IV 層⑯)
- 12. 海綿骨針 (II b 層④)

第11図 丘江遺跡から産出した植物珪酸体

近傍において稻作が行われていた可能性が考えられる。同じく畔が検出されている IIb 層^⑯では密度が 500 個 /g、IV 層^⑰ではイネが検出されていないため、これらの層においては調査地で稻作が行われていた可能性を積極的に肯定するのは難しい。

2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれる分類群には、イネ以外にムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクヒエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。今回の丘江遺跡の試料からは、これらの分類群はいずれも検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には検討が不十分な分類群もあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来する分類群が含まれている可能性がある。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題である。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類、葉菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群の検出状況と、そこから推定される植生・環境について検討を行った。3つの地点のうち、最も特徴的な組成を示すのが、河 12089 である。河 12089 では、弥生時代後期～9世紀の河 -5 層^⑪でヨシ属が非常に高い密度を示し、河 -4 層^⑩ではヨシ属の産出が見られないものの、河 -3 層^⑨、河 -2 層^⑧、河 -1 層^⑦でも高い密度を示す。よって、河川周辺では、弥生時代後期～9世紀の河 -5 層^⑪の堆積時期からヨシ属の繁茂する湿地的環境となり、一時期、ヨシ属が生育しない時期があるものの、9世紀まで湿地的環境が広がっていたと考えられる。また、これらの層ではススキ属型も高い密度で検出されている。ここで検出されたススキ属型の多くは、湿った環境に生育するオギである可能性が高い。その他にもこれらの層準では、チマキザサ節型やミヤコザサ節型などが認められたが、いずれも少量である。なお、花粉分析の結果では、河 -5 層^⑪から樹木花粉の組成が変化しており、河川周辺だけでなく、遺跡周辺の樹木もこの時期に変化したと考えられる。

基本層序 B や同 E では、各層でススキ属型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、部分的にヨシ属、シバ属型、ネザサ節型などが検出されている。おもな分類群の推定生産量によると、イネ以外ではおおむねヨシ属が優勢となっている。

引用・参考文献

- 杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－、考古学と自然科学、19, 69-84.
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追及のための基礎資料として－、考古学と自然科学、20, 81-92.
- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、考古学と植物学、同成社、189-213.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－、考古学と自然科学、9, 15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水田址の探査－、考古学と自然科学、17, 73-85.

第VII章 ま　と　め

1 遺　　物

遺物は遺構外から出土したものが大半を占める。土器・陶磁器がほとんどで木製品や金属製品の出土は少ない。遺物が比較的多く出土した遺構としてはSD12000（上層）、SD12067・SD12068・SD120069・SD12044・SD12060（下層）がある。SD12000は近世、SD12067～12069は9世紀後半、SD12044・SD12060は弥生時代後期の遺構である。

近世の遺物は主に陶器類であり出土量は少ない。丘江遺跡の過去の調査〔笛澤2018、今井2018〕や山崎遺跡〔継2018〕でも報告されている。

中世の遺物は珠洲焼・青磁・白磁・土師質土器が出土している。遺物の年代は12世紀後半～15世紀である。12世紀の遺物を含んでおり、山崎遺跡〔継2018〕の出土遺物と年代が共通しており、本調査区との関連が伺える。

弥生時代後期の土器は壺・甕・高杯が確認でき、壺と甕は底部、高杯は杯部と脚部を図化した。全形を把握できるものはなく、年代が分かるものは少数だが、高杯の杯部や脚部の形状などから新潟シンポ編年2期の中段階に相当すると思われる。

2 遺　　構

上　　層（図版2～7・25～27）

溝・畔を検出した。水田の耕作土と考えるIIa層のプラント・オパール分析の結果も水田耕作であったことを裏付ける。水田の年代は出土遺物から15～16世紀と思われる。

溝　調査区北側に東西に延びるSD12000は近世の陶器が出土した。基本層序D（第7図）ではIIa層を切っている。溝か機能していたのは近世である。

畦（図版2）東西方向に延びる畦は調査区南側の12001・12003・12004であり、これらはほぼ並行する。畦の下端幅は約70cm前後で、近隣に所在する宝田遺跡〔飯坂ほか2015〕小畦畔と規模は類似する。畦12001と畦12002の間隔は約15m、畦12002と畦12003との間隔は約9mで区画の画一性はない。東西方向は調査区南側で畦12002・12005が検出された。畦12002は下端幅が約80cm前後で南北の畦とほぼ同様の規模である。畦12005の残存状況は非常に悪く下端部のみが検出された。

南側で検出された畦12001～12005はIIb層を掘り込んでいるが、SD12000と並行する畦12006～12008は灰色粘土を台形状に積み上げた状況を確認できた。

踏み抜き（図版27）耕作時に水田底面を搅拌した痕跡であり、畦12006の南側や畦12002周辺、畦12004の西側で顕著に確認された。大きさや方向に規則性は見いだせなかった。踏み抜きは人の足跡や牛の蹄などが確認されることが多いが本調査ではそのような明確な痕跡は確認されなかった。

中層遺構（図版8～14・28～30）

溝・畦を検出した。水田の耕作土と考えるIIb層のプラント・オパール分析の結果も水田であることを

裏付ける。水田の年代は出土遺物から 12～14 世紀と思われる。

溝 溝は 8 条検出された。SD12022・12025 は水田への取排水の機能が推定される。SD12022 は IIIb 層を掘り込み、部分的に畦と並行している。7I15 付近で水田と繋がり 8I9 付近で東西方方向へ延びる。SD12063・12064・12036・12037・12038・12029 は長軸方向がほぼ同じであり、畦 12030 や畦 12024 等と並行関係にあり水田関連施設の可能性がある。

畦 畦は東西方向 14 条、南北方向 6 条を検出した。畦の規模は幅が 50cm 以上の広いものと 20cm 程度の狭いものに分けられる。規模の異なる畦で構成される中世の水田は近隣で宝田遺跡があげられる。広い幅の畦は東西方向で畦 12027、南北方向では畦 12040・12023 で、他は狭い幅の畦である。ただし、幅の広い畦と狭い畦の機能の違いは見いだせなかった。

区画 中層は畦の残存状況が悪いため水田の一筆を把握するのは困難であるが、部分的に推測できる。調査区南側にある東西方向の畦 12017・12033・12032 は間隔が約 6m と近似している。また、調査区北側では畦 12061・12062・12028 で囲まれた部分は一筆の水田の可能性があり、東西 2.0m、南北 2.5m の長方形の区画である。この区画では水口は確認できなかった。給水の方向は水口が開けられない懸け流し灌漑か水の供給時に畦の一部を切削しその後塞ぐ方法が考えられる〔工楽 1991〕。

水口 畦 12042 と畦 12043、畦 12033 と畦 12019 の間は畔が途切れおり水口の可能性がある。

下層遺構（図版 15～21・31～35）

下層は調査区のほぼ中央を旧河道（河 12089）が縱断している。河道付近で井戸、ピット、溝、畦を検出した。建物跡は検出されていない。プラント・オパール分析では水田耕作の可能性が指摘されている。出土遺物から調査区南西コーナー付近の SD12044・12060 は弥生時代後期、その他の遺構の多くは 9 世紀後半頃と思われるが、水田は中世まで下る可能性がある。

井戸 河道付近から井戸 SE12049 を検出した。井戸は深さ約 135cm あり、周囲に溝や畦があり、溜井の可能性がある。

溝 調査区の南西部や畦の両側で検出された。SD12050・12065、SD12051・12052、SD12085・12086 は並行しており、畦と並行するものもあり、水田に関連した遺構と思われる。SD12073～12080 は畑作溝と思われる。調査区外にのびているため長さは不明だが、SD12073～SD12079 までの間隔はほぼ均等で 1.3m 程である。SD12044 及び SD12060 は出土遺物から弥生時代後期、河 12089 最下層も弥生後期であり、弥生後期には川の近くに溝数条が存在していた。

本調査区は上層・中層・下層とも建物が検出されず、畦・溝・井戸などを検出した。弥生時代後期に溝が存在し、その後 9 世紀後半に畠地として土地利用が再開される。12 世紀頃には水田が作られた可能性があり、以後、16 世紀まで水田として利用されていた。弥生時代後期と 9 世紀後半は、遺物が定量出土していることから、集落の外縁付近にあたる可能性がある。

引用・参考文献

- 相田泰臣 2004 「越後における古墳時代後期を中心とした土器の一様相」『新潟考古第15号』 新潟県考古学会
- 荒川隆史・加藤 学ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集和泉A遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 有坪民雄 2006 「コメ農家の仕事」『イラスト図解 コメのすべて』 日本実業出版社
- 家田淳一ほか 2000 「陶器の編年 2 捶鉢・鉢・片口・水指・茶入・土瓶・水注・灯火具」『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会
- 飯坂盛康ほか 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第252集 宝田遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第241集 山崎遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀ほか 2014 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第246集 剣野沢遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 今井昭俊ほか 2018 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第275集 丘江遺跡I』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 大橋康二 1989 『肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社
- 大野隆一郎・徳間正一ほか 1990 「大地」『柏崎市史』上巻 新潟県柏崎市史編纂委員会
- 柏崎市史編さん委員会 1982 『柏崎市史資料集』考古編2
- 柏崎市史編さん委員会 1987 『柏崎市史資料集』考古編1
- 春日真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院
- 春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について—「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心にして—」『新潟考古』16 新潟県考古学会
- 春日真実 2015 「第VII章 まとめ1 土器・陶磁器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第254集 箕輪遺跡II』 新潟県教育委員会・公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実・坂上有紀ほか 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第254集 箕輪遺跡II』 新潟県教育委員会・公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金子拓男 1990 「第6章 第3節 三島郡の分立、第5節 交通と交通路、第6節 延喜式内神社」『柏崎市史』上巻 新潟県柏崎市史編さん委員会
- 工楽普通 1991 『水田の考古学』 財團法人東京大学出版会
- 小池邦明 1999 「第5章 中世 第2節 陶磁器の組成と変遷 第1項 中世前期」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会編 高志書院
- 小池義人 1999 「第4章-4-1 水田遺構」『新潟県の考古学』 高志書院
- 笛澤正史ほか 2018 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第274集 丘江遺跡II』 新潟県教育委員会・公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 品田高志 1991 「越後の中世土師器」『新潟考古学談話会会報』第8号 新潟考古学談話会
- 品田高志 1995 「総括」『柏崎市内遺跡発掘調査報告書(柏崎市の遺跡IV)』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第20集) 柏崎市教育委員会
- 品田高志 1999a 「第5章 第3節 第1項 中世土師器」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会編 高志書院
- 品田高志ほか 1985a 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第4 吉井遺跡郡』 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1985b 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第5 刈羽大平・小丸山』 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1990 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第13 吉井遺跡郡II』 柏崎市教育委員会

- 品田高志ほか 1991 「柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第15 小児石」 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1996 「柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第21集 田塚山遺跡群」 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1997 「柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第26集 前掛り」 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1999 「柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第32集 角田」 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 2008 「柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第52集 江ノ下」 柏崎市教育委員会
- 高橋 保ほか 2002 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第109集 箕輪遺跡」 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 滝沢規朗ほか 2005 「土器の分類と変遷」『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』第1分冊 新潟県考古学会
- 滝沢規朗ほか 2018 「土師器・須恵器の観察・計測について」『土師器・須恵器の観察・実測・計量』平成29年度埋蔵文化財専門職員実務研修資料集 新潟県教育庁文化行政課
- 継 実ほか 2018 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第265集 山崎遺跡II」 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鶴巻康志ほか 1999 「第5章 中世 第2節B 中世後期」『新潟県考古学』 高志書院
- 永井久美男 1996 「日本中世出土銭總覽」 兵庫埋蔵銭調査会
- 藤沢良祐 1993 「瀬戸市史 陶磁史編四」 愛知県瀬戸市
- 藤沢良祐 2008 「中世瀬戸窯の研究」 高志書院
- 藤巻正信 1988 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第27 西田・鶴巻田遺跡群」 新潟県教育委員会
- 水澤幸一 2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 山崎忠良ほか 2005 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第140集 東町原遺跡・下沖北遺跡II」 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良ほか 2015 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第264集 宝田遺跡II」 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山本信夫 2000 「太宰府条坊石跡XV－陶磁器分類編－」太宰府市の文化財 第49集 太宰府市教育委員会
- 山本信夫 2010 「貿易陶磁の分類・編年研究の現状と課題」『貿易陶磁研究』30 日本貿易陶磁研究会
- 山本 肇ほか 2003 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第125集 下沖北遺跡I」 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 吉岡康暢 1994 「中世須恵器の研究」 吉川弘文館
- 吉岡康暢 2003 「珠洲焼概論」『珠洲焼概論』平成15年度埋蔵文化財専門職員実務研修資料集 新潟県教育庁文化行政課

透構観察表(1)

| 番号 | 種別 | 検出層位 | グリッド | 長軸方向 | 長径 (長軸) (cm) | 短径 (幅) (cm) | 深さ 高さ (cm) | 平面形 | 断面形 | 層土 (身上) | 切手合 | 出土通物 | 所見 備考 |
|----------|------|---|--|---------|--------------------|-------------------|------------------|-----|------|------------|---|--|-----------------|
| 12000 SD | IId | | 6J8・13・18・19・23・24, 6J3・4・8・9・14・19・24・25, 6K4・5・9・10・14・15・19 | N-72°-W | 2570 | 80~1600 | 23 | | 台形状 | レンズ状 | SD12000>群12006 12007~12008 | 焼付端錠(1) 青磁碗(2) 組意添置台脚小片 組意添置小片 土師添置小片 | |
| 12001 #I | IIb | 8J14~20, 9H11~14・16 | N-22°-E | 1630 | 70 | 15 | | 台形状 | | | | | |
| 12002 #I | IIb | 9J2~13・17~18・23, 9J3~4・8・9・13・14・19・20・ 24・25, 9K5~10 | N-78°-W | 1740 | 80 | 6 | | 台形状 | | | | | |
| 12003 #I | IIb | 8K4~5, 9J1~5 | N-23°-E | 1160 | 50~80 | 6 | | 台形状 | | | | | |
| 12004 #I | IIb | 8H15~22, 9H11~12~16 | N-14°-E | 1050 | 40 | 4 | | 台形状 | | | | | |
| 12005 #I | IIb | 7J5~10~15, 8H21~8J1~6~11 | N-55°-W | 700 | 40 | | | 台形状 | | | | | |
| 12006 #I | IIb | 6J8~13~14~18~19~24, 6J4~9~14 | N-72°-W | 1210 | 60 | 2 | | 台形状 | | | | | |
| 12007 #I | IIb | 6J12~13~17~18~23, 6J3~8~9~13~14 | N-72°-W | 1160 | 50 | 2 | | 台形状 | | | | | |
| 12008 #I | IIb | 6K13~14~18~19 | N-66°-W | 340 | 30 | 10 | | 台形状 | | | | | |
| 12016 #I | IIIb | 7H25, 7H5~10 | N-67°-W | 360 | 60 | 8 | | 台形状 | | | | | |
| 12017 #I | IIIb | 8J7~8~12~13~18~23, 8J3~8~13~18~23, 8K2~3 | N-64°-W | 1830 | 50 | 8 | | 台形状 | | | | | |
| 12018 #I | IIIb | 9H11~12~15~17~22, 9J2~3 | N-84°-W | 680 | 40 | 2 | | 台形状 | | | | | |
| 12019 #I | IIIb | 8H15~16~10~15 | N-62°-W | 710 | 60 | 3 | | 台形状 | | | | | |
| 12020 P | IIb | 7J8 | | — | 14 | 14 | | 円形 | | 单肩 | | | |
| 12021 P | IIb | 7J3 | | — | 16 | 16 | | 円形 | | 单肩 | | | |
| 12022 SD | IIb | 7J10~15, 8H19~20~24~25, 8J4~5~7~15 | N-25°-E | 1550 | 20~110 | 4 | | 圓状 | 单肩 | | | | |
| 12023 #I | IIb | 7J11~14~15~20 | N-24°-E | 780 | 90 | 3 | | 台形状 | | | | | |
| 12024 #I | IIb | 8J15~19~20~9J11~16 | N-16°-E | 450 | 30 | 2 | | 台形状 | | | | | |
| 12025 SD | IIb | 8J21~22~8K3 | N-83°-W | 270 | 68 | 3 | | 台形状 | 单肩 | | | | |
| 12026 #I | IIb | 7J19~20~24~25 | N-83°-W | 110 | 60 | 4 | | 台形状 | | | | | |
| 12027 #I | IIb | 6J9~14~15~19~20~24~25, 6J4~5~9~14~15~19 | N-72°-W | 1330 | 100 | 8 | | 台形状 | | | | | |
| 12028 #I | IIb | 6J23~25, 5K2~5, 6J21~24 | N-25°-E | 1220 | 50 | 6 | | 台形状 | | | | | |
| 12029 SD | IIb | 7J24~25 | N-14°-E | 150 | 40 | 3 | | 台形状 | 单肩 | | | | |
| 12030 #I | IIb | 7J17~20 | N-18°-E | 520 | 60 | 3 | | 台形状 | | | | | |
| 12031 #I | IIb | 9J8~13~18 | N-67°-W | 230 | 46 | 2 | | 台形状 | | | | | |
| 12032 #I | IIIb | 9J23~9J3 | N-67°-W | 260 | 60 | 9 | | 台形状 | | | | | |
| 12033 #I | IIb | 8J20~25 | N-62°-W | 220 | 66 | 3 | | 台形状 | | | | | |
| 12034 #I | IIb | 6J18~23, 6J3~8~13~18 | N-63°-W | 880 | 58 | 2 | | 台形状 | | | | | |
| 12035 #I | IIb | 7J19~20~24~25, 7J4~5 | N-70°-W | 430 | 70 | 11 | | 台形状 | | | | | |
| 12036 SD | IIb | 8J22~24 | N-27°-E | 300 | 30 | 7 | | 台形状 | 单肩 | | | | |
| 12037 SD | IIb | 8J14~17~19 | N-27°-E | 480 | 20 | 6 | | 台形状 | | | | | |
| 12038 SD | IIb | 7J25, 8J21 | N-14°-E | 190 | 32 | 6 | | 台形状 | 单肩 | | | | |
| 12039 #I | IIb | 8H10, 9J3~6~8 | N-17°-E | 720 | 60 | 4 | | 台形状 | | | | | |
| 12040 #I | IIb | 6J10, 6J1~3~6J6~8 | N-14°-E | 550 | 70 | 1 | | 台形状 | | | | | |
| 12041 #I | IIb | 5J8~10 | N-10°-E | 390 | 40 | 4 | | 台形状 | | | | | |
| 12042 #I | IIb | 5J10~15 | N-68°-W | 240 | 45 | 4 | | 台形状 | | | | | |
| 12043 #I | IIb | 5J20~25 | N-68°-W | 300 | 45 | 4 | | 台形状 | | | | | |
| 12044 SD | IV | 9J25, 9K4~5~10J21~10K1 | N-19°-W | 410 | 80 | 8 | | 台形状 | 单肩 | | | 發生上湯塗(17~18) | |
| 12045 #I | IIb | 6L20, 6L7~11~12~16 | N-16°-W | 420 | 50 | 4 | | 台形状 | | | | | |
| 12046 #I | IIb | 8J24, 9J4~9~14 | N-29°-E | 750 | 50 | — | | 台形状 | — | | | | 矢唇 |
| 12047 #I | IIb | 8J12~17~22 | N-64°-W | 300 | 64~154 | 6 | | 台形状 | | | | | |
| 12048 #I | — | — | — | — | — | — | | — | — | — | | | |
| 12049 SE | IV | 6J7~12 | N-55°-E | 162 | 132 | 142 | | 横円形 | レンズ状 | | | | |
| 12050 SD | IV | 6K14~15~19~20~25 | N-78°-W | 600 | 95 | 5 | | 台形状 | 单肩 | | | | |
| 12051 SD | IV | 6K3~5, 6J21~25, 6K1~4 | N-22°-E | 1740 | 50~110 | 5 | | 台形状 | 单肩 | | SD12051>SD12065 SD12051<SD12069 | | |
| 12052 #I | IV | 6J23~25, 5K1~5, 6J21~25, 6K1, 7J21~23 | N-22°-E | 2250 | 40~120 | 11 | | — | — | | | | SD12052<SD12069 |
| 12053 SD | IV | 6J25, 6J18~21~23 | N-21°-E | 780 | 90 | 11 | | 台形状 | 单肩 | | SD12053<SD12069 | | |
| 12054 SD | IV | 6J8~13~15~19~20, 7J11~ 12~16~17 | N-62°-E | 840 | 52~92 | 5 | | 台形状 | 单肩 | | SD12054<SD12069 | | |
| 12055 SD | IV | 6J17~22 | N-63°-W | 250 | 40 | 9 | | 圓狀 | 单肩 | | | | 土師添置小片 |
| 12056 SD | IV | 6J18~19~23~24 | N-54°-W | 280 | 40 | 11 | | 台形状 | 单肩 | | SD12056<SD12067 | | |
| 12057 SD | IV | 6J12~13~17~18 | N-58°-E | 330 | 60 | 13 | | 圓狀 | 单肩 | | SD12057<SD12066 | | |
| 12058 SD | IV | 6J8~9~12~13 | N-3°-W | 320 | 60 | 19 | | 台形状 | 单肩 | | SD12058<#I | | |
| 12059 SD | IV | 6J22~23, 5J1~E | N-12°-E | 410 | 23 | 10 | | U字状 | 单肩 | | | | |
| 12060 SD | IV | 9J18~25, 9K1~2 | N-4°-W | 720 | 100~140 | 23 | | 台形状 | 单肩 | | SD12060<#I | 發生上湯塗(19) 發生上湯寶(20~22) 發生上湯高杯(23~25) | |
| 12061 #I | IIb | 6J17~18~22~23 | N-63°-W | 400 | 58 | 4 | | 台形状 | | | | | |
| 12062 #I | IIb | 6J14~19 | N-63°-W | 400 | 40 | 2 | | 台形状 | | | SD12062<SD12069 | | |
| 12063 SD | IIb | 8J20, 9J16 | N-13°-E | 180 | 30 | 20 | | 圓狀 | 单肩 | | | | |
| 12064 SD | IIb | 8J15, 9J11 | N-19°-E | 200 | 20 | 15 | | 圓狀 | 单肩 | | | | |
| 12065 SD | IV | 6K3~8~9~13~14~24, 6L4 | N-75°-W | 950 | 40~60 | 10 | | 圓狀 | レンズ状 | | SD12065<SD12061 | | |
| 12066 #I | IV | 9H16~17~21~22, 9J2~ 5J1~E | | 550 | 70 | 3 | | — | — | | | | |
| 12067 SD | IV | 6L20~25, 6L11~12~16 | N-8°-W | 600 | 80~90 | 6 | | 台形状 | 单肩 | | SD12067<SD12068 | 組意添置(26) 上師添置小片 | |
| 12068 SD | IV | 6L3~10~14~15, 6L6~7~11~12 | N-29°-E | 680 | 170 | 14 | | 台形状 | レンズ状 | | SD12068<SD12071 SD12068<SD12069 SD12068<SD12065 | 組意添置(27) 組意添置白杯 土師添置小片 | |
| 12069 SD | IV | 6L15~20~6J13~18~23, 6K2~3~7~12~16~17~21~22, 6L1~5~ 11 | N-46°-W | 2230 | 25~80 | 14 | | 台形状 | レンズ状 | | SD12069<SD12071 SD12069<SD12052 SD12069<SD12071 SD12069<SD12068 SD12069<SD12065 | 組意添置白杯(29~30) 組意添置小片 土師添置白杯(31~33) 土師添置白杯(34) 土師添置小片 | |

観察表

通構觀察表(2)

| 番号 | 種別 | 検出 層位 | グリッド | 長軸方向 | 長 軸 (長軸) (cm) | 短 軸 (幅) (cm) | 深さ (高さ) (cm) | 平 底 (cm) | 断面形 | 施土 (身上) | 切刃合計 | 出土通物 | 南見 備考 |
|-------|----|----------|---|--------|------------------------|-----------------------|--------------------|----------------|------|-----------------|----------------------|------|----------|
| 12070 | SK | IV | 6K12・13・17・18 | N-62・E | 188 | 110 | 6 | 方底 | 台形状 | レンズ状 | SK12070>SD12069 | | |
| 12071 | SD | IV | 6K17・18・22・23, 6L2・6・7 | N-38・W | 850 | 30~55 | 6 | 弧状 | 单肩 | SD12071<SD12069 | 網底漆器(35) 土師漆器(36) | | |
| 12072 | SD | IV | 6K25, 6L4・6 | N-6・E | 180 | 30 | 5 | 弧状 | 单肩 | | | | |
| 12073 | SD | IV | 7J24, 7K4 | N-50・W | 280 | 30 | 6 | 弧状 | 单肩 | | | | 網作済 |
| 12074 | SD | IV | 7K5 | N-61・W | 170 | 30 | 4 | 弧状 | 单肩 | | | | 網作済 |
| 12075 | SD | IV | 8J21, 8K1 | N-57・W | 200 | 30 | 5 | 弧状 | 单肩 | | | | 網作済 |
| 12076 | SD | IV | 8K1 | N-47・W | 160 | 30 | 4 | 弧状 | 单肩 | | | | 網作済 |
| 12077 | SD | IV | 8J22, 8K2 | N-49・W | 290 | 30 | 5 | 弧状 | 单肩 | | | | 網作済 |
| 12078 | SD | IV | 8J23, 8K3 | N-52・W | 220 | 30 | 6 | 弧状 | 单肩 | | | | 網作済 |
| 12079 | SD | IV | 8J24, 8K4 | N-59・W | 160 | 38 | 6 | 弧状 | 单肩 | | | | 網作済 |
| 12080 | SD | IV | 8J25, 8K5, 9K1 | N-60・W | 120 | 10~25 | 4 | 弧状 | 单肩 | | | | 網作済 |
| 12081 | P | IV | 8116・21 | N-17・W | 96 | 60 | 20 | 方底 | 弧状 | P12081-6 | | | |
| 12082 | # | IV | 6H10, 7H6~10~14~15, 8H8~10~12~15, 9H3~6~8 | N-26・E | 910 | 70~30 | 11 | 台形状 | | | | | |
| 12083 | SD | IV | 6H15, 7H11~12~15~17 | N-32・E | 420 | 30~50 | 9 | 弧状 | 单肩 | | | | |
| 12084 | # | IV | 7H25, 7H6~10 | N-72・W | 320 | 65 | 7 | | | | | | |
| 12085 | SD | IV | 9H15~17~21~22, 9H2 | N-78・E | 550 | 50~90 | 4 | 弧状 | 单肩 | | | | |
| 12086 | SD | IV | 9H12~17~22~ | N-86・W | 260 | 70 | 1 | 弧状 | 单肩 | | | | |
| 12087 | P | IV | 9H2~3 | N-20・E | | | | | | | | | |
| 12088 | SD | IV | 8H7~9~12~13 | N-19・E | 570 | 70~80 | 11 | 弧状 | 单肩 | | | | |
| 12089 | P | IV | 8HJ~6HJ, 7HJ, 8HJ, 9HJ, 10HJ | - | - | - | - | 弧状 | レンズ状 | | | | |

上層の陶磁器観察表

| 報告 番号 | 種類 | 容積 | 出土地点 | | | 法量(cm) | | 色調 | | 調整 | | | 施土 | 回転 方向 | 備考 | |
|----------|-------|-----|---------------|---------|-----|--------|------|--------|------------------|------------------|-------|-------|-------|----------|-----------------|-----------------------------------|
| | | | グリッド | 道構 | 層位 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面 | 外面 | 底面 | 内面 | 外面 | 底面 | | |
| 1 | 青磁 | 蝶鉢 | 6H23 | SD12000 | 4 | - | 12.2 | (5.0) | 10Y5/6 赤 | 10R5/6 赤 | - | ロクロナデ | 回転糸切り | - | 右 17C~18C前半 | 印8本、大柄茎期、 |
| 2 | 青磁 | 碗 | 6J24 | SD12000 | 4 | - | 5.0 | (2.5) | 5Y5/2 灰オリーブ | 5Y5/2 灰オリーブ | - | - | - | - | 右 高台内外無施、15C | |
| 3 | 青磁 | 皿 | 9J20 | | 1d | - | 3.4 | (3.4) | 5Y5/2 灰オリーブ | 5Y5/2 灰オリーブ | - | - | - | 回転糸切り | - | 削り出し高台、砂目 刷み抜法、II-1期、 17C前半 |
| 4 | 朱洲 | 片口鉢 | 7J25, 8J24 | | 8Ja | 35.8 | - | (10.6) | 5Y5/1 灰 | 5Y5/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | - | 白色粒混 | - | 朱洲M期 |
| 5 | 釉付・素盞 | 皿 | 9J17 | | 8Ja | - | 4.8 | (1.8) | 7.5Y6/2 灰オリーブ | 7.5Y6/2 灰オリーブ | - | - | - | - | - | 内面摩耗、削り出し 高台 |
| 6 | 青磁 | 碗 | 7J7 | | 8Ja | 13.0 | - | (3.7) | 10Y5/2 オリーブ灰 | 10Y5/2 オリーブ灰 | - | 路地追舟文 | - | - | - | 上田B青磁、15C末 |
| 7 | 青磁 | 皿 | 6J7 | | 8Ja | 10.0 | - | (2.7) | 10Y6/2 オリーブ灰 | 10Y6/2 オリーブ灰 | - | 波打井文 | - | - | - | 上田B-1期、 14~15C |

上層の土製品観察表

| 報告 番号 | 種類 | 容積 | 出土地点 | | | 法量(cm) | | 色調 | | 調整 | | | 施土 | 回転 方向 | 備考 | |
|----------|-------|----|------|----|-----|--------|-----|-----|-----------|-----------|-----|----|----|----------|----|-------------------------------|
| | | | グリッド | 道構 | 層位 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面 | 外面 | 底面 | 内面 | 外面 | 底面 | | |
| 8 | 転用研削具 | | 9H19 | | 8Ja | 4.9 | 0.9 | 0.9 | N6/5 灰 | N6/4 灰 | 波打文 | - | - | 白色粒混 | - | 朱洲片口跡を素材と する、外面無施、 朱洲M期 |

中層の土器・陶磁器観察表

| 報告 番号 | 種類 | 容積 | 出土地点 | | | 法量(cm) | | 色調 | | 調整 | | | 施土 | 回転 方向 | 備考 | |
|----------|-----|-----|---------------|----|-----|--------|-----|-------|--------------|--------------|-------|-------|-------------|---------------|----|-----------------------------------|
| | | | グリッド | 道構 | 層位 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面 | 外面 | 底面 | 内面 | 外面 | 底面 | | |
| 9 | 須恵器 | 杯盤 | 9J24 | | Ilb | - | - | (1.2) | N6/1 灰 | N6/1 灰 | - | - | - | B群 | - | 9C後半 |
| 10 | 須恵器 | 舞台杯 | 8K3 | | Ilb | - | 6.4 | (1.7) | N6/1 灰 | N6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転ヘラ切り | B群 | - | 9C |
| 11 | 朱洲 | 片口鉢 | 7J17 | | Ilb | - | - | (3.1) | 7.5Y6/1 灰 | N6/1 灰 | - | ロクロナデ | - | 黒・白色粒混 | - | 内面摩耗 |
| 12 | 朱洲 | 片口鉢 | 6J17, 6K13 | | Ilb | - | 12 | (2.5) | 7.5Y6/1 灰 | 7.5Y6/1 灰 | ロクロナデ | ロクロナデ | 制止糸切り | 黒・白色粒混 右葉混 | - | 朱洲M期以降 |
| 13 | 土師質 | 皿 | 9J16 | | Ilb | 12.5 | 7 | 3.4 | 10Y8/2 灰白 | 10Y8/2 灰白 | ナデ | ナデ | ナサエ →未調整 | 黒・褐色粒混 | - | T1期、周辺・三島型、 13後半~14C |
| 14 | 白磁 | 碗 | 7J8 | | Ilb | 14 | - | (3.6) | 5Y7/2 灰白 | 5Y7/2 灰白 | - | - | - | - | - | 片口口跡、外面下部 施物、楕円型、 11C後半~12C |

中層の金属製品観察表

| 報告 番号 | 種類 | 出土地点 | | | 法量(最大値・cm・g) | | | | 備考 | | | |
|----------|-------|------|----|-----|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| | | グリッド | 道構 | 層位 | 長 | 幅 | 厚さ | 重積 | 内面 | 外面 | 底面 | |
| 15 | 刀子 | 9J21 | | Ilb | (15.2) | 2.4 | 0.8 | 0.6 | 0.7 | 0.1 | 2.3 | 1039年 |
| 16 | 笠宋通宝? | 9K16 | | Ilb | 2.4 | 2.4 | 0.8 | 0.6 | 0.7 | 0.1 | 2.3 | 1039年 |

下層の土器観察表

| 報告番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | | | 法量(cm) | | 色調 | | | 調整 | | | 出土 | 回転方向 | 備考 |
|------|------|-----|-----------------------|---------------------|-------------|--------|-----|--------|-------------------|-------------------|-------|-------|--------|--------------------|------|------------------------|
| | | | グリッド | 遺構 | 層位 | 口径 | 底径 | 器高 | 内面 | 外面 | 底面 | 内面 | 外面 | 底面 | | |
| 17. | 弥生土器 | 甕 | 1GJ21 | SD12044 | I | - | 4.2 | (2.4) | 2.5Y6/2 淡黄 | N4/1 灰 | - | 沈殿 | - | 白色粉質 | - | 新潟シンボ編年2期、 弥生時代後期後半 |
| 18. | 弥生土器 | 甕 | 9K5- | SD12044 | I | - | 4.0 | (2.6) | 2.5Y6/1 黄灰 | N5/1 暗灰 | - | ヘラミガキ | - | 黑色・白色粉質 石英・長石混 | - | 新潟シンボ編年2期、 弥生時代後期後半 |
| 19. | 弥生土器 | 甕 | 9K2- | SD12060 | I | - | 4.4 | (5.1) | 10YR7/3 にぶい黄褐 | 10YR6/3 にぶい黄褐 | ハケヌ | ヘラミガキ | ヘラ記号 | 黑色・白色粉質 | - | 新潟シンボ編年2期、 弥生時代後期後半 |
| 20. | 弥生土器 | 甕 | 9K2- | SD12060 | I | - | 3.0 | (3.3) | 5YR7/3 にぶい黄褐 | 5YR5/2 灰褐 | - | ミガキ | - | 黑色・赤色粉質 石英・長石混 | - | 新潟シンボ編年2期、 弥生時代後期後半 |
| 21. | 弥生土器 | 甕 | 9K2- | SD12060 | I | - | 3.8 | (1.9) | 2.5Y7/3 淡黄 | 2.5Y7/2 灰黄 | - | - | - | 黑色・白色粉質 石英・長石混 | - | 新潟シンボ編年2期、 弥生時代後期後半 |
| 22. | 弥生土器 | 甕 | 9K2- | SD12060 | I | - | 3.6 | (4.8) | 10YR7/2 にぶい黄褐 | 10YR7/2 にぶい黄褐 | - | - | - | 黑色・白色粉質 石英・長石混 | - | 新潟シンボ編年2期、 弥生時代後期後半 |
| 23. | 弥生土器 | 高杯 | 9J22 | SD12060 | I | - | - | (4.9) | 7.5YR7/3 にぶい黄褐 | 7.5YR7/3 にぶい黄褐 | - | - | - | 黑色・赤色粉質 | - | 新潟シンボ編年2期、 弥生時代後期後半 |
| 24. | 弥生土器 | 高杯 | 9J22 | SD12060 | I | 22.0 | - | (5.4) | 10R5/4 赤褐 | 2.5Y7/2 灰黄 | - | - | - | 黑色・白色粉質 | - | 新潟シンボ編年2期、 弥生時代後期後半 |
| 25. | 弥生土器 | 高杯 | 9K2- | SD12060 | I | 24.0 | - | (4.7) | 2.5YR6/6 棕 | 2.5YR6/6 棕 | - | - | - | 黑色・白色粉質 | - | 新潟シンボ編年2期、 弥生時代後期後半 |
| 26. | 頭忠器 | 復 | SL20 | SD12067 | I | - | - | (5.5) | N7/4 灰 | N6/1 灰 | 同心円当貝 | 平行タタキ | - | C2群 | - | 8C ~ 9C |
| 27. | 頭忠器 | 復 | GL6 | SD12068 | I | - | - | (7.5) | N5/1 灰 | N5/1 灰 | 同心円当貝 | 平行タタキ | - | C2群 | - | 8C ~ 9C |
| 28. | 頭忠器 | 復 | GL6 | SD12068 | I | - | 5.0 | (2.2) | 5YR7/6 棕 | 2.5YR6/6 棕 | ロクロナギ | ロクロナギ | - | 灰・白色粉質 | - | |
| 29. | 頭忠器 | 無柄杯 | GL6 | SD12069 | I | 12.8 | 7.4 | 3.4 | 2.5Y7/1 灰白 | 2.5Y7/1 灰白 | ロクロナギ | ロクロナギ | 回転ヘタ切り | C2群 | - | 8C ~ 9C |
| 30. | 頭忠器 | 無柄杯 | GL6 | SD12069 | I | - | 7.0 | (1.4) | 7.5Y6/1 灰 | 7.5Y6/1 灰 | ロクロナギ | ロクロナギ | 回転ヘタ切り | B群 | 右 | 9C |
| 31. | 土師器 | 無柄碗 | | SD12069 | I | - | 5.4 | (1.7) | 10YR7/2 にぶい黄褐 | 10YR7/2 にぶい黄褐 | ヘラミガキ | ロクロナギ | - | 灰・白色粉質 | - | 9C後半 |
| 32. | 土師器 | 無柄碗 | GL17 | SD12069 | I | - | 4.4 | (1.1) | 10YR7/3 にぶい黄褐 | 10YR7/3 にぶい黄褐 | - | ロクロナギ | 回転ヘタ切り | 黑色・白色粉質 | 左 | 9C後半 |
| 33. | 土師器 | 無柄碗 | GL1 | SD12069 | I | - | 5.3 | (1.2) | 7.5YR7/3 にぶい棕 | 7.5YR7/3 にぶい棕 | ヘラミガキ | ロクロナギ | 回転ヘタ切り | 黑色・赤色粉質 長石混 | - | 9C後半 |
| 34. | 土師器 | 有柄碗 | GL7 | SD12069 | I | - | 5.4 | (2.7) | 5YR7/3 にぶい棕 | 5YR7/4 にぶい棕 | - | ロクロナギ | - | 白・赤色粉質 石英混 | - | 内面摩耗、9C後半 |
| 35. | 頭忠器 | 復 | GL6 | SD12071 | I | - | - | (5.8) | N7/1 灰 | N6/1 灰 | 同心円当貝 | 平行タタキ | - | C2群 | - | 8C ~ 9C |
| 36. | 土師器 | 甕 | GL6 | SD12068・ SD12071 | I | 26.0 | - | (4.7) | 5YR7/4 にぶい棕 | 5YR7/4 にぶい棕 | ロクロナギ | ロクロナギ | - | 白色粉質 | - | 9C後半 |
| 37. | 頭忠器 | 復 | SL20・ GL6・ GL15 | | IIb・ IIb | - | - | (12.0) | N7/1 灰白 | N6/1 灰 | 同心円当貝 | 平行タタキ | - | C2群 | - | 8C ~ 9C |
| 38. | 弥生土器 | 甕 | SK1 | | IIIb | - | 4.6 | (2.5) | N4/1 灰 | 2.5YR7/6 棕 | - | - | - | 灰・赤・白色粉質 長石混 | - | 内面スス付着 |
| 39. | 弥生土器 | 甕 | SK1 | | IIIb | - | 5.2 | (3.5) | N5/1 灰 | 5YR7/4 にぶい棕 | - | - | - | 灰・白色粉質 石英・長石混 | - | 内面スス付着 |
| 40. | 弥生土器 | 甕 | SK2 | | IIIb | - | 4.6 | (2.7) | 10YR7/2 にぶい黄褐 | 2.5YR6/6 棕 | - | - | - | 黑色・白色粉質 長石混 | - | |
| 41. | 弥生土器 | 甕 | TL3 | | IIIb | - | 3.4 | (2.9) | N5/1 灰 | 5YR7/4 にぶい棕 | - | - | - | 黑色・白色粉質 | - | |
| 42. | 弥生土器 | 甕 | TL5 | | IIIb | - | 2.8 | (4.3) | 10YR7/2 にぶい黄褐 | 10YR6/2 灰黄褐 | - | ハケヌ | - | 黑色・白色粉質 石英混・青粉質 | - | 内面・筋スス付着 |
| 43. | 弥生土器 | 高杯 | SL20 | 同 | IIIb | - | - | (5.8) | 2.5YR7/4 淡赤棕 | 2.5YR7/4 淡赤棕 | - | ミガキ | - | 白色粉質 石英混 | - | 弥生後期 |
| 44. | 弥生土器 | 高杯 | SK2 | | IIIb | - | - | (6.1) | 5YR7/3 にぶい棕 | 5YR7/2 灰オリーブ | - | ミガキ | - | 白・赤色粉質 | - | 弥生後期 |

下層の木製品観察表

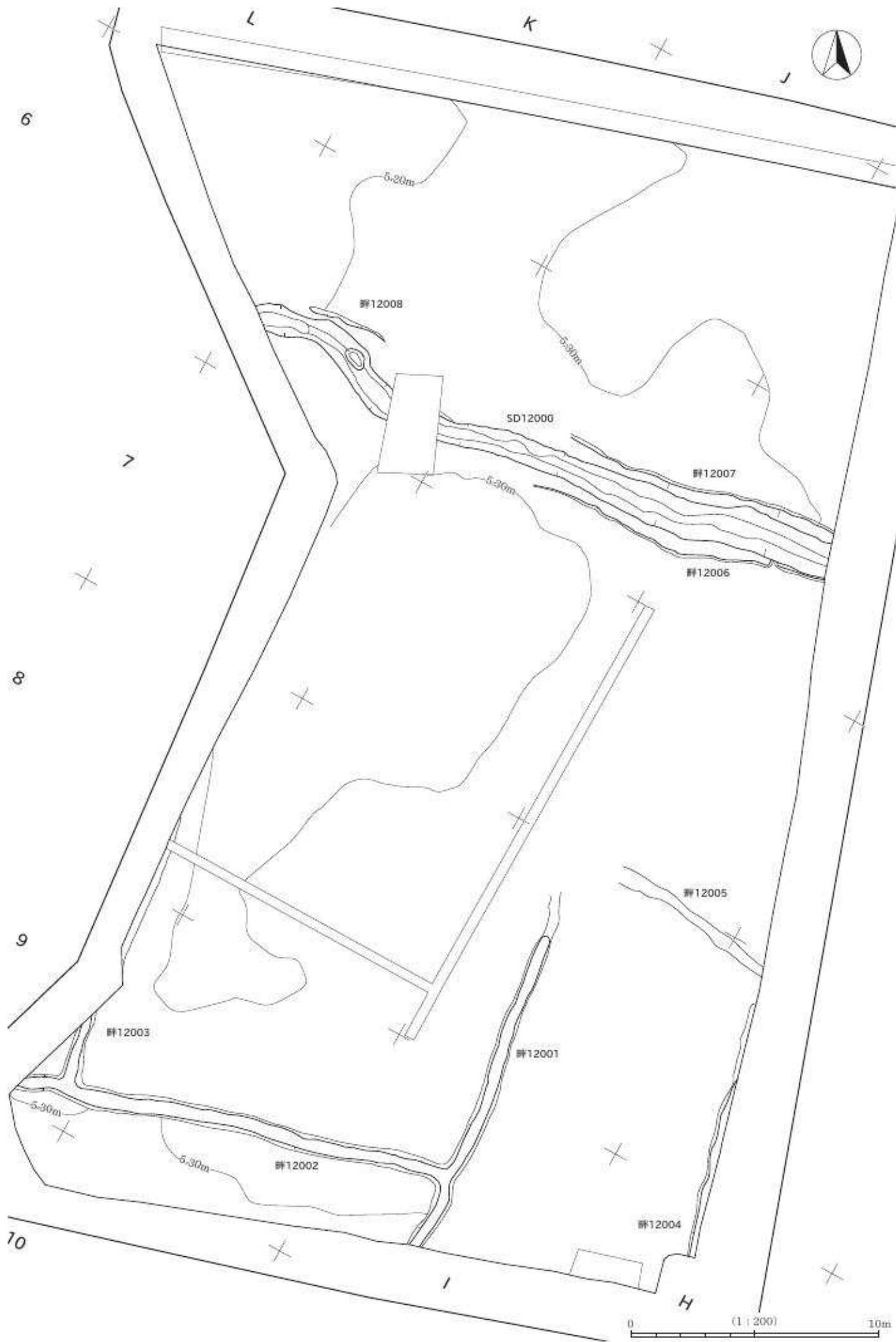
| 報告番号 | 器種 | 出土地点 | | | 法量(cm) | | 木取り | 樹種 | 備考 | | |
|------|-----|------|----|------|--------|-----|-----|----|----|--|--|
| | | グリッド | 遺構 | 層位 | 高さ | 幅 | | | 木目 | | |
| 45. | 板材? | BJ14 | | IIIb | 15.7 | 2.9 | 0.6 | | - | | |

図 版

調査区位置図

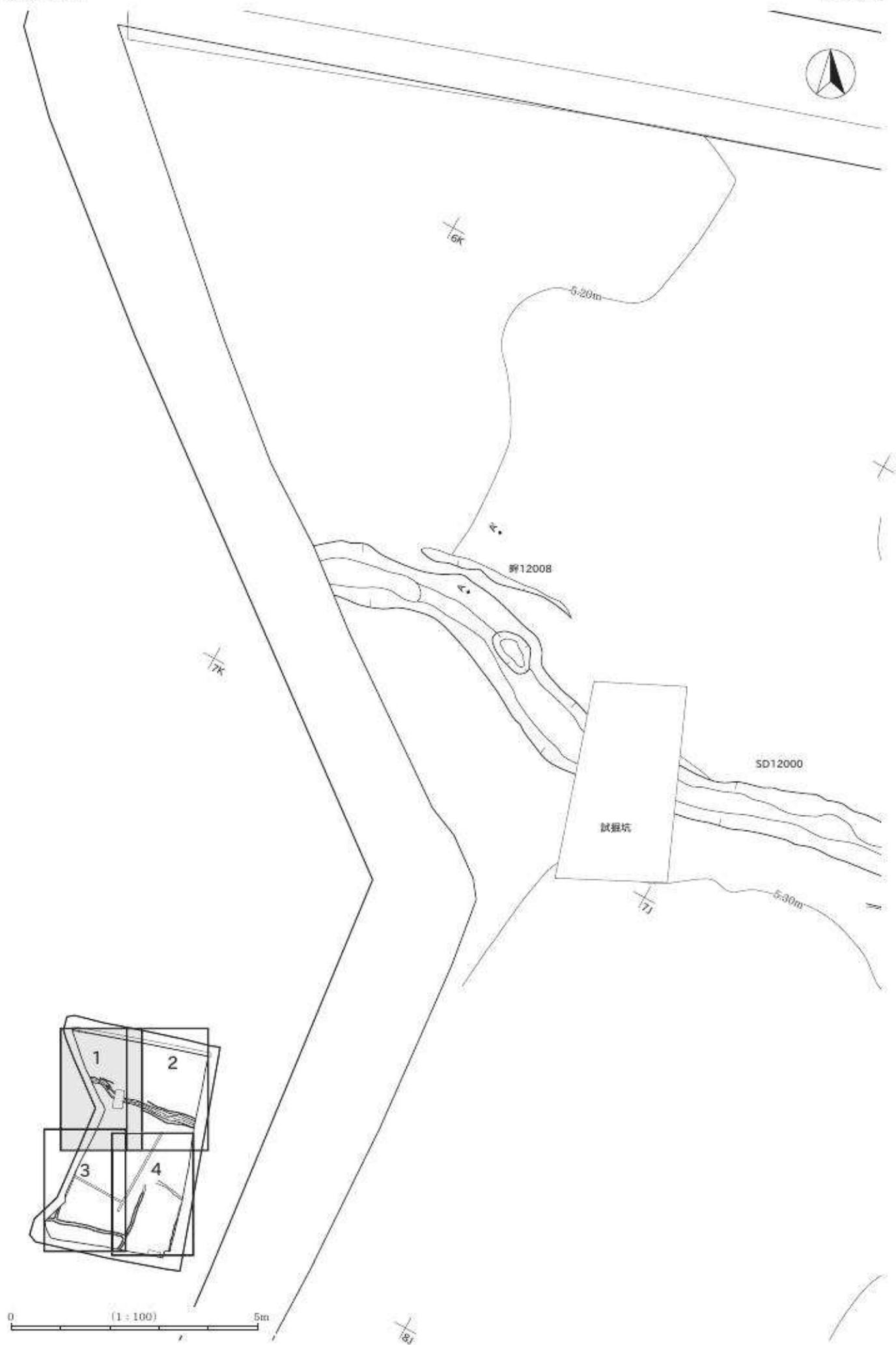
図版 1

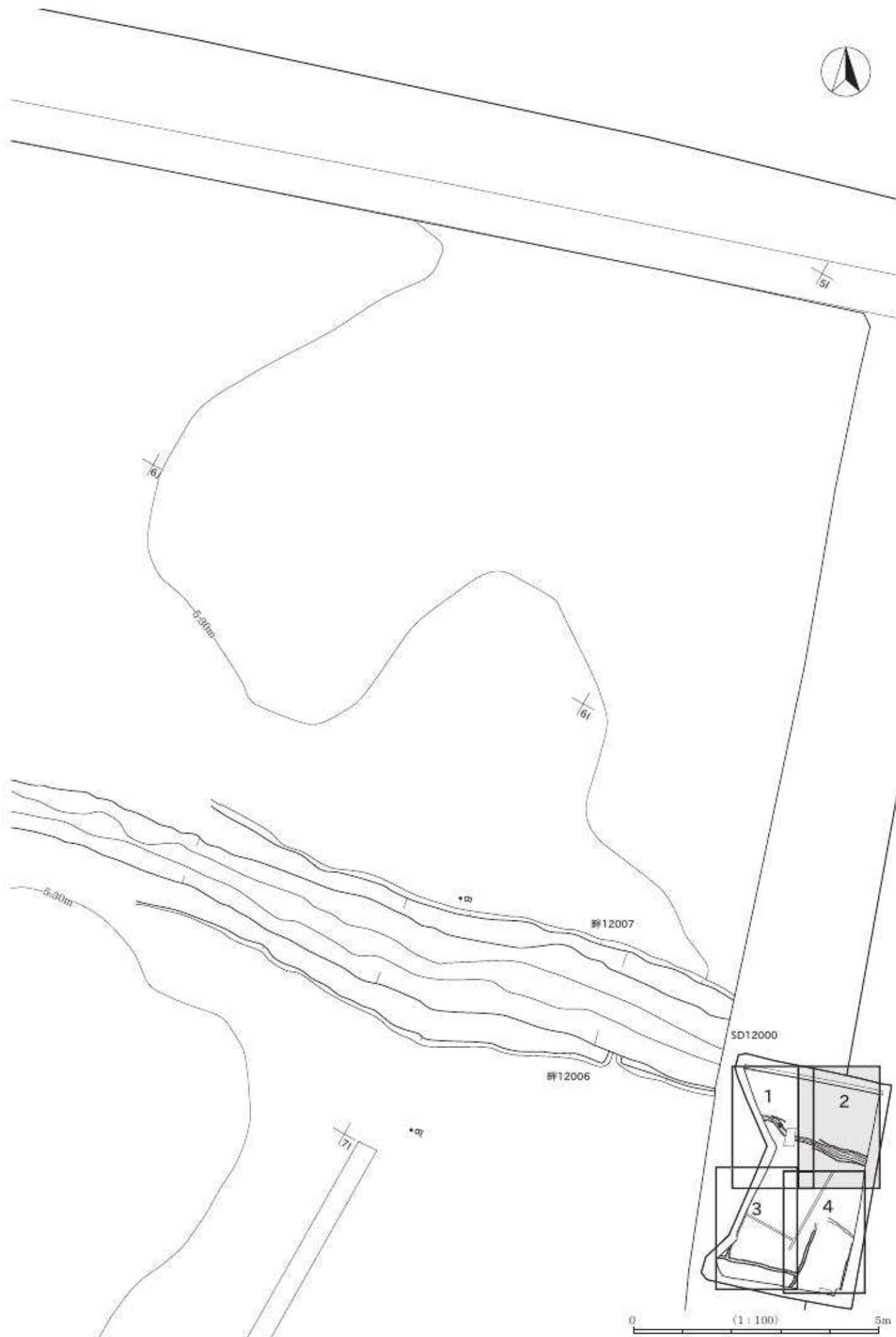


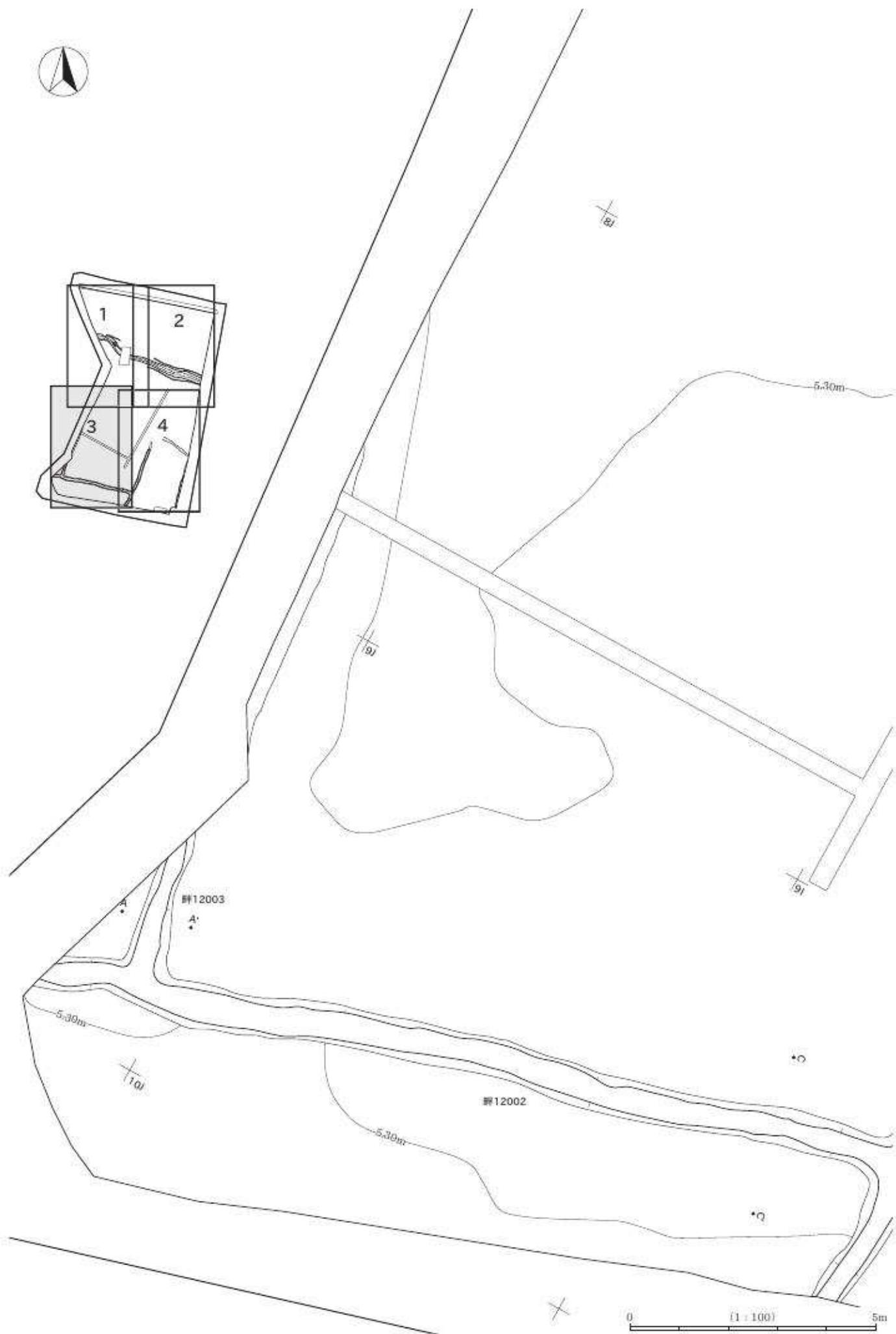


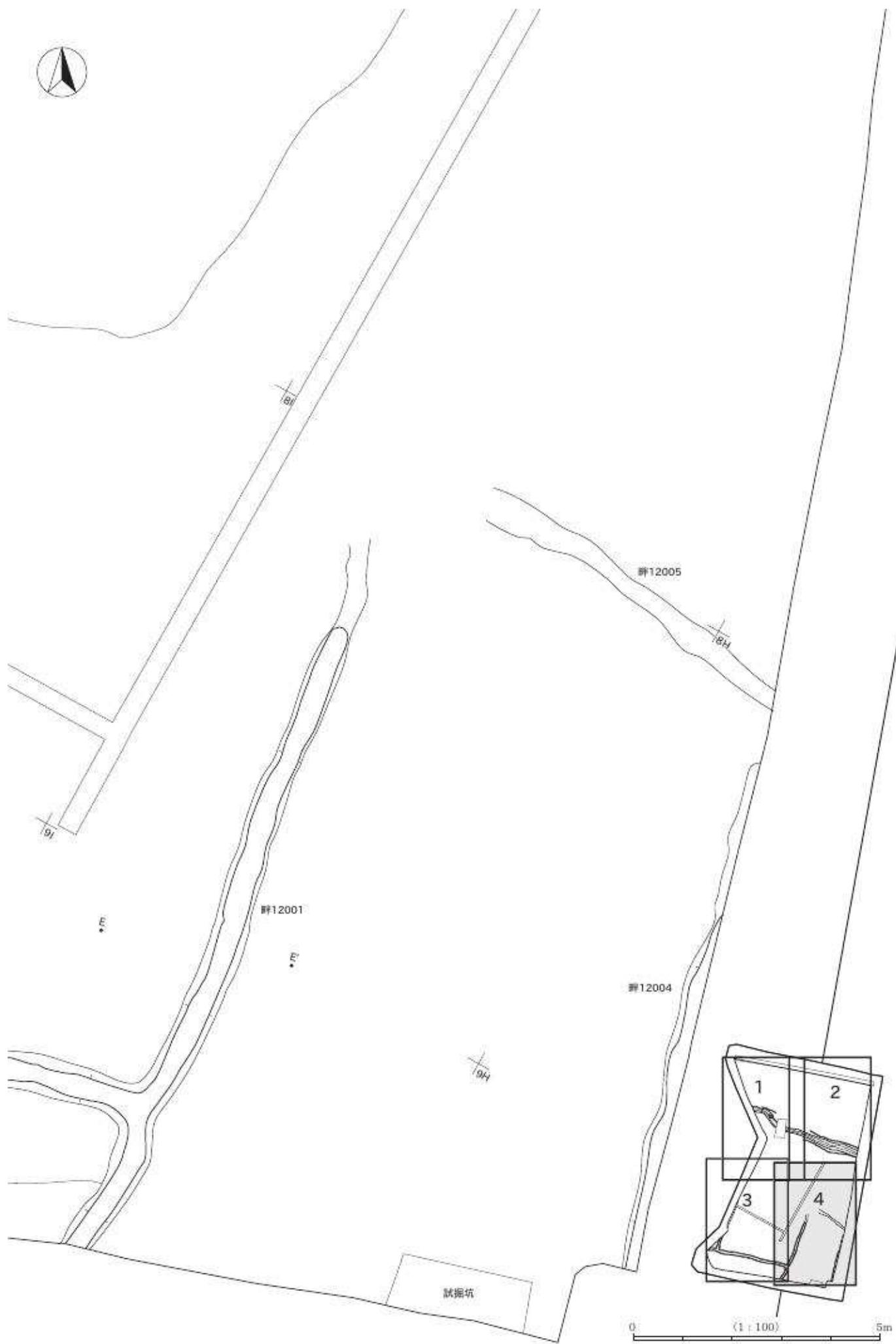
上層分割図 1

図版 3



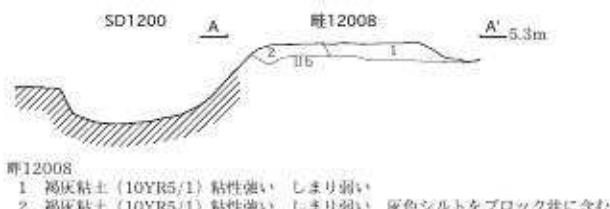




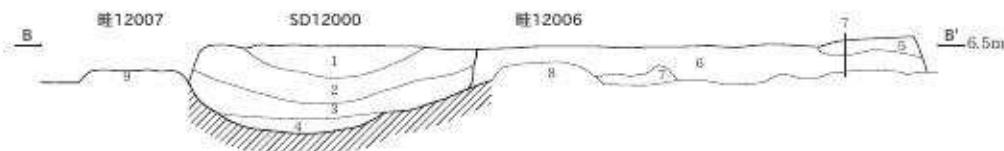


SD12000・畦12006・畦12007

畦12008



畦12007



畦12006

8. 褐灰色粘土 (10YR5/1) 黏性強い しまり弱い 漢化物を含む

畦12007

9. 褐灰色粘土 (10YR5/1) 黏性強い しまり弱い

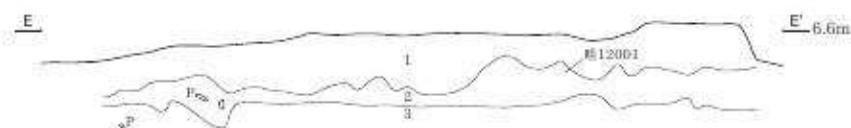
畦12002

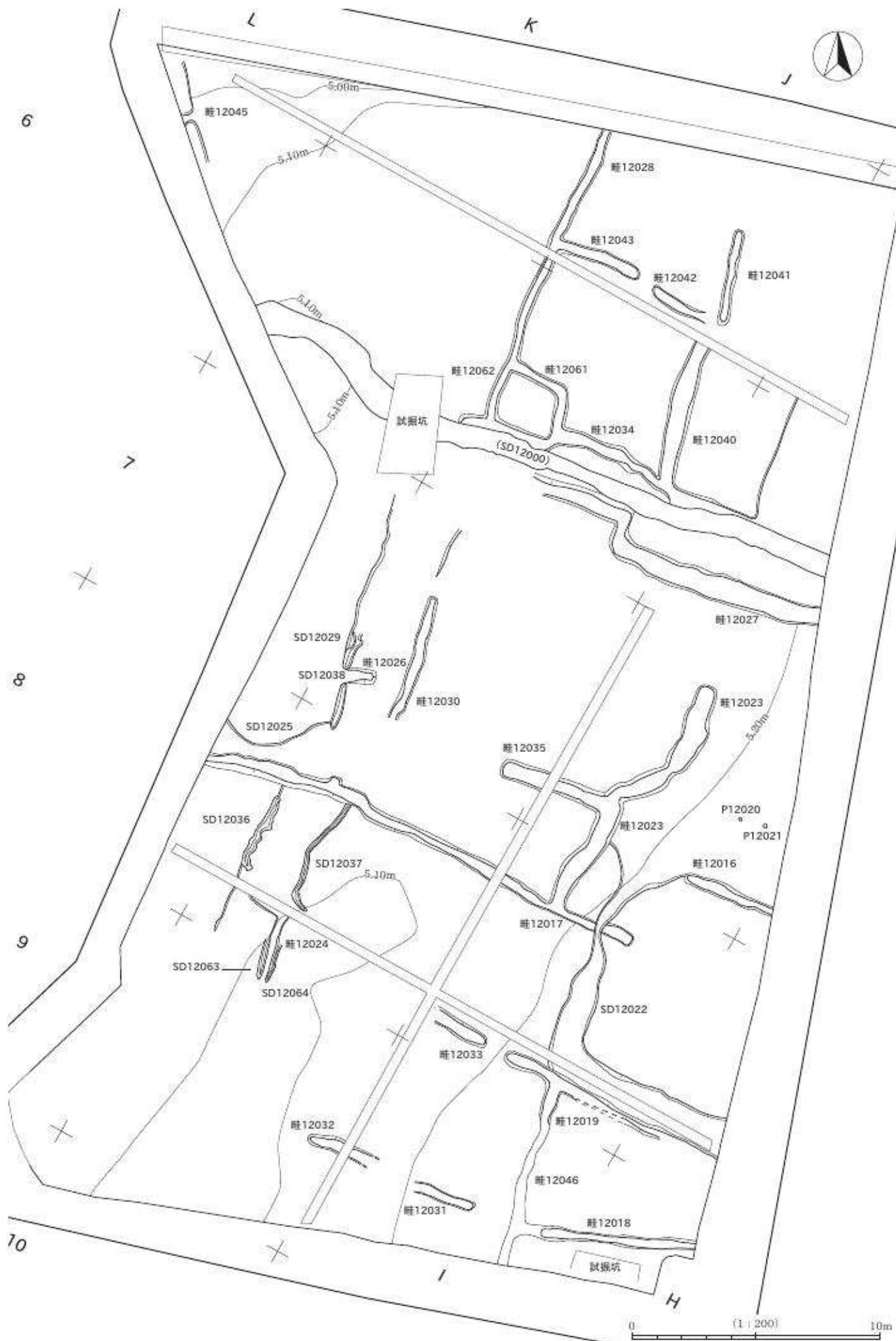


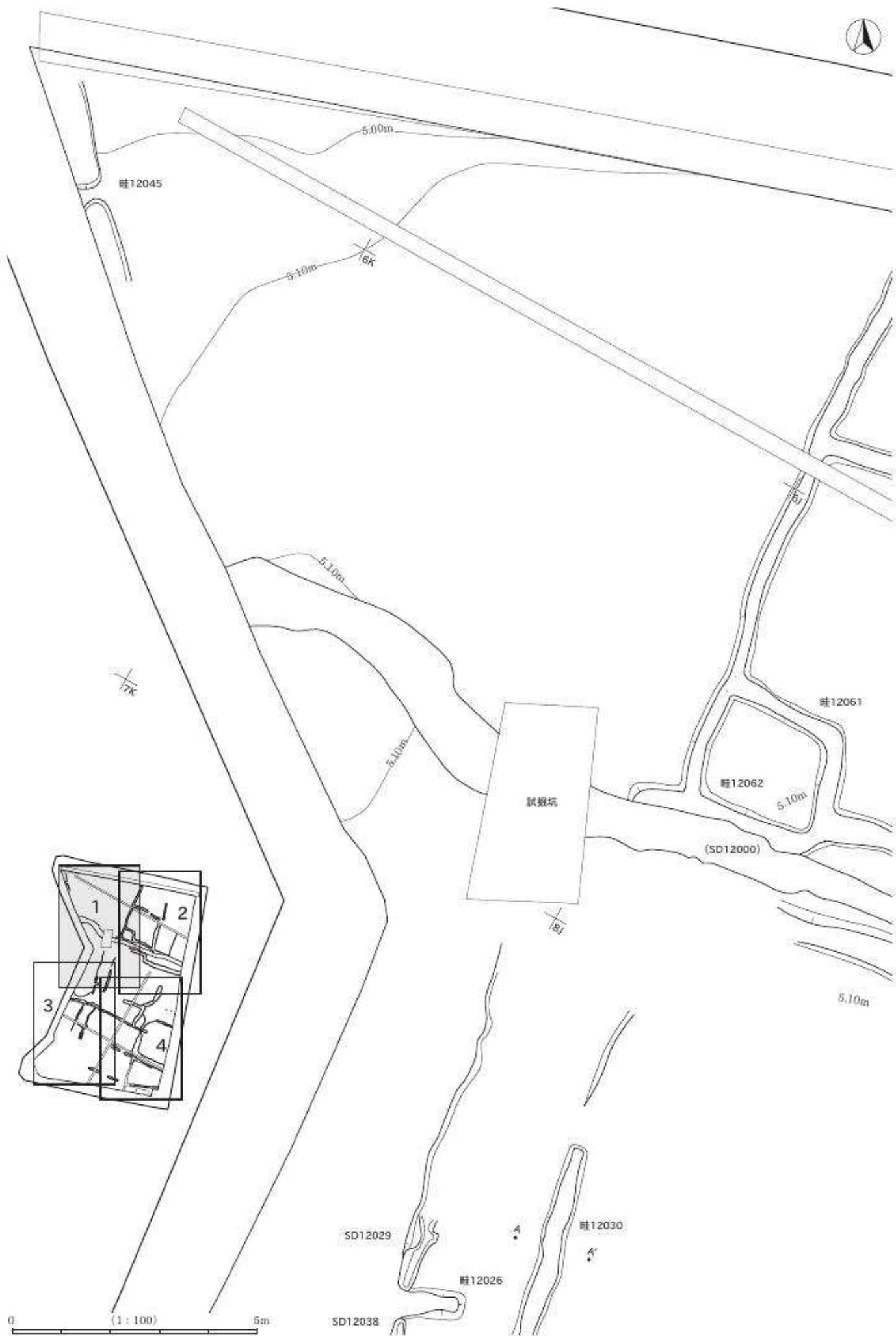
畦12003

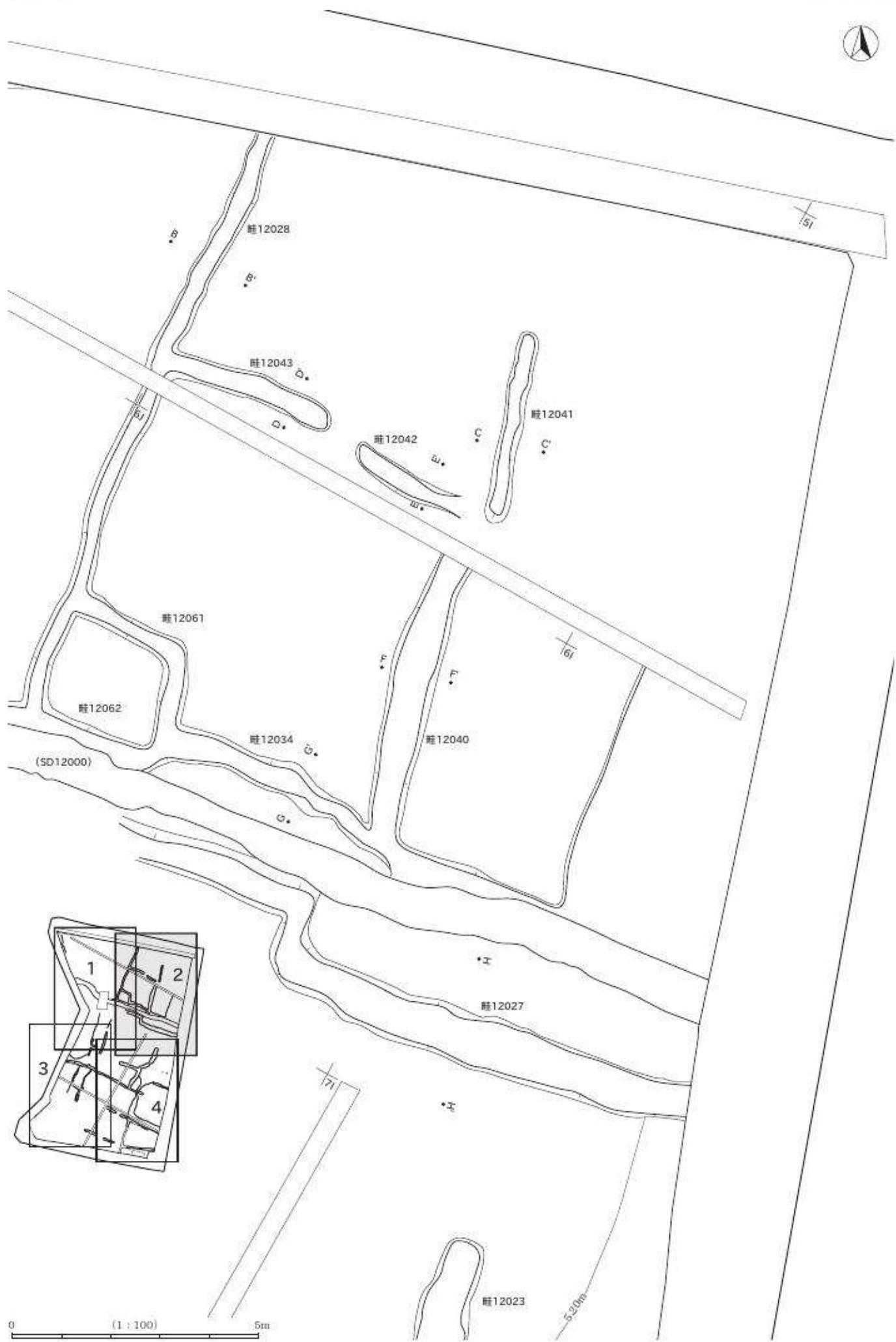


畦12001









中層個別図 1

畦12030



畦12030

- 1 灰色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 10\text{mm}$ の黒色土を含む
- 2 灰色粘土 (7.5Y6/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 100\text{mm}$ の黑色土を含む
- 3 黑色粘土 (5Y2/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 10\text{mm}$ の灰色土を含む
- 4 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIIb

畦12028



畦12028

- 1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い しまり弱い
- 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 100\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む
- 3 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIIb

畦12041



畦12041

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 10\text{mm}$ の灰色土ブロックを含む
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIIb

畦12043



畦12043

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 10\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIIb

畦12042



畦12042

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 100\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIIb

畦12040



畦12040

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 20\text{mm}$ の灰色土を ブロック状に含む
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIIb

畦12034



畦12034

- 1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い しまり弱い
- 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 10\text{mm}$ の黑色土を含む
- 3 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIIb

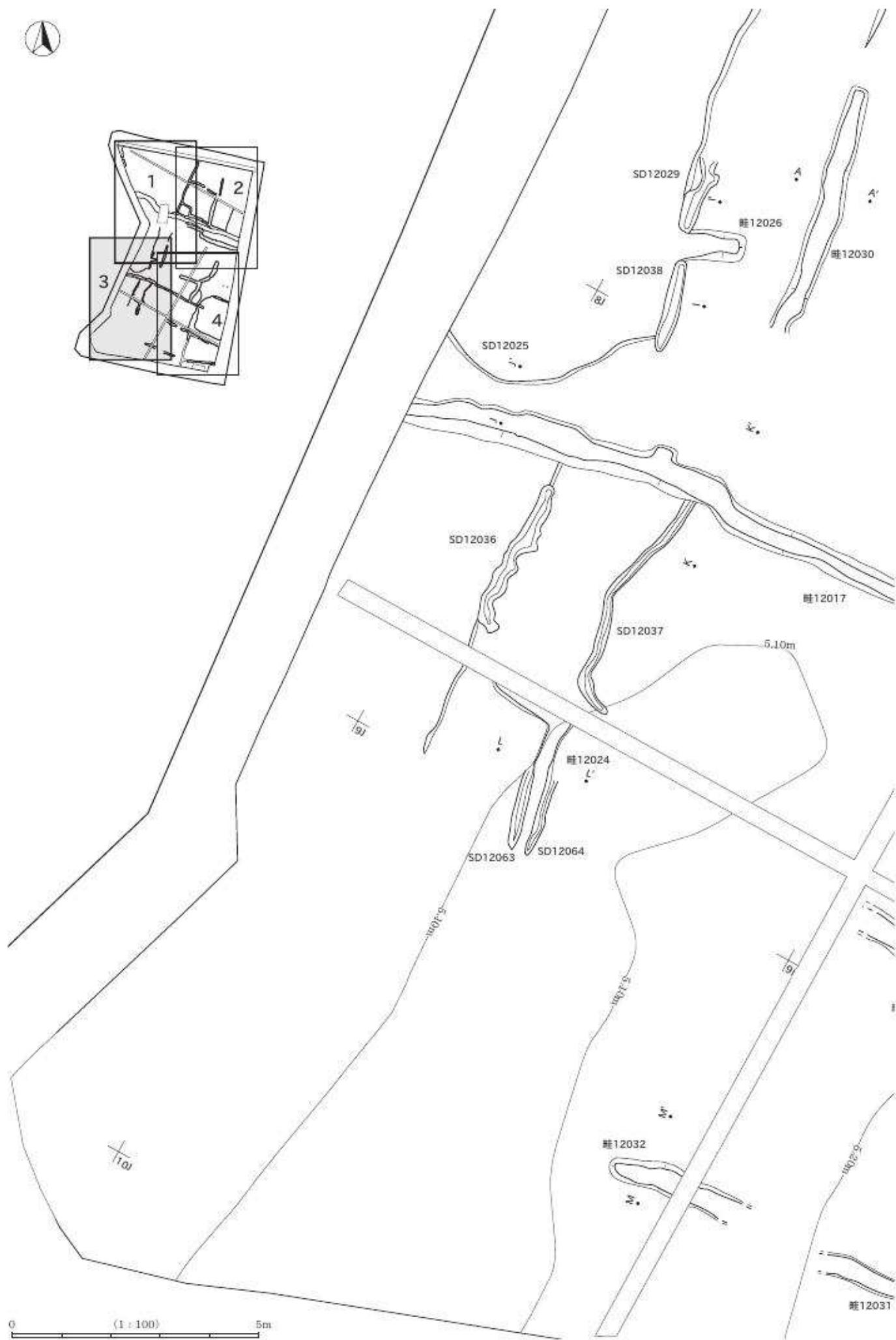
畦12027

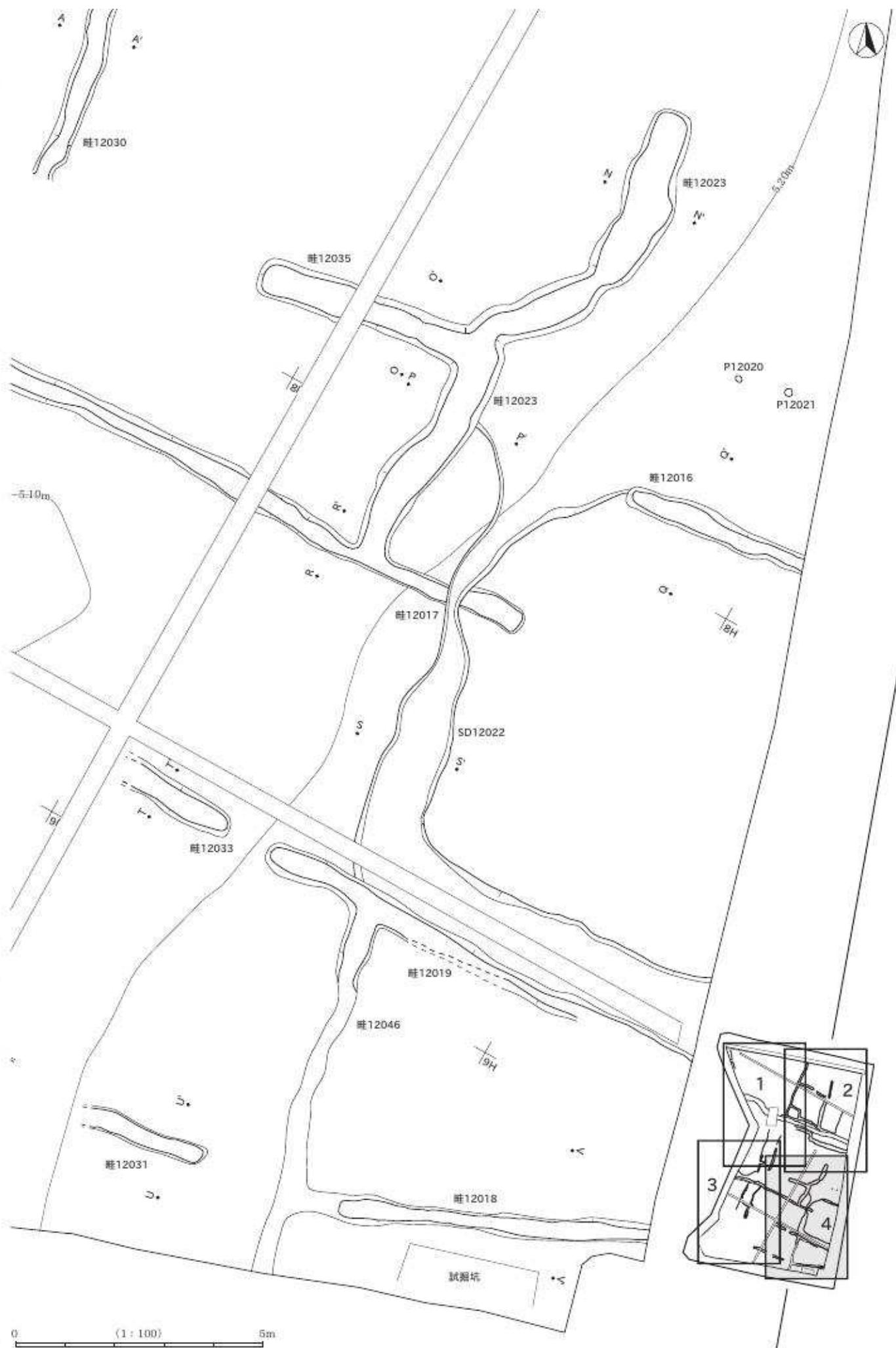


畦12027

- 1 灰色シルト (7.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い
- 2 灰色粘土 (7.5Y6/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 50\text{mm}$ の黑色土をブロック状に含む
- 3 灰色シルト (5Y5/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IV

0 1 2
個別図 (1: 40)
2m





畦12026



畦12026

- 1 黒色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い
- 2 灰色粘土 (7.5Y6/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 50\text{mm}$ の黒色土をブロック状に含む
- 3 灰色シルト (5Y5/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 100\text{mm}$ の灰色土ブロックを含む
- 4 灰色シルト (5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IV

畦12017



畦12017

- 1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い しまり弱い
- 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIb
- 3 黒色粘土 (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 10\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む

畦12024



畦12024

- 1 黒色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 100\text{mm}$ の黒色土をブロック状に含む
- 2 黄灰色粘土 (5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い
- 3 灰色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強い しまり弱い
- 4 黄灰色粘土 (5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 20\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む
- 5 黒色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 灰色土をブロック状に含む 基本層序IIIb

畦12035



畦12035

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 50\text{mm}$ の黒色土をブロック状に含む
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 100\text{mm}$ の灰色土ブロックを含む 基本層序IIIb

畦12016



畦12016

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 10\text{mm}$ の黒色土を少量含む
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 30\text{mm}$ の灰色土ブロックを含む 基本層序IIIb

SD12022



SD12022

- 1 黑色粘土 (7.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い

畦12031



畦12031

- 1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIa
- 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 50\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む 炭化物を含む
- 3 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 20\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む 基本層序IIIb

SD12025



SD12025

- 1 灰色粘土 (7.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い

畦12032



畦12032

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性強い しまり弱い 基本層序IIIb

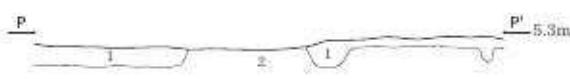
畦12023



畦12023

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い 基本層序IIb
- 2 黑色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強い しまり弱い $\phi 50\text{mm}$ の黒色土を多量に含む
- 3 灰色シルト (5Y5/1) 粘性弱い しまり弱い 基本層序IV

畦12023



畦12023

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 50\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む
- 2 黑色シルト (5Y2/1) 粘性弱い しまり弱い 基本層序IIIb

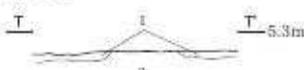
畦12017



畦12017

- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 50\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 20\text{mm}$ の灰色土をブロック状に含む 基本層序IIIb
- 3 灰色シルト (5Y5/1) 粘性弱い しまり弱い

畦12033



畦12033

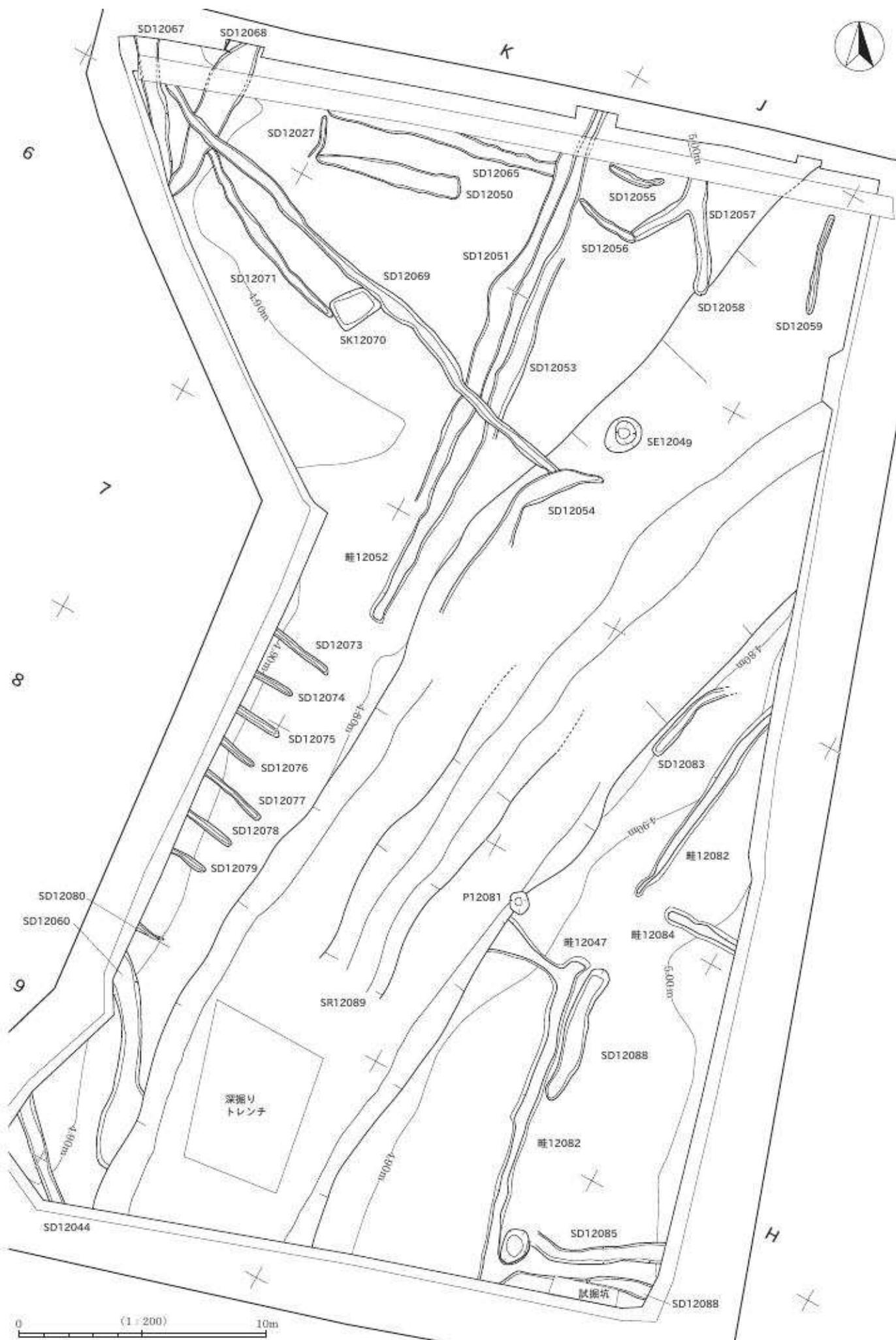
- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い 灰色土を含む
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性弱い しまり弱い 基本層序IIIb

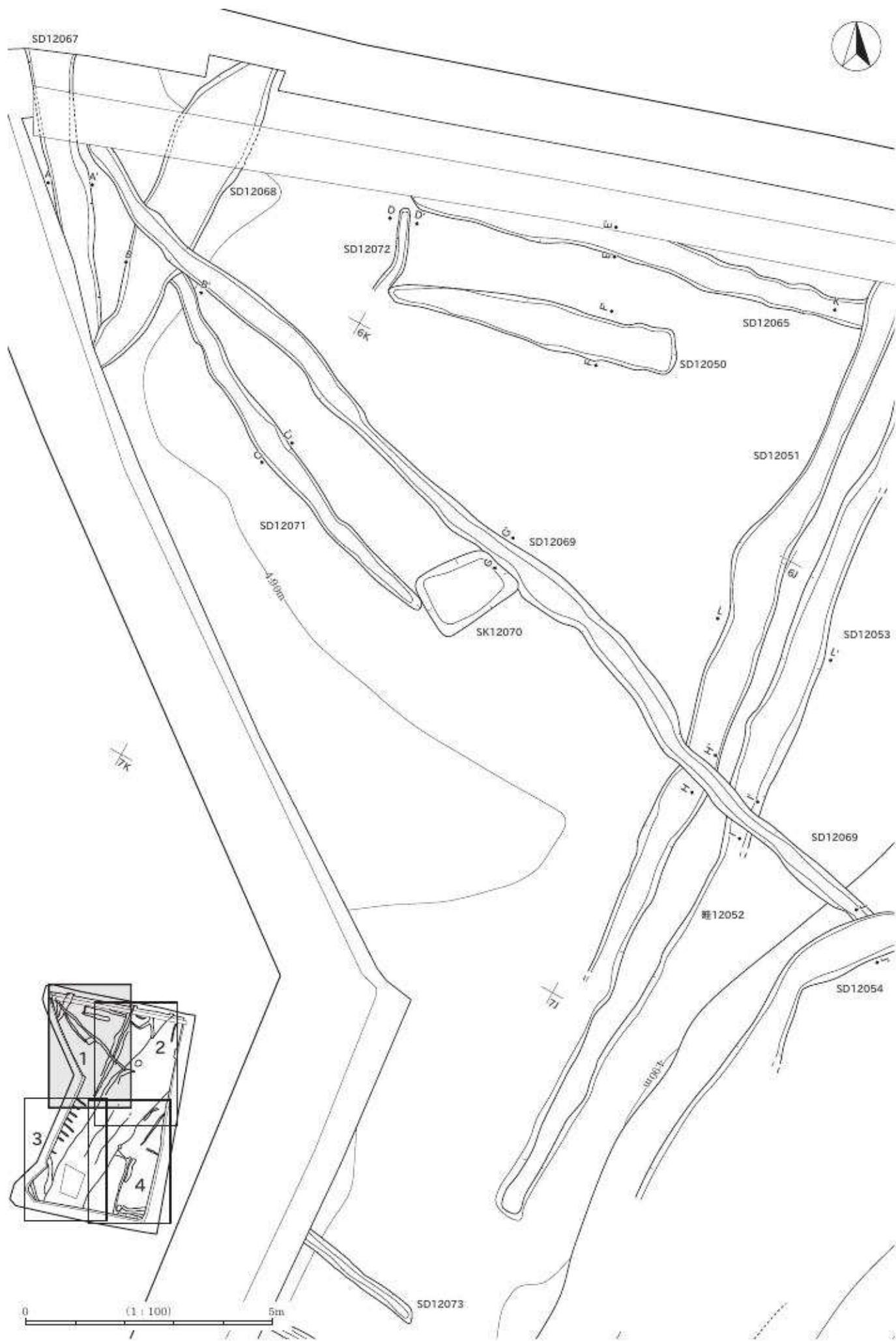
畦12018

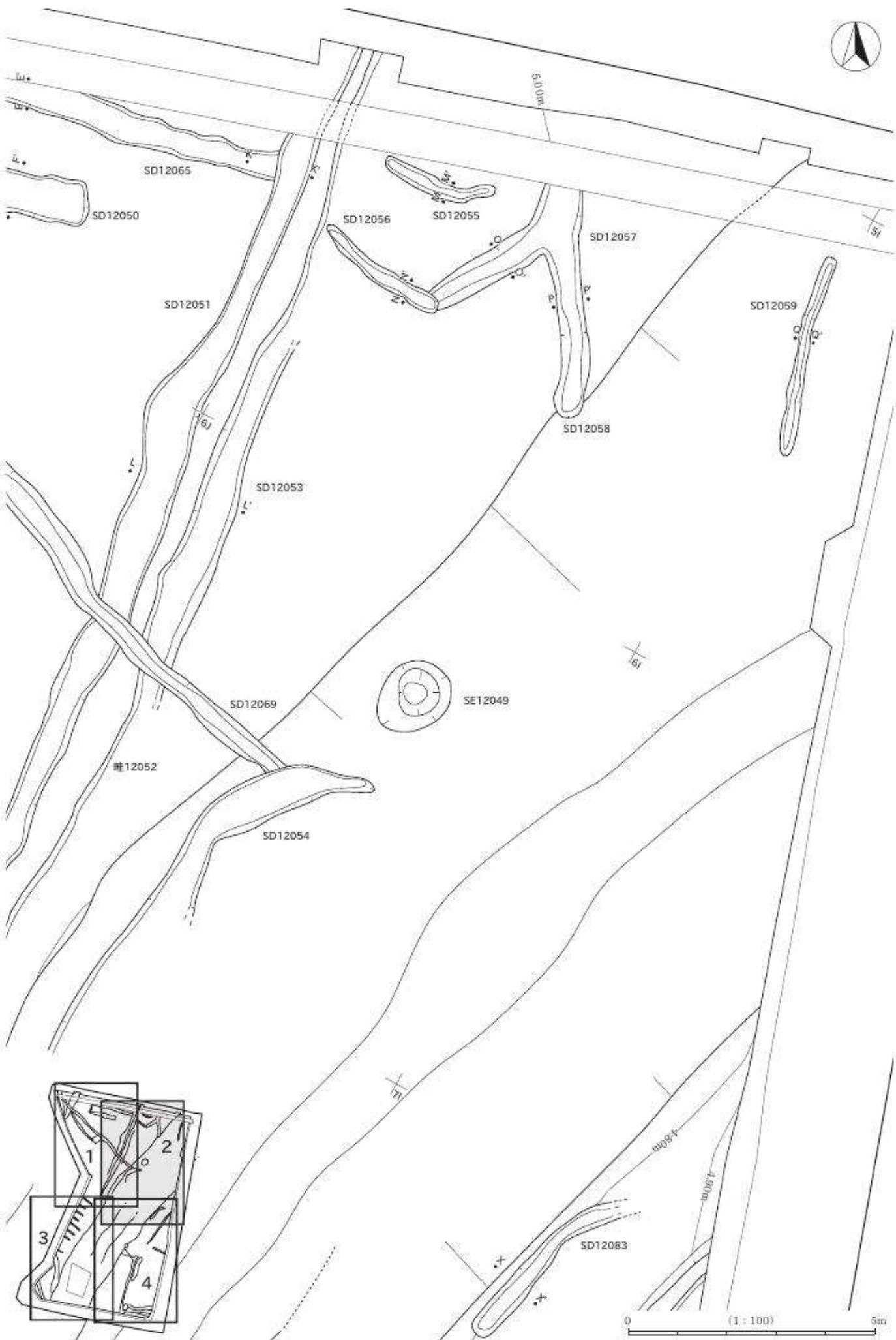


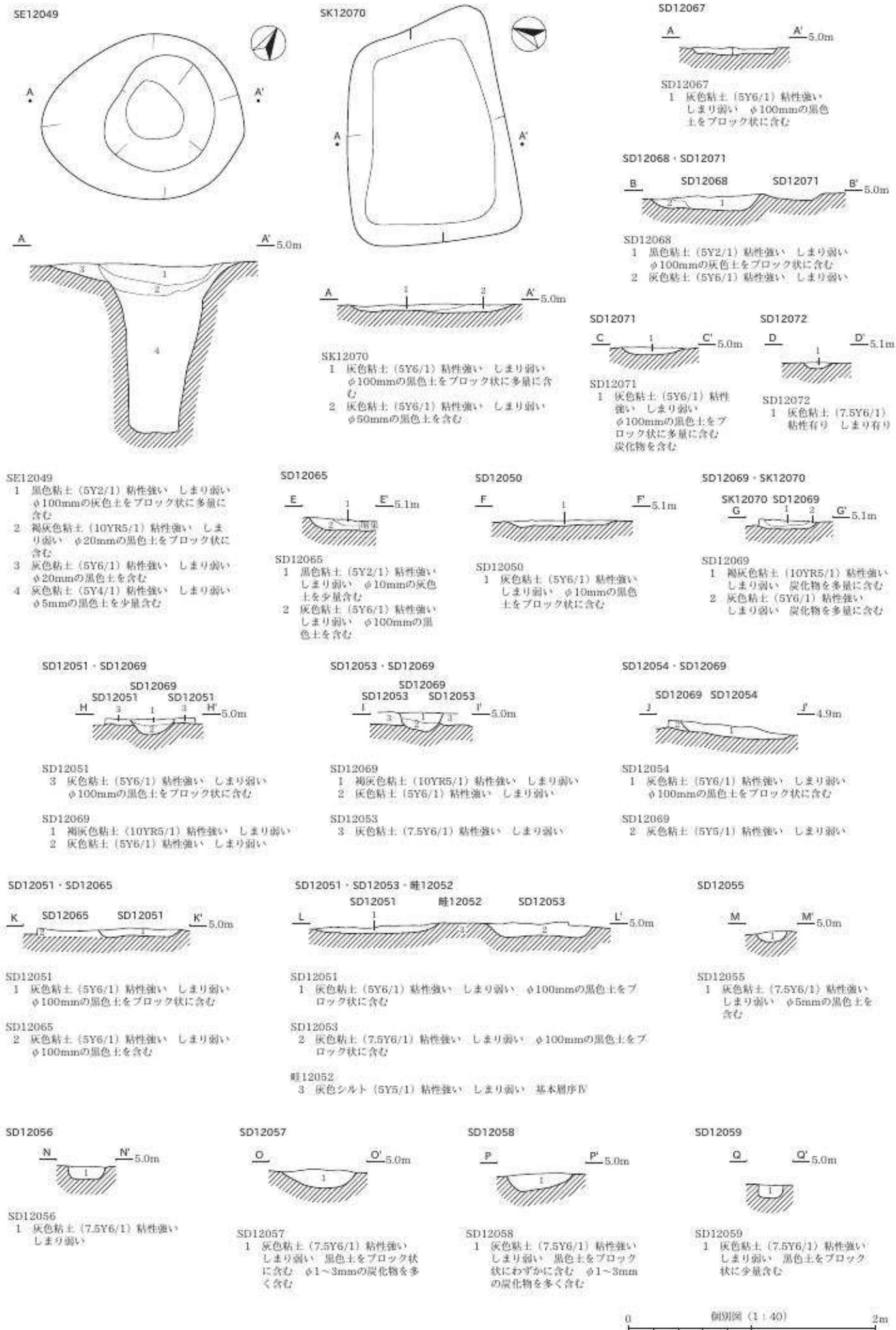
畦12018

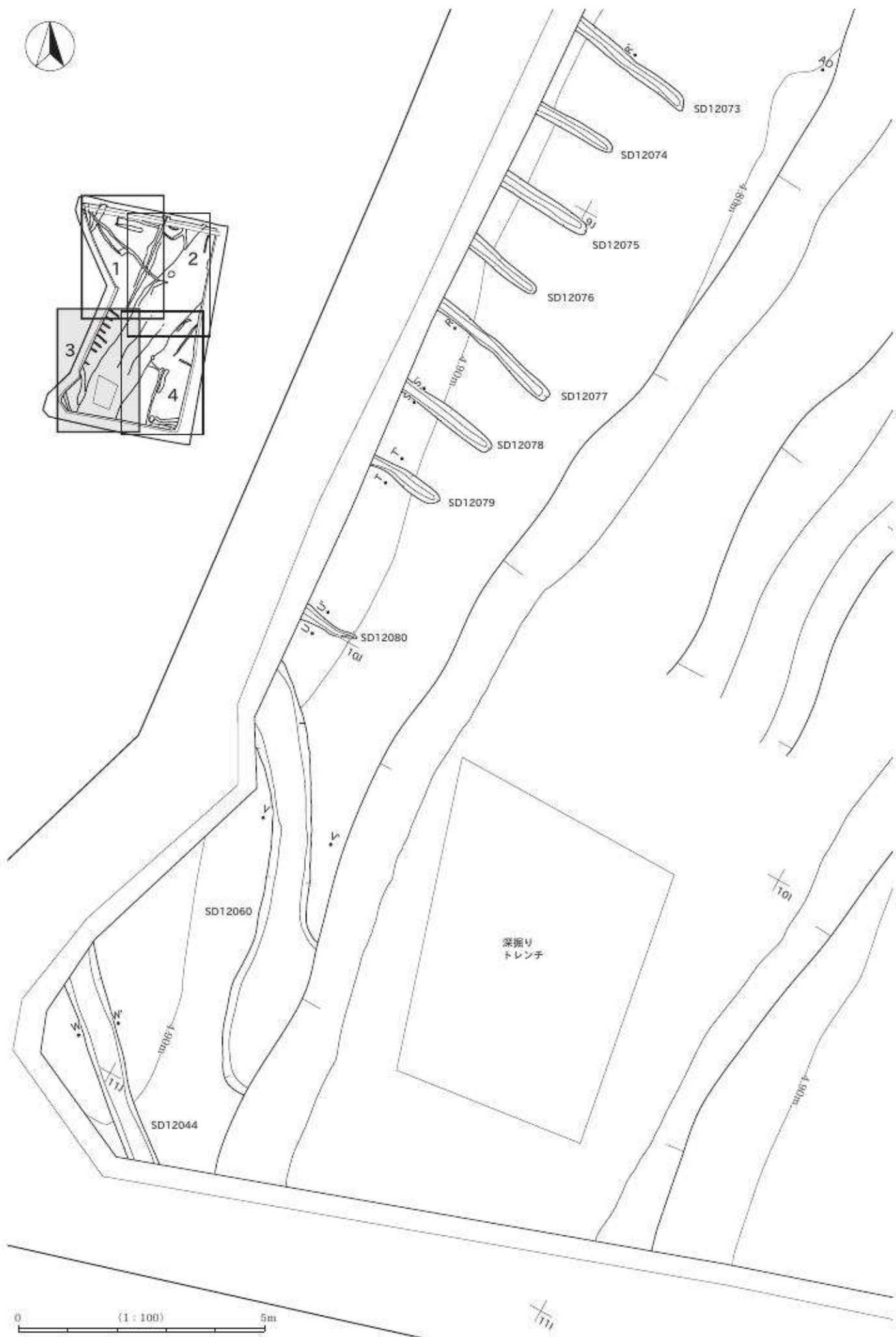
- 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性弱い しまり弱い 灰色土を含む
- 2 黑色シルト (7.5Y2/1) 粘性弱い しまり弱い $\phi 10\text{mm}$ の灰色土を含む 基本層序IIIb

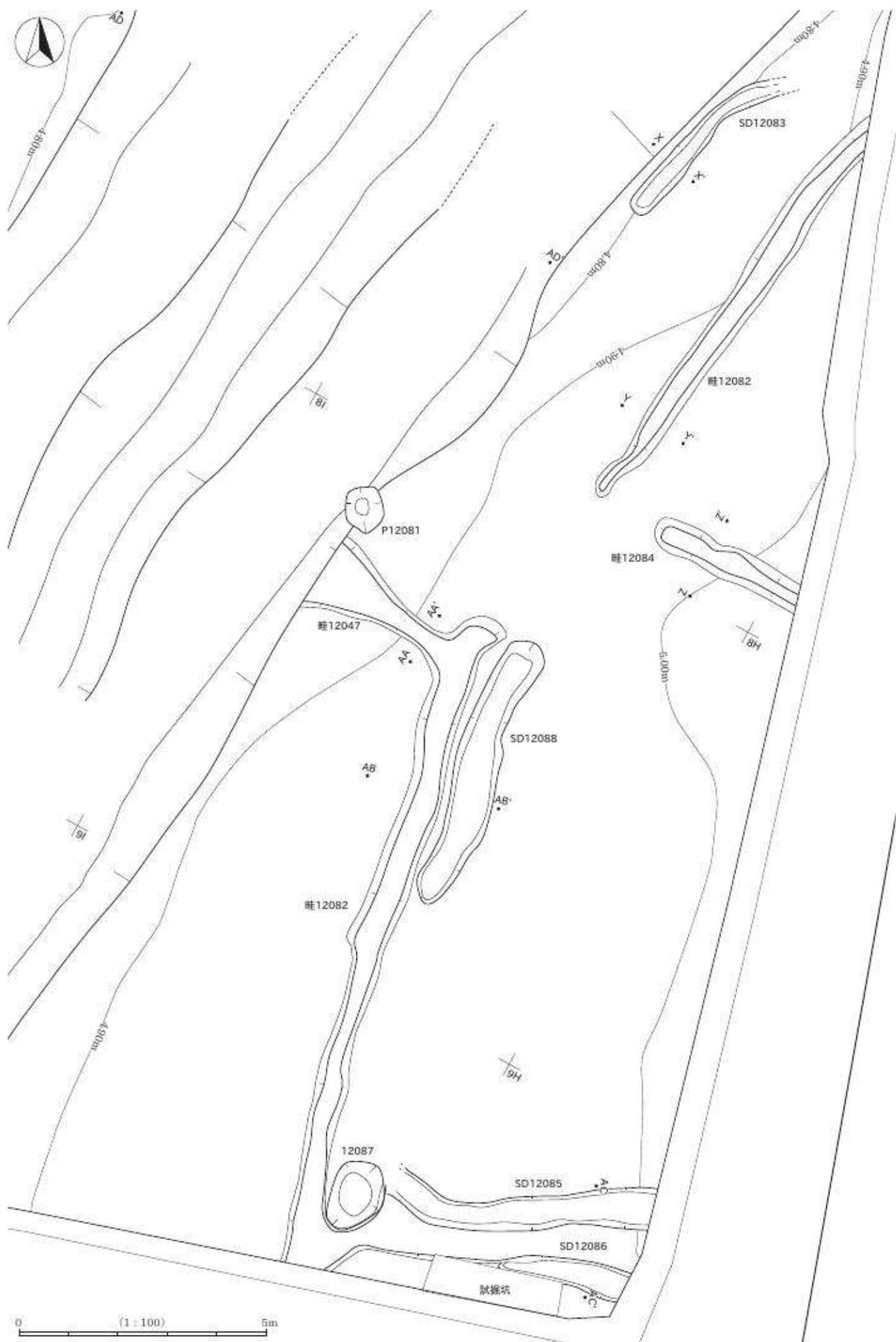






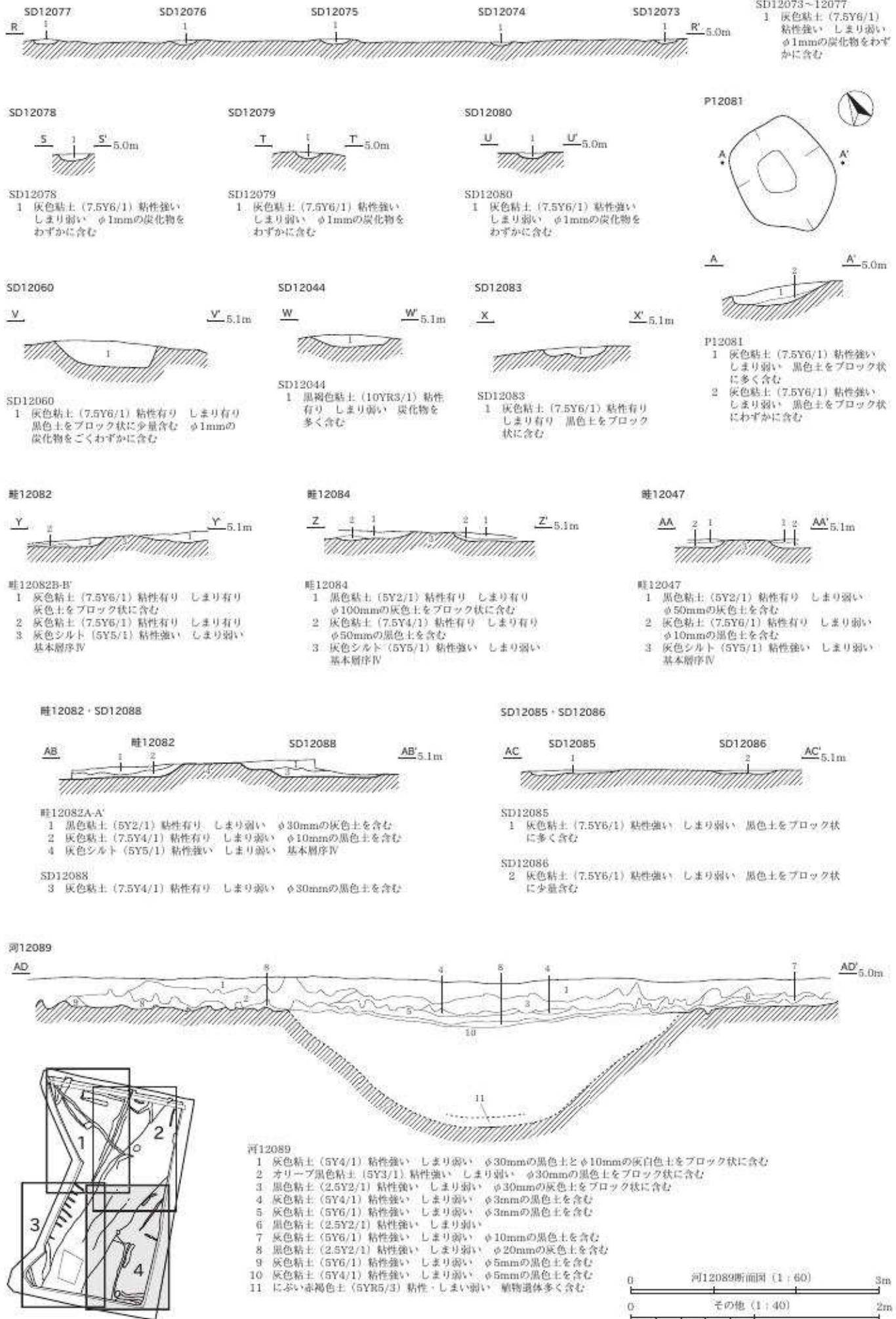






下層個別図 2

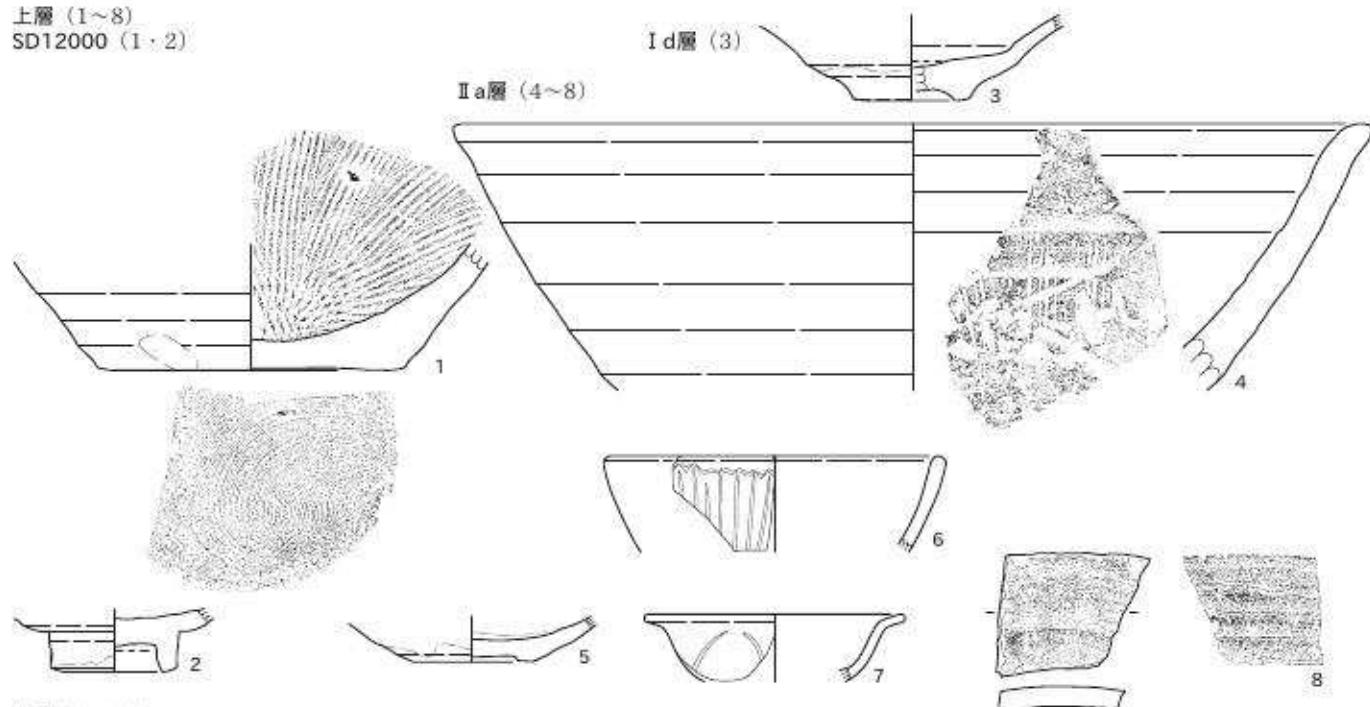
SD12073・12074・12075・12076・12077



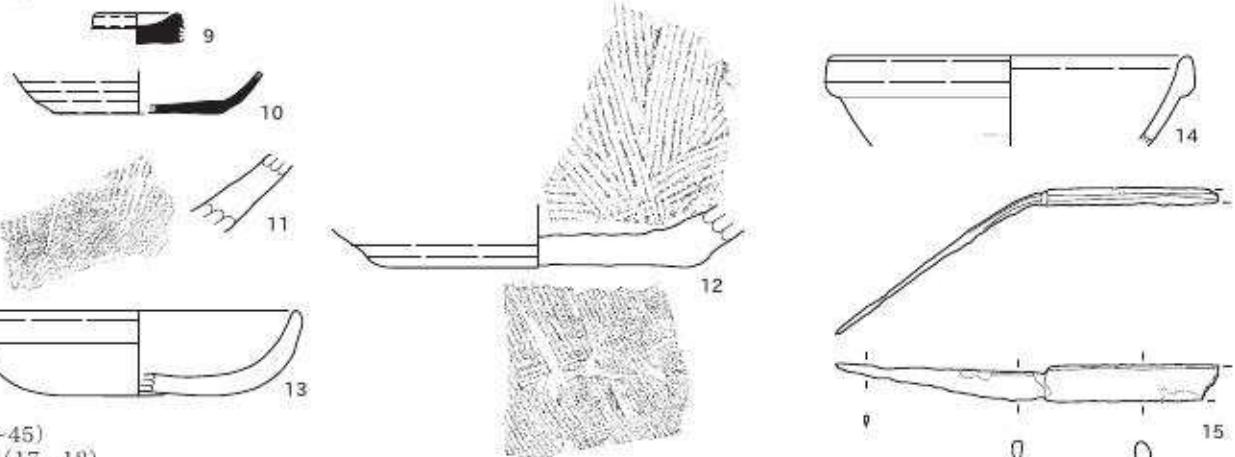
図版 22

上層・中層・下層の遺物

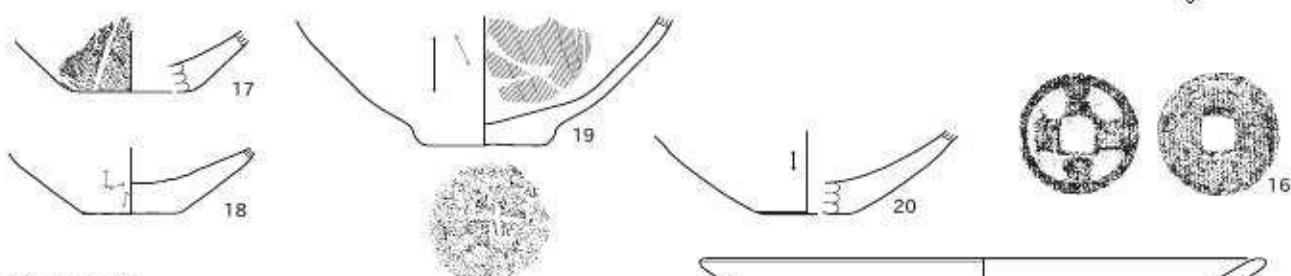
上層 (1~8)
SD12000 (1・2)



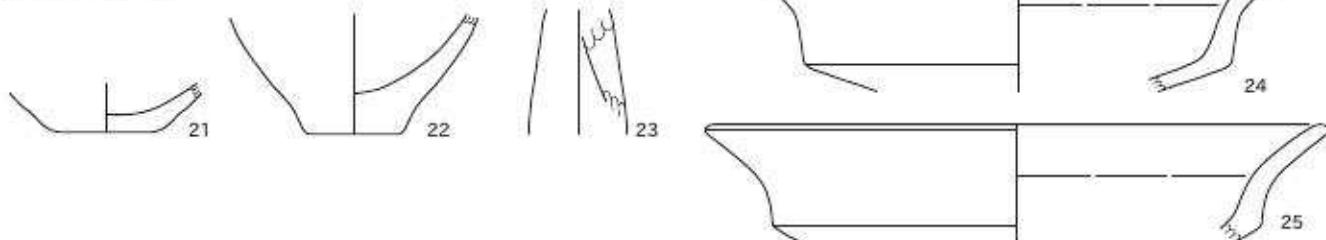
中層 (9~16)



下層 (17~45)
SD12044 (17・18)



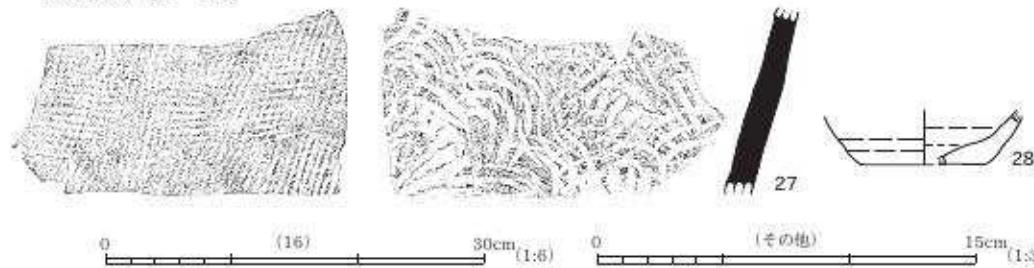
SD12060 (19~25)



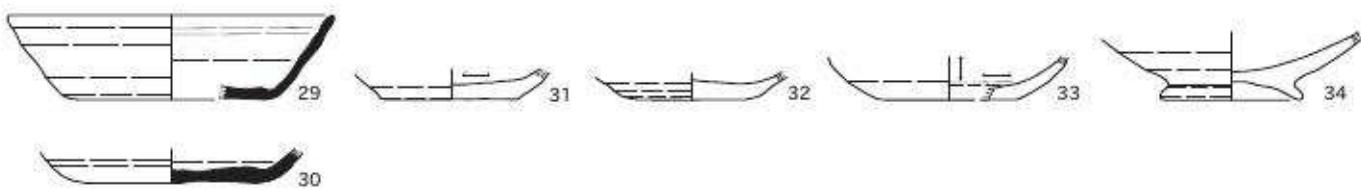
SD12067 (26)



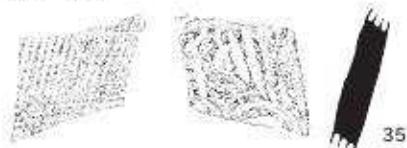
SD12068 (27・28)



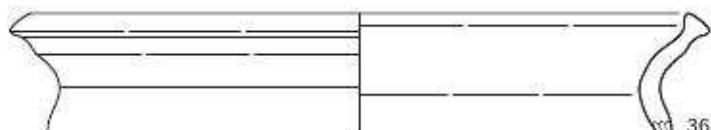
SD12069 (29~34)



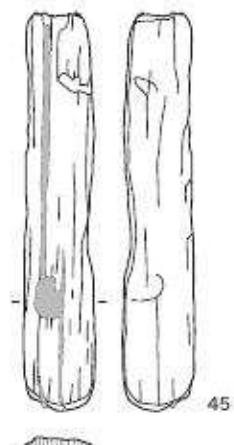
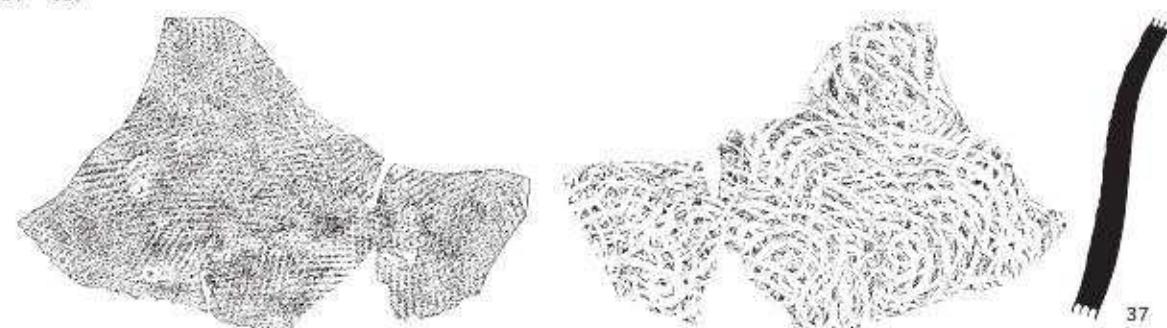
SD12071 (35)



SD12068・SD12071 (36)

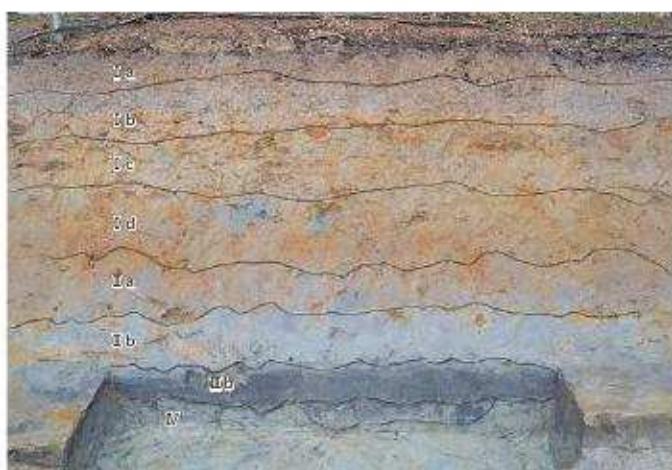


Ⅲb層 (37~45)





遺跡近景（北東から）



基本層序 A (南から)



基本層序 B (南から)



基本層序 C (南から)



基本層序 E (西から)



上層調査区全景（上が西）



上層調査区全景（北から）



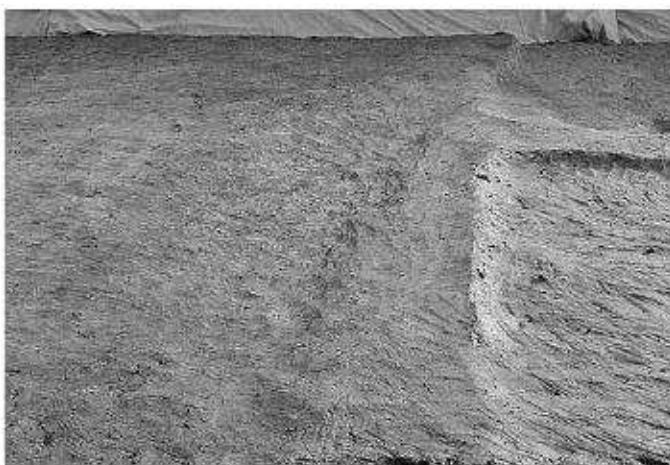
畦 12004 検出状況（南から）



畦 12001・12002 検出状況（東から）



畦 12001 断面（南から）



畦 12001 踏み込み痕 検出状況（北から）



畦 12002 断面（東から）



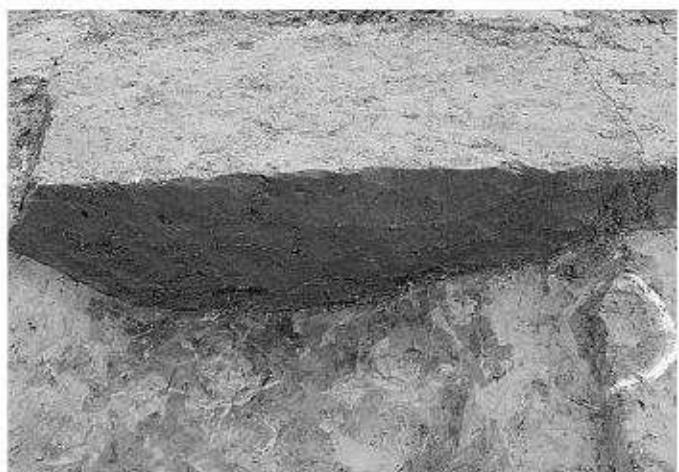
畦 12002 踏み込み痕 検出状況（南東から）



畦 12003 検出状況（南から）



作業風景



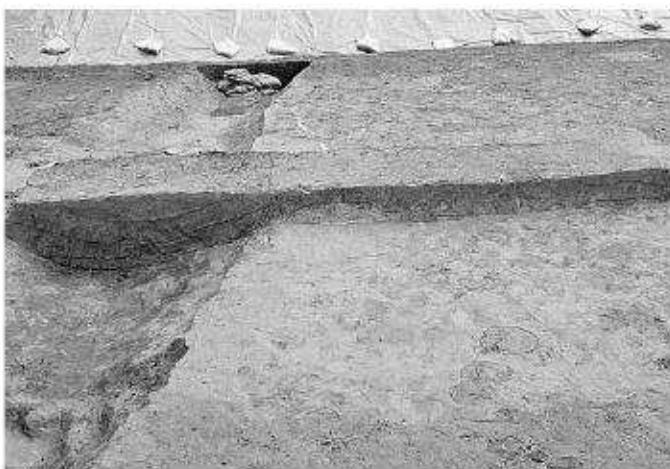
SD12000 剖面（西から）



SD12000 剖面（西から）



畦 12006・12007 検出状況（東から）



SD12000・畦 12006 剖面（西から）



畦 12006 踏み込み痕 検出状況（東から）



畦 12008 検出状況（東から）



畦 12008 剖面（東から）



畦 12005 検出状況（東から）



中層調査区全景（北から）



P12020 断面（南から）



SD12022 断面（南から）



SD12025 断面（東から）



畦 12016 断面（東から）



畦 12017 断面(東から)



畦 12018 検出状況(西から)



畦 12018 断面(西から)



畦 12023 断面(南から)



畦 12024 断面(南から)



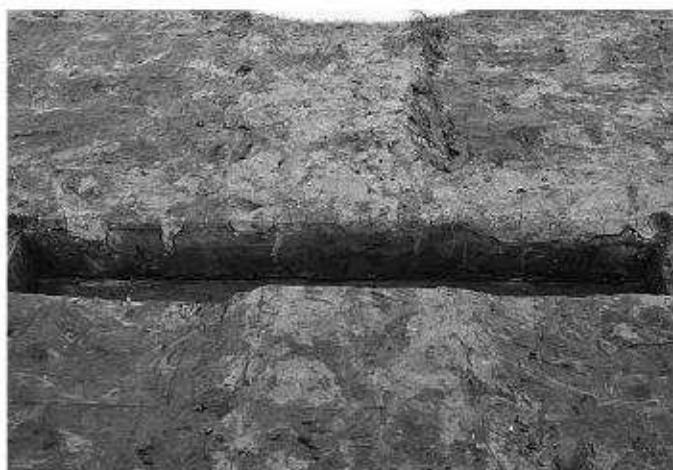
畦 12026 断面(東から)



畦 12027 断面(西から)



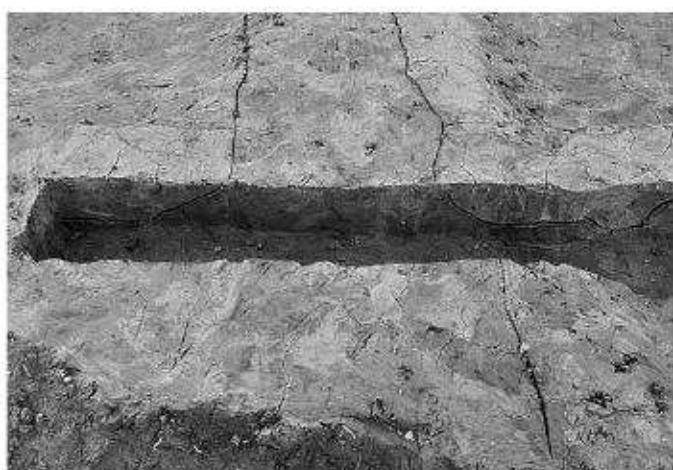
畦 12028 断面(南から)



陸 12030 断面(南から)



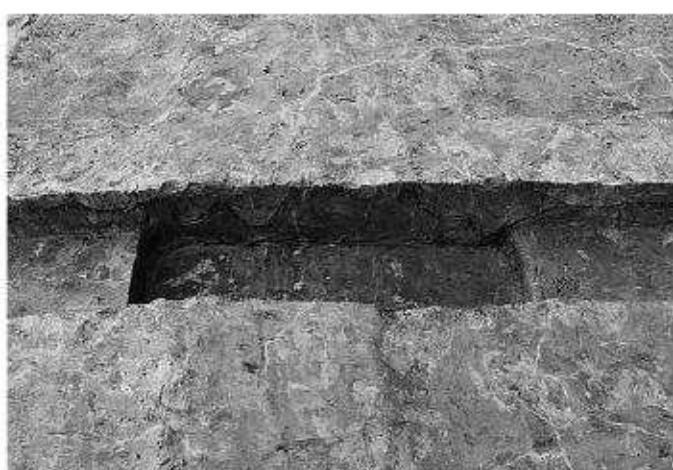
陸 12031 断面(東から)



陸 12032 断面(東から)



陸 12033 断面(東から)



陸 12034 断面(東から)



陸 12035 断面(東から)



陸 12040 断面(南から)



陸 12041 断面(南から)



下層調査区全景（上が西）



SK12070 断面（南西から）



SK12070 完掘（南西から）



SE12049 断面（南東から）



SE12049 完掘（南東から）



P12081 断面(東から)



P12081 完掘(東から)



SD12050 断面(東から)



SD12051 断面(南から)



SD12051・畔 12052・SD12053 断面(南から)



SD12054 断面(南西から)



SD12055 断面(東から)



SD12056 断面(東から)



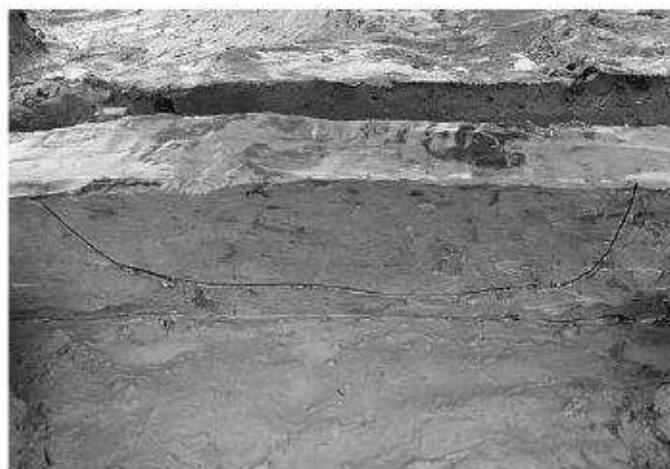
SD12057 断面(南西から)



SD12058 断面(南から)



SD12060 完掘(南から)



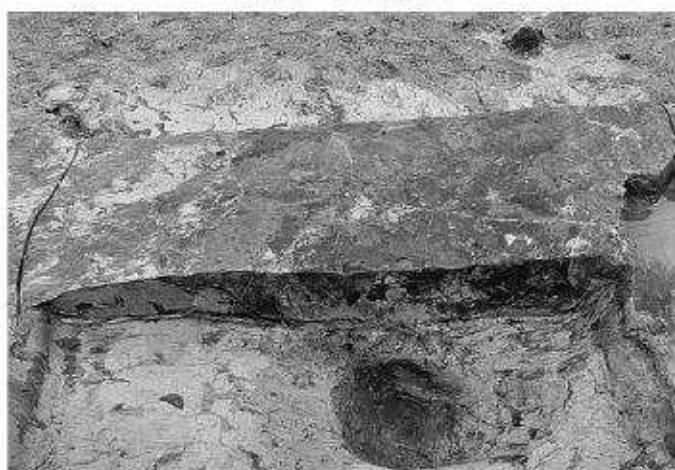
SD12060 断面(南から)



SD12065 断面(東から)



SD12067 断面(南東から)



SD12068 断面(南から)



SD12069・SD12053 断面(東から)



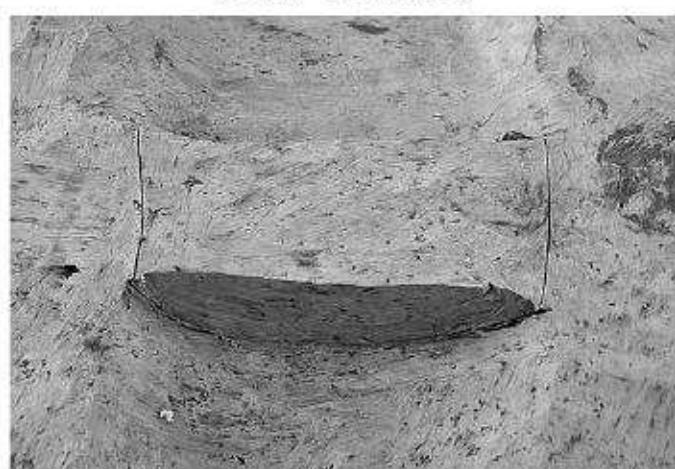
畑作溝 (SD12073 ~ 12079) (南西から)



SD12071 断面 (南東から)



SD12073 断面 (東から)



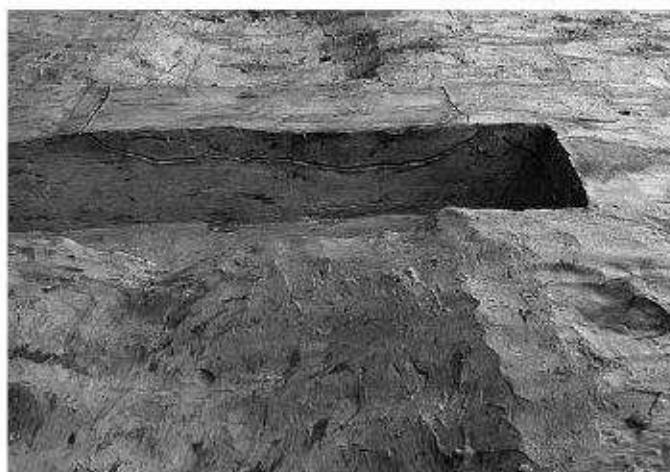
SD12074 断面 (東から)



SD12076 断面 (東から)



SD12072 断面 (東から)



SD12083 断面 (南西から)



SD12085・畔 12066・SD12086 断面 (西から)



畦 12052 完掘 (南から)



畦 12082 断面 (南西から)



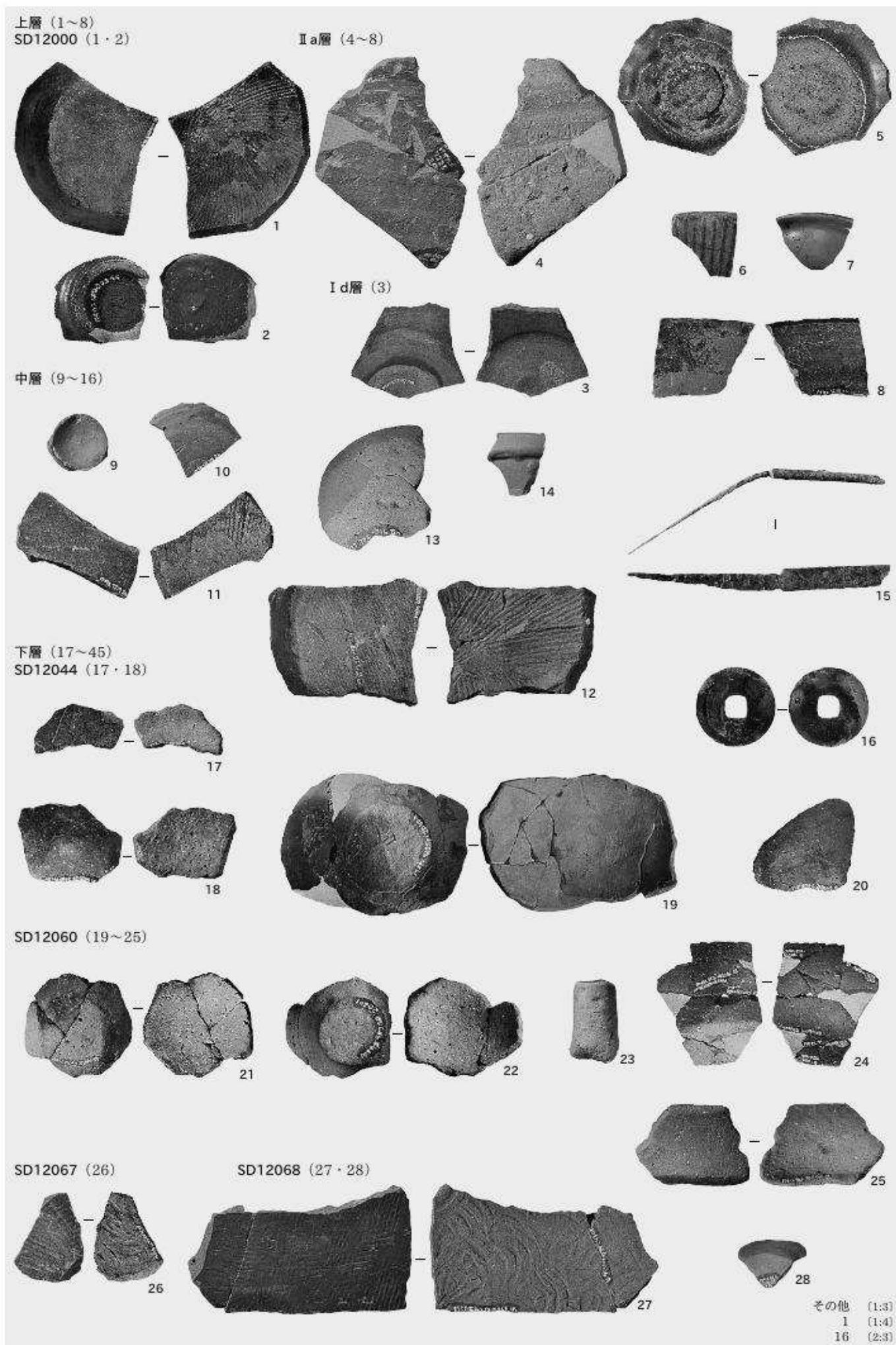
畦 12082 (南から)



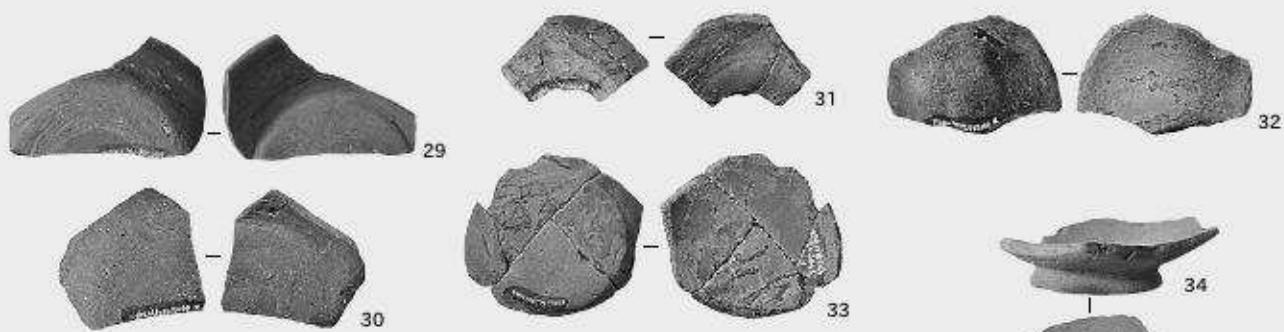
河 12089 断面 (南から)



河 12089 断面 (南から)



SD12069 (29~34)



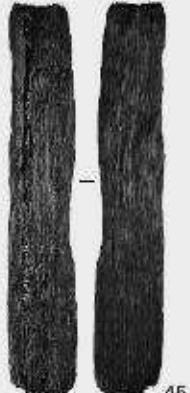
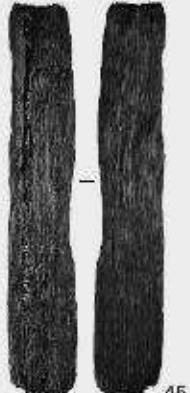
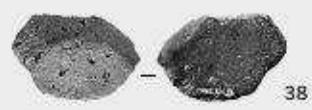
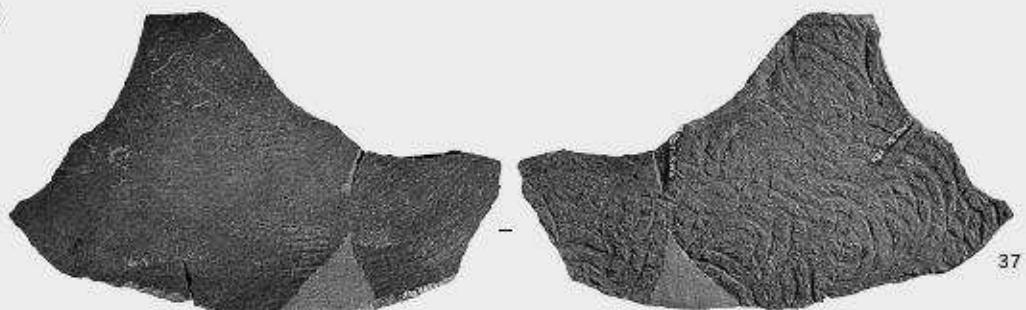
SD12071 (35)



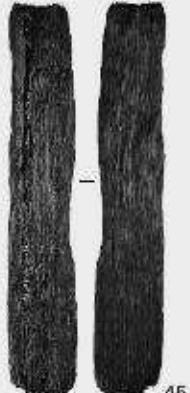
SD12068・SD12071 (36)



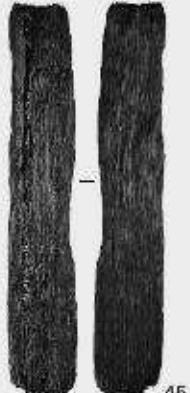
IIIb層 (37~45)



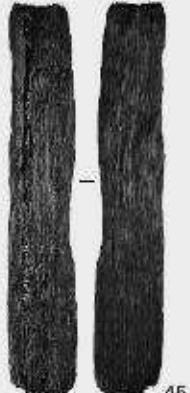
43



44



45



46

報告書抄録

| ふりがな | おかえいせき | | | | | | | |
|--------------|---|--------------|--------------|---------------------------|--------------------|---|------------------------|------------------------|
| 書名 | 丘江遺跡IV 第5次調査 | | | | | | | |
| 副書名 | 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 巻次 | 17 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第283集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 春日真実（公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）、阿部 司・高柳俊輔（株式会社吉田建設） | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL 0250(25)3981 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2019(平成31)年3月29日 | | | | | | | |
| ふりがな 所取遺跡 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 ° °' | 東経 ° °' | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| 丘江遺跡 | 新潟県柏崎市 田塚他 | 市町村 15205 | 遺跡番号 1010 | 37° 22' 07" | 138° 35' 08" | 20170801～ 20171226 | 3,675 | 一般国道8号 柏崎バイパス 建設 |
| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 |
| 丘江遺跡 | 生産遺跡 | 弥生～室町時代 | | 井戸1基・土坑1基・ピット3基・溝38条・畦37条 | | 弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・珠洲焼・白磁・青磁・唐津・瀬戸焼・美濃焼 | | 古代～中世の 畦が検出された。 |
| 要約 | 丘江遺跡は柏崎平野中央西寄りに位置する遺跡である。これまでの調査では13～15世紀・16世紀末の集落跡が検出されている。第5次調査の調査区は遺跡の北端付近に位置する。調査の結果、弥生時代後期・平安時代（9世紀後半）、平安時代末から室町時代（12～15世紀）の遺物が出土し、井戸・土坑・ピット・溝・畦を検出した。弥生時代後期と平安時代（9世紀後半）は遺物が定量出土していることから、集落の外縁にあたる可能性がある。平安時代末から室町時代は水田として利用された。 | | | | | | | |

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第283集
一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書17

丘江遺跡IV 第5次調査

2019(平成31)年3月28日印刷

2019(平成31)年3月29日発行

編集・発行 新潟県教育委員会

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

電話 025(285)5511

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1

電話 0250(25)3981

FAX 0250(25)3986

印刷・製本 株式会社ハイングラフ

〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号

電話 025(233)0321